

D O S H I S H A J I H O

同志社時報

2021.10
No.152

特集

■これからの一貫教育

■教員タル者己カ雀ノ如キ人物デアリ、 生徒ノ中ニ鶴ノ如キ

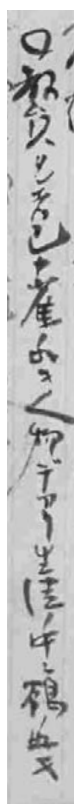
山下 智子（同志社女子大学准教授）

新島といえば、学生たちが呼び捨てにしている用務員・松本五平を「五平さん」と「さん」づけで呼び、通りですれ違う幼い小学生・足利武千代に丁寧にあいさつをしたことなどで知られる。出会う人を大切な一人と受け止め敬意を払う姿勢は、学生たちに対してももちろん徹底され、それは「教職員は学生を丁重に扱うこと」と遺言したほどだった。

そんな新島は南山義塾の開校式（1882年4月30日）で祝言を述べ、残された草稿によると教員は雀のようにつまらない小さなものに過ぎないこと、その一方で生徒の中に鶴のように飛翔する優れた大人物がいると語った（『新島襄全集1』424頁）。この新島の言葉は、取るに足らない「一羽の雀」さえ決して「神がお忘れになるようなことはない」（ルカによる福音書12章6節）とのキリストの言葉と合わせて心に留めるときに、なお味わい深く感じられるだろう。

南山義塾は新島の大学設立運動にも協力した地元有志が子弟のために資金を出し合って作った私塾だが、奇しくも現在の京田辺キャンパス付近にあり、かつてはその跡地を同志社女子大学が所有していた。

この新島の言葉を、私たちがそれぞれの場で新たな出会いへと向かう際の、新島の祝言として大切に心にとめたいと願う。



『2021年度 同志社研修・交流会』

2021年6月30日

6月30日(水)、同志社研修・交流会をZoomで開催し、220名を超える教職員の参加があった。植木朝子大学長から「ダイバーシティキャンパスの実現に向けて」の演題で基調講演が行われ、引き続き、「同志社 with コロナ」のテーマでコーディネータに圓月勝博同志社一貫教育委員会委員長、パネリストに中川好幸小学校教諭、村上準中学校・高等学校教諭、水上陽一香里中学校・高等学校教諭、そして講演者である植木大学長も加わってパネルディスカッションが行われた。



■ 大 学

ハリス理化学館同志社ギャラリー 第22回企画展 「支え合う志」をつないで 一障がい学生支援制度発足20周年ー

今出川：2021年3月19日～5月23日 京田辺：2021年7月1日～10月31日

障がい学生支援制度発足20周年を迎えるにあたり企画展を開催しました(障がい学生支援室(現スチューデントダイバーシティ・アクセシビリティ支援室)と同志社社史資料センターとの共催)。本展は、障がい学生支援制度の20年の歴史とその前史を振り返ることで、同志社がつないできた「支え合う志」を概観し、今後の多様な障がい学生支援のあり方を考える機会となりました。



次第「ヘレンケラー女史
歓迎講演会」

(同志社女子大学 史料センター所蔵)



企画展の様子
(ハリス理化学館同志社
ギャラリー2階企画展示室)



山本覚馬建白写
(同志社大学図書館所蔵)



点字用タイプライター
(スチューデントダイバーシティ・
アクセシビリティ支援室所蔵)

『京都医療センターとの学術交流等に関する包括連携協定を締結』

2021年3月23日

同志社女子大学と独立行政法人国立病院機構京都医療センターは、学術交流等に関する包括連携協定を締結し、本学京田辺キャンパスにて記者発表が行われました。本協定は教育・研究及び医療等の全般における交流及び連携を推進し、相互の教育・研究及び医療技術等の一層の進展と地域社会の発展に寄与することを目的としています。



『球技大会』

2021年6月7日



高校では、十分な感染症対策のもと、球技大会を行いました。幸い天候にも恵まれ、素晴らしい青春の一日となりました。

『七夕』

2021年7月7日



昨年に引き続きコロナ禍で様々な行事が制限される中、中学1年生の取り組みとして、七夕の飾り付けを行いました。生徒達の願いが叶えられる事を願っています。

『2021年度入学式』

2021年4月9日

コロナ禍の為、昨年は6月まで延期した入学式を今年は4月9日(金)に中学校は午前、高等学校は午後に分けて執り行いました。

参列者も各家庭1名と規制し、来校できない方の為に動画配信も行いました。

生徒達はこれから始まる同志社香里での生活に心弾ませていることだと思います。



八田総長理事長の祝辞



中学生の宣誓



高校生の宣誓

■女子中学校・高等学校

『母の日礼拝』

2021年5月13日

5月13日(木)の母の日礼拝に向けて、中高宗教部員が中心となりカーネーション徽章の販売と献金を行いました。生徒同士が協力し合い、一生懸命行事に取り組んでいる姿が印象的でした。礼拝当日は日本基督教団ゴスペルハウス教会の金度亨先生をお招きしお話ししていただきました。



前日までのカーネーション徽章と献金の会計



礼拝当日の献金呼びかけ



徽章の販売・献金の様子



礼拝前の生徒達



母の日礼拝講師奨励

『中学生部紹介』

2021年4月8日



コミュニケーションホールにおいて、各部が工夫をこらしての部紹介を行いました。

『日本文化の日』

2021年6月21日



日本文化に触れるため、一日学校生活を浴衣で過ごし、昼休みには「マスク着用浴衣で集合写真」の企画を生徒会主催で、コロナ禍の中、日程を分散して行いました。
(6月21日(月) 高校3年生、22日(火) 高校2年生、24日(木) 高校1年生、28日(月) 中学生)

■国際学院

初等部：『新一年生の学校生活』

2021年6月

新一年生が国際学院に入学して、2ヵ月が経ちました。子ども達は、初めての英語の授業にも慣れてきて、積極的に発言する様子も見られるようになってきました。探究学習では、学校探検をして自分が通う場所のコミュニティについて理解したり、朝顔を育てて命の大切さと生き物を育てる責任を学んだりして、意欲的に学習に取り組んでいます。新型コロナウイルスの影響で、様々な制限がある中でも、前向きに活動する子どもたちの姿が日々輝いています。



国際部：『Miyako Ecology Center』

2021年4月7日

In April, we, G5 students went to the Miyako Ecology Center. We went there to learn more about plastic pollution for our exhibition. We all knew a lot already, but we wanted to know more about the ways in which Kyoto tries to help our planet. We found more information that really helped us be even more aware about how dangerous and big the problem of plastic pollution is. It was interesting to find new ideas on how we, and even you, can help the environment ourselves.



『花の日礼拝』

2021年5月19日

小学校のハーモニーウィーク(良心探求ウィーク)の一日として、花の日の礼拝を行いました。私たちが多くの人の支えの中で生きていることを思い、まわりの方々への感謝を新たにする時となりました。例年は子どもたち一人ひとりが持ち寄った花を花束にしていますが、今年は花の鉢植えを用意して、手作りのカードとともに日ごろお世話になっている方々に感謝のメッセージを届けました。



『花の日礼拝』



6月16日(水)に花の日礼拝を行いました。園児は各家庭から花束を持ち寄り、ホールに捧げました。昨年はコロナ感染防止対策として時間差で各学年が別々にホールや保育室で礼拝を行いました。今年は感染対策を十分にとったうえで、全園児がホールに集いたくさんの花束を前に聖話を聞き、神様がいつも私たちを守ってくださり、美しい花をたくさん咲かせていただき、すべてのものに命を与えてくださったことに感謝の気持ちを込めてお祈りを捧げました。特に年少組にとっては、初めて聖話を聞き、静かな雰囲気の中全園児で心をつけて礼拝をする貴重な機会となりました。

『七夕発表会』



7月2日(金)、幼稚園リチャーズホールにて七夕発表会を行いました。感染対策をとりながら時間差登園を行い、舞台上で1学期間の遊びや生活のまとめとして、それぞれが合奏や表現、歌の発表を披露しました。昨年は観客なしで園児だけで行った発表会ですが、今年は園児1名に対して保護者1名が会場に入り、子どもたちが力を発揮する姿を見てもらうことができました。昨年に引き続き、コロナ禍において数々の制約がありましたが、その中で試行錯誤をしながら様々な活動を行い、友達と頑張ったり、一つのものを作り上げていったりする経験を経て成長できたことを嬉しく思います。

インタビューの2人

私の志

(本文4〜7頁)

金井一記さん

1985年京都府生まれ。同志社中学・高校を経て2008年、同志社大学政策学部卒業。同年、株式会社キーンズ入社、2010年1月退職。2011年2月、母方の実家である蕎麦の老舗・本家尾張屋に入社。2013年3月退職。2017年10月、長野県上伊那郡辰野町に移住。2018年11月、辰野町初の古着屋「Otto & (おとこ)」をオープン。2020年6月、店内に「DIY Café」を設置。



うつで仕事を辞めようかと悩んだ時、一緒に同志社で過ごした幼なじみから言われました。「固定観念を捨て、もっとフォーカスして生きた方がいい」と。今は長野県の古民家に移住して古着屋その他の仕事をしながら、持続可能な生き方を模索中です。

河野美知さん

1977年京都府生まれ。2001年、同志社大学経済学部卒業後、山陰中央テレビジョン放送株式会社に入社。報道部に所属し、「TSKスーパーニュース」のキャスターを8年間担当。2003年、FNSアナウンス賞奨励賞受賞。2010年退職後、フリーアナウンサーとして活動。2011年、「神社ガールズ研究会／社ガール」・「出雲神話☆語る会」を設立、県内外に出雲地方の歴史・文化を発信中。2016年、「八百万マーケット」を運営する「株式会社ちいきおこし」を設立。2017年より代表取締役。



松江で地域おこし事業に携わっています。学生時代は経済学部。ゼミの調査で京焼の窯元を訪ねた時に触れた、「伝統は使われなければ残らない」という言葉を思い出しています。

同志社 時報

No. 152

2021.10

私 の 志 INTERVIEW

長野県の山里から社会を変える 金井一記さん

自分も家族も、店も町も。持続可能な生き方を模索する。

自分が楽しいと周囲も楽しい 河野美知さん

人と人を繋いで神話と歴史のまちを再生する

特 集

これからの一貫教育

座談会 選ばれる学校とは？—2030年代に求められる中等教育を探る

富田亮／松原和之／岸田康子／竹山幸男

座談会 同志社の一貫教育について

大久保雅史／清田れい／細野航平

私の研究・私の授業

ハイブリッドゼミで楽しく学ぶ—新任教員として—

廣野 俊輔

目 次

〈表 紙〉

京田辺キャンパス夏の夕暮れ
鎌田伸一(同志社中学校・高等社
校事務長)
辻英俊(株式会社上原フォートス
スタジオ)

〈表紙裏〉

新島 襄の言葉
山下智子(同志社女子大学准教授)

〈口 絵〉

- 法人 『2021年度 同志社研修・交流会』
- 大学 ハリス理化学館同志社ギャラリー 第22回企画展
「支え合う志」をつないで 一障がい学生支援制度発足20周年—
- 女子大学 『京都医療センターとの学術交流等に関する包括連携協定を締結』
- 中学校・高等学校 『球技大会』／『七夕』
- 香里中学校・高等学校 『2021年度入学式』
- 女子中学校・高等学校 『母の日礼拝』
- 国際中学校・高等学校 『中学生部紹介』／『日本文化の日』
- 国際学院 初等部：『新一年生の学校生活』／国際部：『Miyako Ecology Center』
- 小学校 『花の日礼拝』
- 幼稚園 『花の日礼拝』／『七夕発表会』

「私の志」インタビューの2人

人工知能と第4次産業革命…労働は消滅するのか？
物理の視点で探求する生命現象の本質

二神 孝一
貞包浩一朗

24

未来をキャリアで拓く

中村 艶子

26

表現活動を通じた人間形成と保育者・教師の役割

竹井 史

28

ICTを活用した和歌の学習

吉田 桂子

30

特別 寄稿



「商法上ノ大王」渋沢栄一と同志社 新島襄との交遊

本井 康博

34

新刊 紹介

同志社を掘る―創立百五十年に向けて―・本井康博著／記憶と慣行の西洋古代史―エジプトからローマまで―・中井義明・堀井優編著・岸本廣大他著／「戦後民主主義」の歴史的研究・出原政雄・望月詩史編著・林葉子他著／身体と環境をめぐる世界史・服部伸編・大谷実・穂山洋子他著／民事訴訟の簡易救済法理・川嶋四郎著／石橋湛山の〈問い〉日本の針路をめぐる・望月詩史著／テレビドラマと戦後文学 芸術と大衆性のあいだ・瀬崎圭二著／ホリスティック教育講義・中川吉晴著／16・17世紀の数学的音楽理論・大愛崇晴著／超大国 中国のあゆみ・厳善平著／虫たちの日本中世史『梁塵秘抄』からの風景・植木朝子著／議会制度とその運用に関する比較研究・武藏勝宏著／会計規準の統合と分岐 EUとドイツのなかのIFRS・佐藤誠二著／百人一首を読み直す2―言語遊戯に注目して―・吉海直人著／フォルテピアノノ19世紀ウィーンの製作家と音楽家たち・筒井はる香著

41

建物案内 繫真館（同志社香里中学校・高等学校）

49

建物案内 継志寮（同志社大学）

50

同志社の逸品 幻のヴォーリス建築―一九三五年同志社創立六〇周年記念計画―

同志社社史資料センター

51

レクチャー

2021年度同志社大学アメリカ研究所春季公開講演会

「優生学運動とその遺産―身体管理のポリティクス―」

小野 直子

55

同志社創立150周年記念事業がスタートしました

法人事務部創立150周年記念事業事務局

62

学生の多様な個が輝くキャンパスを目指して

―

阪田真己子

64

― スチューデントダイバーシティ・アクセシビリティ支援室開設 ―

牛渡 克之

66

「オーケストラ」という授業について

―

篠原 貴明

68

創造的な学びで「教科の壁」に風穴をく数学×地理コラボの取り組みく

―

中 優己

70

高校生が語る「人生」とは…?

―

米澤 利聡

72

くボードゲームを取り入れた主権者教育へのチャレンジく

―

中 優己

70

スプリングイングリッシュキャンプ

―

米澤 利聡

72

同志社ナウ

オープンキャンパス2021開催

―

大学入学課

74

看護学研究科の助産学生チーム、「日本助産学会賞」を受賞

―

眞鍋えみ子

75

生と性と死の学びくデジタル全盛時代に敢えてく

―

田邊 利幸

76

コロナ禍におけるクラブの試合観戦対応について

―

新井 翼

77

― 香里中高サッカー部の取り組み ―

―

吉田 和高

78

コロナ禍の入試広報活動

―

古城 正裕

79

北信越インターハイに単複出場、一年生の挑戦

―

西村 孝次

80

同志社国際学院初等部 家族でスクールツアー

―

江藤 ブラウン多恵

81

諦めなければ、何でもできるく音楽withコロナく

―

江藤 ブラウン多恵

81

● 本誌では学校法人同志社の各学校名から「同志社」を省略して、左記のとおり表記しています。

大学Ⅱ同志社大学、女子大学Ⅱ同志社女子大学、中学校・高等学校Ⅱ同志社中学校・高等学校、香里中学校・高等学校Ⅱ同志社香里中学校・高等学校、女子中学校・高等学校Ⅱ同志社女子中学校・高等学校、国際中学校・高等学校Ⅱ同志社国際中学校・高等学校、小学校Ⅱ同志社小学校、国際学院初等部・国際学院国際部Ⅱ同志社国際学院初等部・同志社国際学院国際部、幼稚園Ⅱ同志社幼稚園

● 執筆者等の役職・職位は2021年10月1日現在、大学広報課が把握している範囲で表示しています。

長野県の山里から社会を変える

自分も家族も、店も町も。 持続可能な生き方を 模索する。

グローバル企業のトップ営業職から京都の超老舗の後継者候補に。そして長野県上伊那郡辰野町の山里へ移住。現在は築150年の古民家で古着屋やライブハウスを営み、地域おこしにも参加中。自由な生き方を選択した背景を伺いました。



かない かずき
金井一記さん
古着屋

異なる世界を体験して
うつを克服

——卒業後の歩みをお聞かせください。

金井 学生時代は資本主義の申し子みたいな人間でした。就職後は、配属されたシーケンサーの営業部門で、同期の中でもトップを達成しました。でもリーマンショックの影響は大きく、12カ月連続で目標達成をした後に少し成績が落ちると、たちまち肩を叩かれた。母の実家である本家尾張屋を将来的に継ぐ話もあったので、1年10カ月で退職しました。尾張屋では仕事に手ごたえもあったのですが、社長と経営方針が合わなくなり、結果的にうつになってしまったんです。

——それで尾張屋を辞められたのですね。

金井 それから住み込みの季節労働者です。冬から春は沖縄でサトウキビの収穫、その後は月ヶ瀬で茶摘み、夏は富士山の山小屋、秋は北海道で鮭やホタテ漁。すべて貯金できるし、どんなに辛くても2、3カ月先には終わりが来る。そしてお金が貯まれば海外へ行く。このスタイルが当時の僕の精神状態には良かった。生きている実感を感じさせてくれる人にもたくさん出会えました。会社時代に自分の価値基準にしていた頭の良し悪しな

どは関係のない、新しい世界を見ることができました。海外でもいろんな経験をして、うつが治りました。怒りやすい性格も穏やかになった。そういう生活を4年半送り、そろそろ落ち着きたくなつてご縁があったのが長野でした。

——辰野町は移住者受け入れに積極的なのですか。

金井 スーパー公務員やUターン組の1級建築士などが軸となり、移住施策を精力的に進めています。彼らの働きによつて移住世帯数は大きく増え、町の空き家バンクに登録した160軒の8割が成約済み。全国でも稀な成功例です。東京からバスで3時間と便利な立地だし、今は何かが起こりそうという予感に惹かれて、クリエイティブな人たちの移住も多い。アメリカの大手パケーションレンタル企業も視察に来るほどの、可能性を感じさせる町になりつつあります。

——金井さんも地域おこし活動に参加しておられるのですか。

金井 僕はあくまでも民間にいて、面白いことがあれば協力隊や、地域おこしの会社などと一緒に活動する立場です。「町の遊撃手」と呼ばれています。2019年には、一日限定の「トビチ商店街」という祭りに参加しました。シャッター通り

になつてゐる下辰野商店街の空き店舗17軒を活用し、10年後の商店街の賑わいを一日だけ再現するイベントです。僕はそのうちの1軒を借りて、バーとカフェとライブハウス、古着屋をしました。10年後の姿を決めれば、後はそれに向かつて進むだけという共通ビジョンを持てます。県内外から4000人が訪れ、手ごたえを感じました。

心を病みやすい 社会構造を変えるために

——店名の由来を教えてください。

金井 移住して生活設計を考えた時、好きな音楽と、十の小さな仕事で生きようという決めました。会社勤めの時のように、利益追求に汲々とする仕事はしなくなかった。それに一つずつが小さな商いならランニングコストも少なくてすむし、ランニングコストを減らせば、それだけ自由な時間が増えます。「O t o & (おとと)」は漢字で書くと「音十」。「十」は10だし、「プラス」にも見える。だから音十サムシングでもあるし、音と十個の仕事でもあるんです。

——仕事はいつになりましたか。

金井 好きな古着屋に始まり、DIYカフェ、ゲストハウス、シェアハウス、テ

ニスコーチ、庭の剪定、ライブハウスなど、10に近づいています。宿泊と飲食の代金は寄付制です。少なめに寄付してもいい、少しでも得をしたと思つて帰つてほしい。そういう人たちが次に友人を連れてきてくれます。寄付されたお金を適正に使つてゐる証拠として、レシートの公開もしています。これで生活はほぼ回つています。

——自由な生き方を追求する根源を教えてください。

金井 僕もそうでしたが、僕の妹も、同じく同志社に行つたことも、社会に出るからうつになりました。これはやつぱり、社会がおかしいと思えませんか。心を病みやすい社会構造を変えたい。僕は一度完全にドロップアウトして、今は再び社会の歯車と噛み合う場所を探しているところです。そこで思うのは、まず自分の幸せが大切だということ。そして自分のインナーピースを少しずつ周囲に広げていく。それがペイフォワードとなり、世界に繋がっていくはずと信じて行動したいです。

——どうすれば幸せになれるですか。

金井 自分から先に与えることです。最近の若者はセンスがいいので、こちらが見返りを期待して手を差し出すと、魂胆

に気づいて引かれます。まずこちらから邪心を捨てて飛び込む。裸で生き続ける。今の課題をお聞かせください。

金井 つい最近、結婚しました。十の生業で、一人で生きていけるのは分かりました。次は二人で、そして将来子どもが生まれて三人で生きていけたら、まさに持続可能な生活です。心も持続可能になれる。そんな生き方にトライしたい。これは物心ついた頃には既にバブルが崩壊していた僕たち世代の戦い、持たざる者の戦いです。そして食料自給率の高い土地で暮らせば、サバイバルな状況になつても生きていけそうです。それは人間として根本的な、生きる自信になります。——人生に悩む若い読者にメッセージをお願いします。

金井 「やばそうなら、すぐ逃げや」と言いたいですね。社会や環境に違和感を感じたら、その感覚を大切にしてほしい。資本第一主義はもう崩壊寸前です。今の社会が壊れて次に何が来るかは分かりませんが、そのときに備えて身のこなしを軽くしておくいいと思います。

(2021年7月1日、長野県にて)

自分が楽しいと周囲も楽しい 人と人を繋いで 神話と歴史のまちを 再生する



このまちな
河野美知さん
まちづくり会社経営

学生時代に「伝える面白さ」を知ってテレビ局に入社。現在は松江市で地域の魅力を発信しながら地域おこしの会社を経営する卒業生に、志を伺いました。

ゼミで学んだ
伝えることの楽しさが原点

——同志社時代の思い出をお聞かせください。

河野 西村卓先生のゼミで京都の経済史を学びました。フィールドワークで金平糖屋や京焼の窯元を訪れ、伝統が守られてきた歴史を取材して卒論に。調査を通して人の思いを伝える仕事の面白さを知ったのが、報道の道に進んだ原点です。

——山陰中央テレビではどんなお仕事されましたか。

河野 最初は警察担当の記者として鍛えられ、のちに「スーパーニュース」という夕方の帯番組のキャスターを務めました。夫が選挙に出馬するのを機に退職し、フリーアナウンサーなどを経て、いつしか地域おこしに関わるようになりました。

——松江・出雲との関わりを深めていかれる過程を教えてください。

河野 昔から神社巡りが好きなんです。出雲国風土記に登場する神社だけでも約400社。この歴史的な地域をライフワークとして掘り下げたいと、テレビ局時代から思っていました。そこで2011年、古事記や出雲国風土記に関わる神社や史

跡を巡る女性のサークル「神社ガールズ研究会」、略して「社☆ガール」を立ち上げました。現在メンバーは約80名いて、神社巡りや会報誌の発行、神社巡りガイドなどをしています。島根県神社庁から依頼されて庁報に寄稿したり、行政からもガイドの依頼が来たりしています。

——株式会社ちいきおこし設立の経緯もお聞かせください。

河野 この社☆ガールがきっかけでした。私のようにまちづくりに関わっていた人と経営者など7人が集まり、松江を元気にする活動を始めたのが出発点でした。

その際感じたのがプレイヤー不足です。伝統のあるまちですから、意思決定をする年配の方は多いです。ただ、実際に動くプレイヤーが本当に少ない。まずは私たちと一緒に動いてくれる若いプレイヤーを育成するのが会社設立の目的の一つでした。もう一つの目的は、松江市の地域おこし協力隊のサポートです。松江に来られる協力隊には、デザイナー、一級建築士、IT企業で働いていた方など、豊かなキャリアをお持ちの方が多いのですが、地元との繋がりが少ないため、任期終了後の定住になかなか至りません。そこで彼らと既存のコミュニティやネットワークを繋げる

のが私たちの役目です。協力隊が生み出した地域産品やサービスを販売する場所として、玉造温泉街に松江のアンテナショップ「八百万マーケット」もオープン。このショップが会社の主軸になっていきま

マッチングで生じる活力が まちを動かす

——松江に來られて20年。今、松江にはどんな課題がありますか。

河野 松江は観光資源や自然環境に恵まれたまちです。そのためか、全体に貪欲さが不足していたと思います。京都には大学が多いこともあって若い人がたくさんいます。彼らは古さと新しさを掛け合わせ、融合させてきました。この「X」というマッチングが、松江にはもつと必要ではないかと思います。それが伝統を守ることでないでしょうか。

——河野さんは、どんな「かける」をしておられますか。

河野 地元の人が楽しんでいないと、外から来る観光客にそれが伝わりま

の営業です。夕日そのものが素敵なアトラクションであることを、まず地元の人たちに伝えたい。地元の素晴らしさを感じ、地元にもつと誇りを持つとういう、社☆ガールの趣旨と同じです。これは社会実験なんです。普段は何もない公園に新たなサービスを提供して、人の賑わいと満足度の変化を調査しています。

——反応はいかがですか。

河野 地元の人のデートコースになっています。近くに階段状の護岸の夕日スポットがあり、日没時には京都の「鴨川等間隔の法則」みたいに人が座っています。皆さんがSNSで情報を拡散してくださるので、松江の観光名所みたいになりました。当初は2年間の予定で始めた社会実験でしたが、今後も本設してほしいと市から言われています。

——コロナ禍で観光客は激減しました。どのように対応してこられましたか。

河野 昨年の緊急事態宣言発出中は八百万マーケットを改装して、店内の半分をジュース工場にしました。あまり注力していなかったインターネット販売も促進するようになり、商品の食べ方や産地を紹介するユーチューブチャンネルも開設。もちろん自分で出演もしています。社☆ガ

ールも活動機会が減ったため、昨年11月、Uターン者をサポートする財団が開催したオンライン参拝に協力しました。出雲市にある有名な万九千神社と中継をつなぎ、私がスタジオで神社の歴史や魅力を紹介しました。全国から約300人が参加してくださって大好評でした。

——志をお聞かせください。

河野 「伝えたい」という思いです。伝える仕事か私を最も生かせる場です。同時に、あまり自ら望んではだめだなと思った時期もありました。それよりも、人が与えてくださるものに楽しく取り組んでいると、そこからまたご縁や仕事が生まれてくることに気づいたんです。ご縁に導かれて私はここまで来られたと思うと、地域や支えてくださる人への感謝も自然に育ちました。

——読者へメッセージをお願いします。

河野 与えられた環境を楽しんで生きることは大切だと思います。自分が楽しんでいることが周囲に伝われば、その方たちも楽しくなって、新しいことに気づく心が生まれるかもしれません。家庭でも親が楽しんでいると、子どもも何となく楽しいものですからね。

(2021年7月6日、松江市にて)

選ばれる学校とは?—2030年代に 求められる中等教育を探る

●出席者

とみ たりよう
富田亮氏 エデュケーショナルネットワーク(R&Dセンターシニアアナリスト)
まつばらかずゆき
松原和之氏 コアネット教育総合研究所
きし だ やす こ
岸田康子氏 学校法人立命館 一貫教育部副部長
たけやまゆき お
竹山幸男氏 同志社中学校・高等学校副校長

未来社会に対応できる 中等教育に求められるもの

竹山 ●本日は社会経済状況の変容から見た教育のあり方の変化などについてお話しいただき、2030年代に求められる中等教育を探ってまいります。まず富田さんから大学入試改革と中学受験について、長い取材経験を基にお話しいただきましよう。

富田 ●私は約30年間、「私立中高進学通信」という中学受験情報誌の編集に携わってきました。2050年に日本の人口は1億人を割り込むと言われています。グローバル化のさらなる進展やAIによる代替作業も増えるでしょう。今の中学受験生は40歳前後になつていく。その未来を考えると、学校選びも変化してきていい。かつては良質で均質なサービスを大量かつ安価に提供するスキルが社会で求められていましたが、現代はそれが、オリジナリティのある商品やサービス、多様なニーズへの対応力へと変化しています。そのためには中高時代から、幅広い視野、深い教養、洞察力や感受性、工

夫する力、表現力の育成が必要になってきます。教科学習の定着度を重視する従来の学力観から、自分で考え、周囲と協働しながら意見交換をして合意形成を図っていく力が、より必要になるでしょう。文科省でも思考力・判断力・表現力、主体性・多様性・協働性に、これまでの知識・技能を加えて「学力の三要素」と位置付け、新しい大学入学共通テストを行う方針を打ち出しました。これに伴って中学受験も変わっていくでしょう。東大や京大をトップとするヒエラルキーの中での大学合格実績や学歴だけでは、多様化した社会に対応できないという考え方も人も増えています。保護者のニーズもかなり多様化し幅が広がってきています。私学の多様性に目を向けて、幅広い視野で多様な価値観に触れることで我が子を学ばせたいという方が増えています。

竹山 ●21世紀型教育と中学入試の多様化についてはどう見ておられますか。

富田 ●知識をインプットしていく従来型の学力観に加えて、主体的、対話的で深い学びの授業をしたいと考える私学が増えています。それを前提として、これま



富田 亮氏

エデュケーショナル
ネットワーク
(R&Dセンターシニアアナリスト)

での4科型などの筆記試験の入試から、適性検査型入試、自己推薦入試、思考力入試など、さまざまな入試形態が生まれてきています。品川女子学院では、教室で議論をする際、教科入試＋読解・論述の表現力・総合型入試による合格者がグループに1人いると意見交換、合意形成が活発になり、学校の活性化が図られていくと聞きました。

竹山●特に印象的な入試はありますか。

富田●生徒にiPadを渡し、その場で調べて自分の考えを書かせるという入試がありました。どのような特質を持った子どもがいるのかを幅広く見ようとする傾向があります。将来の大学入試を考えた場合、18歳時点での能力測定においては、多様な視点が求められると考えられ

ているからではないでしょうか。渋谷教育学園幕張の校長先生にうかがったところでは、従来型の学力観に相当する認知能力だけではなく、それ以外の意欲、態度、姿勢を含む非認知能力も大きな割合を占め重要だと言われています。それを中学・高校でどう培っていくのが、日本の中学入試でも問われていくのではないのでしょうか。

「自立した学習者」と学校に求められるパラダイム転換

竹山●松原さんからは、中等教育の新たな潮流についてお話をお願いします。

松原●子どもたちは「未来からの留学生」です。20年後の未来に社会で活躍している人たちが、20年前の今、中学・高校でどんなことを学んでいけばよかつたかということを、学校はしっかりと理解し教育する必要があります。一方で、今の子どもたちは将来にそれほど期待を持ていません。今を楽しむことが大事という価値観があります。高度経済成長期は将来に期待が持てたから我慢や努力がで

きたが、今の日本は高度経済成長など望めない。子どももそれを分かっています。今までのように、将来活躍するためにはよい大学へというような進路指導だけでは、子どものモチベーションを保てません。だからこそ「生徒の学ぶ意欲をそえる様な魅力的な授業」をすることが、今求められているのだと思います。少し話は変わりますが、持続可能な環境を作るためにSDGsが示され、一方でデジタル技術を基盤とした未来社会『Society 5.0』が提唱されています。SDGsは環境の問題だけではなく、人権や平等の問題でもあります。私たちは今後も技術をどんどん手に入れていきますが、その使い途を考える必要があります。SDGsという「持続可能性度」とSociety 5.0度つまり「技術発展度」の、両方を高めていくべきです。パンデミックを機にこれまでの社会を見直し、よりよい社会に変えていくべきです。

竹山●どう変えていけばいいですか。

松原●教育界ではOECDが進める『Education2030』が注目されています。これは、SDGsの2030年の達成目標



和之氏 原松
コアネット教育総合研究所

とも理念が重なりあっているのですが、キーワードは『Well-Being』、つまり人間も地球環境も「よりよく生きる」ということです。そのためには『Agency』、つまり「自ら考え、主体的に行動して、責任をもって社会変革を実現していく力」が必要だと提唱されています。そのために必要な3つの行動特性として、新たな価値を創造する力、対立やジレンマを克服する力、責任ある行動をとる力。これら3つの行動特性が必要と言われ、非認知能力も含めた、多様な資質・能力を身につけるべきであると。必ず一つある正解をいかに早く見つけるかという教育は終わり、問題解決のプロセスが重要視される時代です。早く学ぶのではなく、深く学ぶことが大切です。今後は世の中

の諸問題に対して生徒が主体的にアプローチし、それを先生がサポートするような形に教育が変わっていかねばなりません。学校は教える場から学ぶ場へ、教師主体から生徒主体へと変わります。生徒が学んで何かをできるようにすることが目的なのです。教師に依存した学習者ではなく、『自立した学習者』を育てることが、これからの学校教育に求められます。学校のパラダイム転換が必要です。

竹山 ● 自立した学習者を育てるためには何が必要ですか。

原松 ● 自分で課題に取り組む機会を増やす、探究的な学びをする、行事や部活でも自分たちで考えさせる。そして一番大事なのが、成功や失敗を通じて自己評価し、振り返る機会を増やすことです。それによってメタ認知力を養うことができます。友だちから相互評価されたり先生からフィードバックされたりすることを通じて、自分を客観的に評価できる様になることが一番大事です。これに対して先生は、次の段階の課題を助言してあげればよい。そうした学びをしていくには、

習得学習と探究学習の両立が必要です。

確かな基礎知識の上に、自分で考えて自分で解決していくという探究を行う。習得学習はICTなどを活用して個別最適な学びを行い、そこで生まれた時間を使って、探究学習は協働的にしていくというブレンド型の学習が、これからの時代の学びのスタイルです。そして学校には、社会に開かれた学びを実現していただきたいと思っています。変化の激しい社会環境の中で、先生こそが先ず自立を求められていくでしょう。一般的には、生徒の成長を促すのが好きな先生よりも、教科を教えるのが好きな先生の方が多いと言われます。しかし教科学習以前の、学び方や学ぶ意欲を伸ばす教育が大切です。先生方も授業の準備や保護者対応などで余裕がないのではと感じますが、構造的な問題にも解決策を見出し、自立して学び続けることが大切です。

新たな学びを切り拓く教員を 支援する制度構築

竹山 ● それでは、立命館学園の一貫教育

部におられる岸田先生に、未来に向けた中等教育を支える教員の養成、職場環境整備などについて伺います。

岸田 ●立命館という総合学園で「つなぐ」と「支える」役割を担うのが一貫教育部です。ここで仕事をする身として、まずは大人がもつと自由になる必要を感じています。立命館学園では2020年に向けて様々な壁や境界を越えて「自分を越える、未来をつくる。Beyond Borders宣言」を行い、学園の理念を示す立命館憲章を踏まえて、現在は2030年に向けて「挑戦をもつと自由に」という学園ビジョンを共有しながら「異なる価値観を認めあい摩擦を恐れず、これまでの限界を超えていく」フェーズにきています。教員が「教える」時代は終わりました。教員にはコーディネーター、ファシリテーター、デザイナー、プロモーターなどの資質が必要だと考えます。そこで私たちが大切にしているのが、多様な他者へ敬意を持ちながら安心して研究・教育できる「ダイバーシティ&インクルージョン」と、教員研修制度の整備です。松原さんのお話にもありましたように、教科

を教えるのが役目と思っている先生方には、さらに、創造的、魅力的、先進的な教育をしていただくために、ワーク・ライフ・バランスも大切にしたいと考えています。先生方のやりがいとプライベートのどちらも犠牲にすることなく、少々欲張って教職を実践していただきたい。そのための立命館らしい「働き方改革」と研修の機会を提供するなど、制度を整備しているところです。1年単位の変形労働時間制度を労使合意のもと導入し、勤務管理を行っています。年間250時間の「働き方改革推進休暇」という時間休の新設、スクールサポートスタッフの採用、クラブ活動の指導体制に留まらず、新しいクラブ活動のあり方についても模索しています。出産・育児・介護等のライフイベントに際しても、社会と一定程度つながりつつ、例えば、社会から隔絶されて「閉じた」状況で子育て等を行うのではない「立命館らしいあり方」を考えています。先生方の意識は随分変化してきました。市民としての生活感覚みたいなものを取り戻してこられたようです。

竹山 ●附属校教員の研修制度についてはいかがですか。

岸田 ●研修を業務と位置付けて、新任教員対象には着任する前に学校を見学していただいたり、赴任時には同期入職の教員が所属校を超えて立命館アジア太平洋大学という国際性豊かな場で宿泊研修を行ったり、その後は月1回の立命館主催のセミナーへの参加などが用意されています。学年主任・分掌主任向けの「ミドルリーダー研修」、教頭以上を対象にした「スクールリーダー研修」なども実施しています。自主的な研究会の要望があれば学園としても支援します。教職大学院がありますので、附属各校の応募者から選抜して、学費を一貫教育部が、給与は法人が負担し、研修員として学びと実



岸田 康子氏

学校法人立命館
一貫教育部副部長

践を往還できる制度、短期海外研修制度、自己研鑽専念休職制度などもあります。

一貫教育校のメリットを活かす教育とは

竹山 ● 一貫教育の現状はいかがですか。

岸田 ● 立命館学園では2030年から2050年を見据えて「ともに育てる」ことを重要視しています。小学校の児童も中高の生徒も大学教員が小中高教員とともに育てるという「シームレスな学び」です。例えば、立命館の高校生は、びわこくさつキャンパスや衣笠キャンパスで開講している「サイエンスAP (Advanced Placement) 科目」や「グローバルAP科目」で探究型の学びに挑戦しています。



竹山 幸男氏

同志社中学校・高等学校副校長

高校の授業に大学の先生に入っていたりしながら、行政や地域と連携し、社会的課題を解決しながら実践的に、いわゆる「社会実装型」の学びをしています。

富田 ● 私の周囲には首都圏の有名中高一貫校出身でフリーのライターやIT系のコンテンツ制作をしている人、若い起業家などが多いのですが、大学進学に魅力を感じないと言う人も始めています。大学へ行く目的が見えないなら社会に出て働いた方がいいし、刺激的だと。従来の一本道の進路選択が変化しているように感じます。

岸田 ● 立命館では学生向けの社会起業家支援プラットフォーム事業や、起業塾などを立ち上げています。大学がこのように魅力あるつなぎ役をしている限りは大丈夫だろうと思っていました。今のお話を聞いて少し心配になりました。

竹山 ● 日本の大学ではなく教育水準も高く魅力ある海外の大学に進んでいく生徒もいる時代に求められる中等教育とは、どのようなものでしょうか。

富田 ● 将来のためのベース作りだと思います。中高でこそすべきで、大学では遅

い。アメリカのプリンストン大学に入った子に話を聞いたところ、中高時代から積極的に課題を見つけて活動していました。海外大学へ進学したり、起業をしたりした子も、中高生時代から主体性があり、意志が明確であつたわけですね。そういう子たちが従来の教科学習に比重を置いた学びを続けていくと大学に入ったとき、目的意識を見失うケースも出てくるのではと懸念します。東京の私立中高一貫校の中には、大学進学後に落第者や中退者の多さが問題化してから積極的に学校改革を行い、大学に行く目的を主体的に考えさせて学習に取り組ませるようになったところがあります。その結果、例えば東大合格者が1桁から2桁に増えました。東大に入ることがよいとは言いませんが、生徒の意識が変化したのだと思います。

岸田 ● 個人的に面白いと思うテレビ番組に「ミライ☆モンスター」と「博士ちゃん」があります。また、東大先端研の「異才発掘プロジェクト」にも関心があります。これらを見ていると、受験と、探究・研究につながる流れとを、どう棲み

分ければよいのかという疑問が生じます。大学の専門性とは何かという話とも重なりますが、小学校や中高で教科横断型のクロスカリキュラムで学んでも、結局受験で縦割りになり、文理に分けられる。

どこかで割り切れる子どもは受験勉強ができますが、自分の生き方、ライフデザインを考え始めると、受験勉強に疑問を持つでしょう。何のために学ぶのかと考えると、学校での「勉強」はしにくくなるという矛盾を、中等・初等教育の現場で私たちは感じますが、そこに正面から向き合えるのが私学そして一貫教育校の魅力の一つだとも考えています。

竹山 ● 一般の受験に求められているものと、実際の進路や将来とが、少しずつ異なるのではないかと一貫教育校で指摘ですね。

松原 ● 逆に言うと、大学受験のための勉強をあまりしなくてもよい一貫教育校の存在は大きい。その強みや特色をどう活かせるか。かつて大学では1・2年生は教養を学んで3年生から専門化していたのが、入学時から専門科目を学ぶようなシステムになってきた流れを考えると、大学推薦制度のある一貫校でこそリベラ

ルアーツを教えるべきではないでしょうか。その強みを活かすには、同志社であれば百数十年前に新島先生がおつしやつた「自由」「良心」という建学の精神を、現在化することが大事です。今に置き換えると、さらに将来に置き換えると、どういうことなのか。そのために今、どんな教育が必要なのかを考えていただきたい。そして受験のためではない「本當の学び」をしていただきたいです。大学のリソースの活用、大学での単位認定など高大連結も進めていただきたいと思います。

生徒自身の学びを促す教育と「これからの評価」に向けて

竹山 ● 中等教育で、教員の役割はどう変化していきますか。

富田 ● 失敗を乗り越えながら進む子どもの成長を教師はどう見守るかが一番大事だと、開成中学・高等学校の元校長から聞いたことがあります。豊島岡女子学園では、幾何の授業で1時間に1問しか解かない先生もいます。代わりに別解をた

くさん学ばせ、考え方や着眼点の訓練をしていました。そういう教科ごとの観点もあるでしょう。ある国際バカロレア認定校では、教科ごとの知識ではなく考え方を教えているというお話もありました。

竹山 ● 今はまだ、自分が受けてきた教育の再生産をする先生方も多いです。「昨日と同じ様に今日も教えるならば、生徒の未来を奪うことになる」というデュエリの言葉があります。教育は分水嶺、転換期にさしかかっていますね。

松原 ● 現代社会に応じた能力の教育が必要だと分かっているにもかかわらず、大学合格実績が落ちると考えがちです。そこから抜け出せない学校がとて多い。同志社のような一貫教育校でこそ大学を含めて、「本當の学び」につながる教育は何かを考えられる環境にあるはずです。

竹山 ● 本當の学びを提供するには、生徒の成長を共に喜び、ファシリテーターのような役割をする教員像をどう実現させていくのかという課題がありますね。

松原 ● そう思います。一貫教育校からそういう役割ができる教員を育てていただ

きたいですね。

竹山 ●ペーパーテストなどで認知能力を測るような従来の部分は残しつつ、非認知能力をどう伸ばしていくのか。中等教育が今後なすべきことは何でしょうか。

松原 ●学校案内には教育理念や建学の精神が教育目標として書かれていますね。

それは大抵の学校は非認知能力の育成を謳っています。でも一番困るのは、それを測る指標がないことです。そこで私が提唱しているのがルーブリックです。学校の教育理念に応じた非認知能力がどの程度身についていることが、この学校の卒業要件であるのか。その基準をしっかりと作ればいい。そしてその基準にもとづいて子どもが自己評価を行い、自分で次の目標を立てられるように導くことが大事です。先ほどもお話ししたメタ認知力を育てるのです。評価とはそもそも自己評価力が大切で、「評定」とは区別する必要があります。受験などに見られる選別のためではなく、本当は子どもたちの成長を励ますための評価であるという視点が大切です。

岸田 ●今のお話を聞いて、ここをブレイ

クスルう必要があるのだと思います。立命館でも生徒のさまざまな活動について、基本的に自主性に任せています。それらを通じて生徒たちのどんな非認知能力が育っているか、私たちは感覚的には分かります。例えば生徒会長を務めたという事実なら書けますが、自主的な活動を通じて育った非認知能力について、確かな評価をする手段はまだ共有されていません。一貫教育校だからこそ、そこを乗り越えることが急務であり、ミッシヨンであると感じました。

松原 ●文科省が来年度から高校の観点別評価の充実を図ろうとしているのもこういった流れの一つのあらわれだと思います。

竹山 ●そもそも現在の評価とは「評定」としてイメージされる意味合いが強く、便宜的な数字や記号などが用いられている部分があります。もつと数字や記号を超えたやり取りがあつてしかるべきでしょうね。そうすることで、認知能力と非認知能力を含めた多様な視点で生徒たちの学びを導いたり、中学入試の多様化にも繋がっていくのでしょうか。

富田 ●教科学習の力だけがその子の特性、

個性ではない。将棋、野球、サッカーで生きる子もいるし、お菓子作りやダンスが得意な子もいる。そういう力を伸ばしていけばいい。多様化する世界において、重要視されるものが、教科学習の点数だけで比べられていた時代から変わっていくと思います。

未来に向けて変わるものと
変わらないものは何か

竹山 ●さて2030年、2050年に向けて学校や教員の役割が変化する中で、変わるもの、変わらないものとは何でしょうか。

富田 ●変わらないのは、学校とは同年代の生徒が一カ所に集まり、軋轢や葛藤がありながらも、互いに刺激を受けながら育っていく場であることでしょう。オンライン、ICT教育があつたとしても、互いに集い、学び、育ち合うという「学校」の本来の在り方は変わらないのではないのでしょうか。

松原 ●学校の役割の変化で言えば、学んだ知識をどのように社会に活かすべきか

を学ぶ、もしくはそれを中高生なりに試してみよう場になつていくのでは。知識をどのように使つて社会をよりよくするか、自分がより幸せになるかを学ぶ場になつていく必要があると思います。

富田●横浜にある聖光学院では生徒が自分の意志で校外へ学びにいけるし、教員免許を持たない方が先生として入つてくる。開かれた学校にする試みを盛んに行つていきます。東京の大学生に1対1でメンターになつてもらい、その連絡用として、生徒一人ずつにChromecastを持させている。社会との接点を持ちながら、生徒一人ひとりが学んでいく場になつていきます。

岸田●立命館では教職員について、「専門性を追求しながらも制約や壁がなく異なる性質の需要があり、いろんな人たちと出会いながら、個が活きて、柔軟に変容していく」という形を理想像としています。これは子どもたちもそうであるべきだと、今のお話を聞いて思いました。そして、このような学びをしつかりと評価して卒業証書を渡せる学校でありたいと思います。

竹山●生徒の学びと教員の学びとはパレルであり、裏表の関係ですね。つい先日「近代建築」誌(2021年7月)の座談会でも語つたことですが、壁や教室、教科の枠などを超えて、自分の人生軸や時代軸なども含めた広がり感のある中で、学びを捉えることが大切であろうと思います。

岸田●立命館小学校ではチャイムを鳴らしません。教室ごとの可動式の区切りがある程度で、壁はありません。今後は学ぶ人と教える人との境目すらないことが中等教育でも出現していくのだと、この座談会に出席して思いました。見えるものが変わりました。

私学間の交流を さらに活性化させて 関西私学の魅力を発信

富田●かつてお会いした先生に「毎日同じ学校に行く必要はない。今日と明日で別の学校の授業を受けてもいい。もつと自由な私学間連携があつてもよい」と言われたこともあります。

岸田●異なる教育理念や建学の精神を持つ学園間でさらに連携できれば、挑戦のしがいがあります。そうすれば関西の私学の魅力も、もつと伝えられるのではないのでしょうか。野球に「立同戦」がありますが、アカデミックな分野でも協働できたら非常に面白い。同志社の生徒さんが立命館の授業を受けたり、その逆だつたりが自由にできればいいですね。

富田●関西の2021年度中学入試はコロナの影響もあり、初日午前の受験者数率ともに減少に転じました。少子化はさらに加速し、2050年に私学各校がどうしているかというよりは、学校間を超えて協働しているという見方の方が、合理性があるかもしれませんね。

松原●そもそも今日、立命館の先生がここにおられることに非常に驚いています。すごくよいことだと思えます。

岸田●ありがとうございます。同志社の方からお声かけいただき、立命館から快く送り出してもらいました。

竹山●「未来からの留学生」をどう育てるかを考えたとき、私たちには共通の目的、思いがあります。そう考えれば、一

つずつの学校が何をするかだけではなく、もっと大きな視野で、本来の意味での中等教育を共につくり上げていけるのではないでしょうか。あるいはその担い手である教員をどう育ていけるか、知恵を出し合えるのではないかと思います。

岸田 ●立命館では「世界に通用する18歳」を掲げている中高もあります。その「世界」が学園の中で閉じないで、さらに高度なフェーズで「外と混ざる」ことができれば、子どもたちももつと生きやすくなり、happyではなくwell-beingの状態で生きていけるのではないかと感じます。

竹山 ●同志社の創立者・新島襄も、何もないようなところにキリスト教主義の学校を作りました。既存の枠を越えてチャレンジするのは、同志社創立時からの風土です。それが同志社の中だけにとどまらず、他校の先生方と共に新しい教育のあり方を探っていくことは有意義だと思います。それが実現されれば、「選ばれた学校」から「選ばれた授業、教員」という要素も加わり、教員が試される時代になるかもしれません。

富田 ●今日は未来志向の希望のあるお話

ができて、明るく前向きな方向性が見えてきました。

松原 ●今日のこの場も多様な皆さんが交わって新しい発想が出てくる、有意義な時間でした。子どもたちも社会や他の学校と繋がって視野が広がれば学びも深まるのではと、この場を通じて思いました。

竹山 ●本日はオンラインでお集まりいただきありがとうございました。

同志社の一貫教育について

●出席者

おおく ぼまさし
大久保雅史 教授

一貫教育探求センター所長

きよ た
清田れいさん

理工学研究科情報工学専攻（前期課程）1年

ほそ の こうへい
細野航平さん

理工学研究科情報工学専攻（前期課程）2年

家族を通して校風を知り 同志社を志望

大久保 ●本日は同志社の一貫教育の中で大学院まで進まれたお二人に体験談をお聞きし、一貫教育の良さを探りたいと思います。まず、自己紹介をお願いいたします。

細野 ●同志社中学校・高等学校を経て、同志社大学理工学部情報システムデザイン学科に在籍していました。現在は修士2年目で、自動運転の実現に向けたネットワーク周辺の研究をしています。学部時代はテニスサークルに所属して、海外旅行もたくさんしました。アメリカをレンタカーで横断したりヨーロッパを周遊したりしながら、将来のビジネスチャンスの模索も兼ねて、学生時代にしかできないことを積極的にしていました。これらの経験を生かし、来年は外資系のIT企業に就職します。

清田 ●私は同志社女子中学・高等学校の出身です。学部時代は理工学部のインテリジェント情報工学科でした。今は知能メカトロ情報システム研究室に所属して、LiDARを用いた自動運転用の地図構築

などを研究しています。学部時代は留学生課のSEEDという学生団体に所属して、留学生と日本人学生の交流イベントの運営に取り組みました。大学の外では5年間塾の講師をしたり、毎年海外旅行に行ったり。この夏からダブルディグリープログラムを利用して、フランスにあるエコール・セントラル国立理工科学院連合ナント校に留学します。本当は去年から行く予定でしたが、コロナで延期になって今年になりました。

大久保 ●同志社の一貫教育を体現するようなお二人ですね。同志社を志望した動機は何だったのですか。中学受験は保護者の意向が大きかったとは思いますが。

細野 ●私は同志社小学校の開校時に3年生に編入した、同志社小学校1期生です。いわゆる「ザ・一貫教育」ですね。父が同志社中高を出て同志社大学で学んだので、私も中学受験では同志社を考えていたところ、小2の時に同志社小学校がで

きることを知って編入を決めました。
清田 ●私も同志社中高に通っていた姉を見て、同志社の自由な校風を感じて憧れたのがきっかけでした。私は同志社女子

中高のワイルド・ローヴァーコーストという、特進コースの出身です。同志社の系列校でそういう特進コースのある学校は珍しく、そういうコースでしつかり勉強してみたいと思ったのが志望理由です。

「ルールのある自由」が 自律的・自立的な生き方を醸成

大久保 ● 思い出に残るトピックスや、中高で注力したことを聞かせてください。

細野 ● 同志社では、何をおいても自由にさせていただいたことが一番大きかったです。小学生の頃は比較的前に出るのが好きだったので、「長」のつく役割をさせてもらったり、中学ではテニス部の活動に打ち込ませてもらったり。おかげでテニスでは全国大会まで行けました。小学校から高校までずっと、自分のやりたいことに没頭できる環境でした。

清田 ● 私は高3で進路を理系に決めたのですが、内部進学で時間的に余裕があったので、進路決定後は好きな英語の勉強に打ち込みました。何をやっても否定されない、何に頑張ってもいいという環境

と、自由な校風がありがたかったです。

大久保 ● 「自由」というと、ともすると安易な方へ流されてしまう人もいます。います。自分をどう律していましたか。学校でそういう教育があったのですか。

細野 ● 私は負けず嫌いなので頑張れた部分があると思います。それでも落ち込んだり挫折したりした時は、先生が「無理をしないで」と言ってくれました。そういうスタンスが非常に嬉しかったです。

清田 ● 自由といっても完璧な自由ではなく、「自分の中で決まりのある自由だよ」と、よく先生から言われました。そのおかげで、同志社における自由とは、自分で決めた行動規範の中で自分のやりたいことを追求していくという意味だと思いうようになりました。自由だからといって



大久保 雅史 教授
一貫教育探求センター所長

完全に流されてしまうような人は、周囲にはいませんでした。

細野 ● ルールのある自由という意味では、同志社中高には、法律を守って人に迷惑をかけないのであれば好きなことをしなさいという風土があったと思います。

大久保 ● キリスト教主義教育についての思い出は、何かありますか。

細野 ● 小学校時代は学校で毎日お祈りをしていました。そういう毎日を通じて、感謝する気持ちを学んだと思います。

清田 ● 女子中高でも毎日礼拝があり、先生だけでなく、いろいろな方のお話が聞けたのは良い経験でした。

一貫教育の中で進路は どのように決めたのか

大久保 ● ルールのある自由は同志社の一つの伝統かもしれませんね。自分の中で生きる指針をしつかりと決めておけば、どこへ行っても大丈夫ですよ。さて、高校3年で進路を考えた時の思考プロセスを教えてください。

細野 ● 高校時代からウェブ開発のアルバ



清田 れいさん

理工学研究科情報工学専攻
(前期課程) 1年

イトをしていたので、当時からIT系、情報系への進学は決めていました。結局、他大学を目指して受験勉強をするよりも、やりたいことに時間を使いたいと思ったので、一貫教育で上がれる同志社大学に決めました。

清田 ●高3では他大学受験も考えましたが、最終的に内部進学を決めた背景には、やはり高3を受験勉強だけにあてられなかったのと、高校生のうちに英語の勉強にもつと力を入れたいという思いがありました。高3の夏までは文系も少し考えていましたが、中学時代からパソコンを触ることが好きで、当時からずっと興味を持っていたのが情報系だったので、そちらの道を最終的に選びました。この夏に行くダブルデグリーについても非常

に魅力を感じていて、高校時代から調べていました。そういう制度のある大学は日本には数校しかなかったもので、それも同志社大学を選ぶ理由になりました。インテリジェント情報工学科を選んだのは、この学科に進んだ先輩から情報系学科の様子をお聞きする機会があり、しつかりと工学を学びたいという私の希望に合致したのがこの学科だったからです。

大久保 ●大学の留学プログラムについては、既に高校時代に調べていたのですね。

清田 ●はい。中3の時、同志社の4校から各5人ほどがカリフォルニアの学校に行く、約1週間の留学プログラムに参加しました。これが海外で勉強してみたいと思つたきっかけです。長期的に海外で勉強できる期間は学生時代しかないと思つたのと、大学で1年間留学したいと考え、理系で1年間留学できるプログラムを探しました。エコール・セントラル・ナント校を選んだのは、そこだけが英語による授業を行っているからです。

大久保 ●ただ、進路決定のミスマッチが起きるケースもあると聞きます。仲の良い人が行くからという理由で同じ学部に進む人もいます。周囲ではどうでしたか。

進む人もいます。周囲ではどうでしたか。

細野 ●内部進学で上がってくると、真剣に進路を考える機会が少ないのは正直なところですよ。「よく分からない」と言いながら過ごしてしまった人は多かったです。

中高大の連携に望むこと

大久保 ●中高時代に同志社大学と連携した授業などはありましたか。

細野 ●大学と連携した授業や公式な活動はなかったですが、大学の先生が中高の礼拝に来てくださることはありました。

清田 ●私は1度だけ、大学の法学部の授業を体験したことがあります。それがきっかけで一時期、文系にも関心を持ちました。

大久保 ●私も法人内の高校に授業をしに行くことがありましたが、大学から高校へ行つて授業をするのと、高校生が大学に来て授業を受けるのでは、授業の内容は同じでも少し違うのではないかなと感じます。その辺りはどう思いますか。



細野 航平さん

理工学研究科情報工学専攻
(前期課程) 2年

細野 ●私が高校生なら大学に行きたいです。キャンパスの雰囲気も知りたいから。
清田 ●私もその方がいいです。大教室や階段教室も体験できて、大学がどういう場所なのか具体的に分かります。高校へ大学の先生が来られるだけでは、高校生も受け身になりやすいのではないでしようか。大学を体験してみたいと思っています。いる中高生は、いるはずですよ。
細野 ●高校生にとっては、行くこと自体が楽しいと思います。大学のいつも通りの授業を受けられれば、それが楽しい。
大久保 ●そういう場合は、高校生向けにアレンジした授業を私はしてきました。清田さんが受けた法学部の授業はどのような内容でしたか。
清田 ●通常の授業でした。だから全体の

つながりまでは理解できなかったのですが、内容の理解というよりも雰囲気を感じていくことが主目的でした。

細野 ●私が高校生だとして、もし大学の先生が高校へ来てくださるのなら、学生さんも連れてきてほしいです。

大久保 ●そうですね。教授が高校へ話をしにいくより、今のあなたたちが母校へ行って話す方が、大学に関する具体的な情報や雰囲気が高校生たちに伝わると思っています。そういう取り組みは、今後もっと考えていけるといいですね。

清田 ●内部進学者向けのオープンキャンパスは、参加してよかったです。少人数だし研究室も見学できて、進路決定にも最も参考になりました。いろんな学部・学科に進んだ卒業生が高校に来られる日があり、興味のある学部の話を聞いたことも参考になりました。礼拝でも卒業生が来られて、社会経験などを話してくださいの機会がありました。他の法人校も同じだと思いますが、同志社は学校と卒業生とのつながりが強いと感じます。

細野 ●同感です。学校に陸上の朝原宣治さんが来られて、「自分のやりたいこと

をやるう」というお話をしてくださいましたことが強く印象に残っています。一緒に走らせていただく機会もありました。そういうところに一貫教育の良さを感じましたし、同志社を経て世界のトップレベルで活躍している方にお会いできて刺激を受けました。うちの学校では担任の先生がハブになり、卒業生と生徒をつないでくださっている部分がありました。そういう関係も同志社の良さだと思います。
大久保 ●その同志社の中に今までもずっといて、お二人はこれから企業や海外へと新しい世界に踏み出していかれます。何か不安はありませんか。

細野 ●受験勉強を経験しなかったことについては、少し後悔しています。受験勉強を経験した人の方が、単語力は非常に豊かです。海外に出た時など、その差を痛感しました。他の人たちが経験して私は経験しなかった部分については、これから追いかけるかなと思います。

清田 ●大学院も含めれば12年間を同志社で過ごしてきたので、環境が大きく変わってゼロからスタートするという経験を私はしていません。社会に出るときや新

しい生活を始めるときなどは、ちよつと不安かもしれません。

大久保 ●後ろには同志社がいます。不安になった時は、いつでも言ってください。本日はありがとうございました。

ハイブリッドゼミで楽しく学ぶ —新人教員として—



ひろの しゅんすけ
廣野 俊輔
(大学社会学部准教授)

1. 混乱の中での異動

2019年の秋、母校の同志社大学で2020年4月から教員として採用するといううれしい通知を受けました。「これで異動に向けて様々な準備に忙しくなるぞ」と意気込みました。当時、大分大学福祉健康科学部に所属していた私は、慣れ親しんだ大学や親しい同僚から離れる寂しさと故郷・母校に戻ることができる喜び、これから始まる新しい生活への期待と不安が入り混じった落ち着かない気持ちで日々を過ごしていました。

引越しの準備が本格化した1月ごろから暗雲が立ち込めてきました。日本で初めてのコロナ感染者が確認され、その後も増え続け、前任校の卒業式・修了式は中止。さらに、異動先の同志社大学においても入学式が中止となりました。いつもであれば、式典は退屈だなぁと思ってしまう私ですが、この時ばかりは困りました。別れる学生にはきちんとお詫びやお別れも言えず、これから共に学ぶ学生には挨拶もできない。そんな状況で同志社大学での生活がスタートしました。

2. 遠隔講義のインパクト

2020年4月、同志社大学の講義は

遠隔講義でスタートしました。遠隔講義にはいくつかの方法がありますが、ZOOM等を活用したオンライン双方向型の講義（リアルタイム方式）や、録音データも付いたPowerPointファイルを大学のシステムを通して学生に提供する方法（オンデマンド方式）が主流でした。

数カ月前までZOOMの「ズ」の字も知らなかった私たちは、4月からこれらのメディアと必死に向き合うことになりました。これらのメディアの活用は、感染症によって否応なく始まっていますが、よいところもあればやりにくいこともあります。

まず、よい点と言えるのは次の点でしょう。大人数の講義で起こりがちな私語など他の学生の迷惑になる行為は遠隔講義では起こりにくいです。オンデマンド方式では、録画や録音を本人が視聴するわけですし、リアルタイムでも教員がミュート（音を消す機能）でコントロールできます。次にオンデマンド講義の場合ですが、何度も復習できます（反面、早送りで大切なところだけ視聴することもできますが）。映像や音声が何度でも繰り返し視聴できることは、やる気のある学生にとっては、とても良いことです。最後に、空間を飛び越えることです。学生は通学時間が省けますし、対面なら不

可能な（たとえば遠方の）ゲストスピーカーに話してもらうこともできます。

反対に懸念すべき点はどこでしょうかとつは、対面講義の様には学生の様子を把握しにくいという点です。カメラをオンにして受講するようにと促しても、なかなかカメラをオンにしない学生が多く、「自分（教員）以外の画面は真っ黒」といったことも起こります。もちろん、カメラのオンやオフはモチベーションに関わっているだけでなく、パソコンやWi-Fiの状況、学生さん個人の部屋をもっていない等、それなりの理由が存在する場合もあります。ともあれ、画面が真っ黒では、本当に講義をきちんと聞いているかわかりません。

次に学生同士の話し合いが対面よりも難しい場合があることです。ただしこの点については、遠隔講義のシステムの進化もあり、グループ分けの機能などが付加されている場合があります。

さらにどうしても遠隔講義がなじまないものもあります。実習や実験、実技を伴うようなものです。大学の講義は実に多種多様です。すべての講義が一律遠隔といったことになると困る教員が出てくるのも自然なことです。

3. 変わる研究環境

とはいえ、ZOOM等のシステムは確実に浸透しました。今度は、少し研究の話をします。私の専門は、障害者福祉（特にその歴史）でコロナ禍以前の研究費の使い道はほとんど交通費でした。内訳はほとんど2つで、東京の国立国会図書館に行くか、似た分野の研究者と研究会を開くかです。研究のために遠方に出かけるのは、楽しみの一つでした。

ところが、コロナで国立国会図書館にはなかなか行けず、さしあたって既に収集している資料を使って論文を書くことを優先せざるを得ない状況です。また、研究会はほとんどがZOOMで開催されることとなりました。海外を含む様々な地域の間人が交通費なしで集まれるのですから驚異的です。研究会後の夕食や飲み会を楽しみにしていた私としては少し寂しいですが、この状況が元に戻ることはないでしょう。

さらに、非常勤教員に関しても同様の変化が起こっています。2020年5月、同志社大学の先輩で、長野大学で教鞭を取っておられた端田篤人さんの訃報に接しました。突然のことで驚いている中で、本学名誉教授で現在長野大学に勤務されている黒木保博先生から非常勤講師の依頼を頂きました。何とかその役割を果た

したのですが、もし、遠隔講義が普及していなかったらどうなっていたでしょう。少なくとも学期中はとても講義はできなかつたと思います。

4. ハイブリッドゼミで楽しく学ぶ

2021年度に入っても、コロナの威力はまだまだ収まっています。感染症に対する考え方には個人差も大きく、対面での講義を希求する学生もいれば、引き続き遠隔講義を希望する学生もいます。やっと同じ同志社大学の生活に慣れてきた

私は、教室でZOOMの画面をプロジェクトターに投影して遠隔の学生と対面の学生と一緒に議論できるように工夫しています。もちろん、いつもうまくいくわけではありません。自然と対面の学生に注意が向き、遠隔講義の学生が置いてきぼりになりがちです。しかし、慣れてくると講義に参加している学生同士が、遠隔講義の学生を気遣い、理解を確かめたりれたりします。そういう雰囲気があったりできあがると対面の学生も遠隔講義の学生も講義に貢献しているという気持ちになります。教員と学生が協力しながら乗り越えていけたらと思います。

人工知能と第4次産業革命： 労働は消滅するのか？

ふたがみ こういち
二神 孝一

(大学経済学部特別客員教授)



機械化のこれまで

18世紀に始まった産業革命以来、機械が人間の労働を置き換えるプロセスは、断に進んできました。このプロセスは、ワットの蒸気機関をベースとする第1次産業革命、電力の利用による大量生産をベースにする20世紀初頭の第2次産業革命、電子工学をベースにする1970年代から始まる第3次産業革命という流れで進んできました。

このような機械による人間労働の置き換えが進むことにより労働が不要になると、賃金は低下し、所得のうち労働者たちが受け取る分配率は低下してゆくのではないかと危惧されます。また、多くの労働者が失業することになるかもしれません。経済学者の中には、労働者たちが受け取る給与が大きく減少するので、すべての人に等しく所得を分配するベーシックインカムという制度を推奨する人も出てきました。

しかしながら、歴史を振り返ってみると機械による人間労働の置き換えによって人間労働が完全に消え去ってしまうことはありませんでした。古いタイプの仕事は機械によって置き換えられますが、

その過程で新しい仕事が生まれ、その新しい仕事は労働で行うほうがより容易に行われます。確かに馬は、馬車による輸送が鉄道により代替されることにより行き場を失うことになりましたが、人間は馬とは異なります。人間は鉄道運転者という蒸気機関車の誕生により生まれた新しい仕事を引き受けることが出来るでしょう。また、機械が導入されると機械の操縦者という機械と相補い助け合う補完的な関係にある仕事を行う人間が必要になります。第3次産業革命においても産業ロボットやコンピュータの導入はそれに対して補完的な仕事を担うプログラマーやデジタル作業を行う労働者が必要とされ、IT関係の労働者は重要視されています。

人工知能と労働

では、人工知能をベースとする第4次産業革命では事態はどう進むのでしょうか。アルファ碁という人工知能が囲碁の試合で人間の名人に勝利した事実は、人工知能が持つ計り知れない能力を見せています。ある研究では、ほぼ半数の労働が人工知能やロボットによりその役

割をとってかわられることになるという非常に悲観的な報告がなされています。確かに、ビッグ・データを利用できる人工知能は多くの労働を不要のものとすることは間違いないと思われます。ビジネスホテルにおける接客業務などはその典型です。ロボットや機械がフロント業務を行うことはすでに実現しています。また自動運転が実現すればトラック運転者、タクシードライバーなども代替されるでしょう。おそらくルーティンワークを基本とする仕事は人工知能により置き換えられるのですが、ルーティンワークを基本としない、したがって人工知能では容易に代替されない仕事も存在します。三ツ星レストランやホテルに行ったときに、そこでのウェイターやフロントスタッフが人工知能やロボットである姿を想像できるでしょうか。それはもう「三ツ星」に値しないのではないのでしょうか。ルーティンワークであるような会計監査や税理事務は人工知能で代替可能ですが、新しい会計粉飾方法を発見する作業などは人工知能では容易に置き換えることはできません。弁護士の仕事のうちこれまでは裁判の判例を検索するような仕事は人工知能によって置き換わりますが、新し

い犯罪や容疑者の心に深くかわるような微妙な仕事は人工知能によって置き換えられることはないでしょう。私が専門とする経済学の研究でも、世界で行われている多くの経済学者の研究を検索する作業は人工知能にお任せでいいと思われます。実際、世界中で行われているコロナウイルスに関する研究論文を人工知能により迅速に整理し役に立つ情報を引き出す作業がNHKによって行われています。教員の仕事も日々の学習については人工知能による実践が可能かもしれませんが、教室内で突発するいろいろな事件は人工知能で処理するのは困難だと思います。これらはルーティンワークとは異なる作業を必要とするのです。これらの作業・仕事は、人間の創造的な力、また想像力を必要とする作業・仕事であり、人工知能とはどちらかというところ補完的な作業・仕事であると言えるでしょう。以上からわかることは、人工知能に対して人間が行う労働が置き換えられることが容易で代替的な関係にあるのか、人工知能との関係が必要不可欠な補完的な関係にあるのかカギになることが予想されます。

第4次産業革命の運命

では、人工知能によって多くのルーティンの労働は置き換えられることになる一方で、創造的な仕事は人工知能とは補完的で仕事に必要不可欠であるとき、労働者たちが受け取る所得の分配はどのように変化するのでしょうか。現在、この点を明らかにすることを目指して私は研究を進めています。おそらくですが、人工知能による労働の置き換えが進むスピードがそれほど速くなく、人工知能やロボットと労働の関係が補完的でお互いを必要とする関係になれば、労働者が経済全体の所得のうち受け取ることで割る割合（労働分配率といいますが）は減るのではなくかえって増えることもあり得るのではないかと予想されます。さらに、気が滅入るルーティンワークは人工知能やロボットに任せて、浮いた時間を創造的な仕事に振り替えることが可能になり全体としての労働時間が減少すれば、人々にとってこれほど魅力的な世界はないかもしれません。

物理の視点で探求する 生命現象の本質



さだかね こういちろう
貞包 浩一朗

(大学生命医科学部准教授)

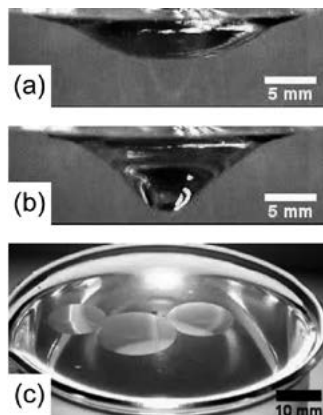
1. 生命物理学の面白さ

世の中の全ての物質は物理法則に従っています。生き物も「物質」からできていますので、そこには必ず物理法則が存在します。自然界のあらゆる生命現象に対して、物理のことで解釈を与えていくことが、私共の研究室（生命物理学研究室）の大きな目標です。ある生命現象を研究対象としたとき、その振る舞いを物理法則にもとづいて理解できたときにはじめて、その現象の本質を掴むことができるのだと私共は考えています。

私共の興味の一つに「生命の集団運動」があります。例えば水族館に行くと、集団でひとまとまりに動く魚の群れを見ることが出来ます。もしくは、空を見上げると、集団でひとまとまりに飛びまわる鳥の群れを目にすることもあります。このような「集団運動」は、魚や鳥の大きさの生き物だけでなく、微生物や細胞のような小さな世界でも幅広く見ることが出来ます。何故、形やサイズが大きく異なる生き物が、同じような集団運動を形成することができるのでしょうか？生

命物理学研究室では、この大きな謎に對して「何か共通する要素があるに違いない」と考えて日々探求しています。小さなスケールの対象から大きなスケールの対象まで、集団運動を形成するメカニズムの共通点を探り、「生物と物質の間での普遍的な法則」を見つけることが私共の一番の楽しみです。

様々な生命現象のメカニズムを解明するための手法として、私共はその生物について直接観察するような生態学的なアプローチに加え、「モデル実験系」と呼ばれる物理・化学モデルを用いてアプローチしています。例えば、鳥が空を飛行できるメカニズムを調べるために、紙飛行機などの簡単な模型を飛ばしてみても、その振る舞いを流体力学的に解析する、といったイメージです。これまでに私共は、水や油の液滴による単純な実験系において、生物が示すリズム現象（心臓の拍動やサーカディアンリズム）や集団運動と似たような特徴を見つけてきました。その中で、最近偶然発見した面白い現象を一つ紹介します。図(a)は、ラーメンのスープの上に油が浮かんでいる「ような」



状態です。実際のラーメンの油と異なる点は、油が水よりも少しだけ重たいということです。水の表面張力の働きでアメンボが水面に浮かぶことができるのと同様に、水よりも少しだけ重たい油も、表面張力の影響で水面に浮かぶことができます。この油をしばらく観察していたところ、約10秒間に1回、油が図(b)のような形状に一瞬変化してまた(a)の状態に戻るといような、規則正しい「リズム現象」を示すことがわかりました。更に、図(c)のようにこの油をたくさん水面に並べると、全てが同じリズムで同期して振動することもわかりました。この油の形状が何故規則正しい周期で変形するのか、何故全ての振動が同じリズムで発生する

のか、そのメカニズムは全く自明ではありません。油に働く重力の影響、表面張力の影響、水の流れによる流体力学的効果、油分子の拡散の影響、油滴の持つ表面電荷の影響など、考えられる要素はたくさんありますが、何が本質なのか、まったく分かっていないのが現状です。簡単に説明できないからこそ、物理学の問題として本当に面白い現象です。そして、この「液滴の動きが同期する」ためのメカニズムを生物が積極的に活用しているその結果として集団運動をしているのではないかと想像すると、ワクワクが止まりません。

このように、生命物理学研究室では、身の回りのあらゆる生命現象に幅広く目を向けて、日々楽しみながら研究しています。

2. 遊び心で研究することの大切さ

私が大学院に進学する際に指導教員の先生にご挨拶に伺ったときのこと、「一生懸命実験を頑張ります」と意気込んだ私に先生は目を細め、「頑張るんやない、研究は楽しまなあかんのや」とのアドバ

イスをくだりました。この言葉をきっかけに、私はこれまで楽しむことを一番の目標として研究に従事してきました。たとえ実験で思うような結果が得られなくても、何故うまくいかないのか、その原因を検証する過程も含めて楽しむことで、前向きに問題を捉えることもできました。

遊び心をもつて楽しむことの重要性は、研究者になった今、ますます強く感じています。実験をしていると、上記の油の振動の例のように、全く予想していなかった現象に出くわしたりします。予想していなかったのですから、物理のことはでは簡単に説明がつかない非自明な現象なわけで、大抵はすごい結果です。このような重要な結果を見逃さないためには、不思議なことを見つけたときにそれをきちんと不思議だと思えることが大切です。そのため、生命物理学研究室では、教員と学生が共に研究を楽しみ、気づいたことを何でも気軽に発言、相談できるような環境にすることを大事にしています。

未来をキャリアで拓く

なかむら つや こ
中村 艶子

(大学グローバル・コミュニケーション学部教授)



出発点はアメリカ

私の研究内容はこれまでのキャリアに直結しています。そのため、それを語る上では、まずアメリカでの出発点に触れる必要があります。カリフォルニアの大学院在学中に、モントレイ（元州都）のホテルで働く機会を得ました。初めての海外での職場は何もかもが新鮮で心躍る毎日でした。「査定」があるとは知らずに夢中で働いていましたが、その時の勤務評定で想定外の満点（奇跡）を頂き、それが卒業後の仕事につながりました。由緒あるハワイのリゾートホテルに赴任し、出席した部門長会議の光景……。それは当時の日本にはない男女半々かつ多国籍という、まさに性別・国籍・年齢等によらぬダイバーシティの縮図でした。今も日本の女性管理職率は14・8%と低いものの（総務省2019）、当時はわずか1・8%（同上1990）で、「日本の職場で女性のキャリアが進展しないのはなぜなのだろう？」そんな疑問が頭を擡げたことが、私の研究者としての出発点となりました。

アメリカ研究科（博士後期課程）時代

日米の女性労働研究を志し、本学のアメリカ研究科（現グローバルスタディーズ研究科）の博士後期課程がスタートした年に第一期生として門をくぐりました。

しかし、女性労働の研究手法も、アカデミアでの作法も、そして研究職への道筋もよくわからずに、またこの分野の採用募集（就職）もない中で、私は会議通訳者として活動しながら紆余曲折の研究生活を送りました。

初年度のアドバイザーのアメリカへの帰国で女性労働の指導者が皆無となり、私の指導はコミッティーの中から労働経済学・産業関係が専門の石田光男先生に委ねられました。なぜ女性登用なのか、どこに注目するのか。課題を追求していく問答のようなご指導と、毎週土曜日の文献研究会（英語文献を中心とした労働関係の文献読み込みと討論）は門外漢の私には鍛錬の場でした。石田先生の著作は（英語でも日本語でも）私には辞書なしでは読めぬほど格調高く、アカデミアの奥深さを痛感しました。おかげで労使関係論は勿論、研究生生活を送る上で人生について学ぶ機会となり、今も感謝の気持ちで一杯です。

女性労働研究とワーク・ライフ・バランス

学際的な研究を進める上では、学外のメンターの存在のご高名な先生方との出会いがあり、数多くの機会を授かりました。研究では企業の育児支援を切り口として制度調査に取り組み、カリフォルニア大学サンタバーバラ校に留学しました。その際に調査した、企業の「ファミリー・

フレンドリー”（家族に優しい）概念や事例をいち早く日本へ紹介し、それがのちにワーク・ライフ・バランス（WLB）へと発展しました。

ワークライフ・インテグレーション（WLI）

コロナ禍で社会が一変し、生活面での限界が表面化しました。WLBでも個人の力量を越えて企業や国家の支援が不可欠になっており、より「統合した」形での新しい「ワークライフ・インテグレーション」（WLI）が必要とされています。現在はWLI、雇用政策に反映すべき企業内保育所やジェンダーダイバーシティの課題に鋭意取り組んでいます（写真1）。



写真1：平澤克彦・中村艶子共編著『ワークライフ・インテグレーション：未来を拓く働き方』（ミネルヴァ書房、2021年）

同志社大学の研究者として

就社以来、同志社大学の研究者として研究、教育、社会活動に専心してきました。時代の波と同調しながら、グローバル

ルに日本の女性雇用や保育所問題などを発信し課題を追求することが重要だと考えてきました。米国議会、米国家議事堂やマンスフィールド財団をはじめ、国内外で講演や報告の機会をいただき（写真2）、在外研究ではフルブライト客員研究員としてスタンフォード大学とハーバード大学で研究する好機を授かりました。感謝の気持ちで一杯です。やりがいのある研究をさらに深めて、それを社会還元していくことが目標です。

キャリアが拓く未来を授業に

現在所属するグローバル・コミュニケーション学部（GC）は国際的な組織で、その名のとおり日本にいながら海外にいるような雰囲気があります。担当授業では、海外の視点を取り入れた実践的な授業を行っています。たとえば、GC学部生は2年次に1年間の留学をとおして高い英語能力を有しているため、その能力を活かした Interpretation や Advanced Interpretation の授業で、さらにキャリア感覚を盛り込んだ授業設計をしています。

受講者は自分の将来のキャリアについて英語で発表し、ペアの通訳者役がその内容を訳して、質疑応答が続きます（質疑応答（即興）は、「クラス」の日本語での質問↓「通訳者」日英通訳↓「発表者」質問への英語での回答↓「通訳者」英日通訳というプロセスです）。

このような授業によって発信能力やキャリアマインドの養成が可能です。また、毎回豊富な情報と新鮮な発見もあり、受講者はこれを機に進路を真剣に考える人も少なくないようです。また、研究に直結した「企業と女性」（商学部提供科目）では、企業のゲストを招き、WLIや働くことの意義を講義、討論、発表によって深めています。このような形で、私の人生を拓いてくれたキャリアが、少しでも学生さんたちの未来を拓く機会につながるようにと願いながら、この同志社大学で教育に携われることに感謝する毎日です。



写真2：女性代表団として招聘された米国訪問。故モンデール（Walter F. Mondale）副大統領のオフィスでのシンポジウム（左がモンデール副大統領（背面）、筆者（中央））

表現活動を通じた人間形成と 保育者・教師の役割



たけ い ひとし
竹井 史

(女子大学現代社会学部教授)



息を吹きかけると動き出す
へこへこ君 (色紙1/4)

子どもの造形活動を活性化す
る土(粘土質土)の開発に
取り組む背景には、
現代の子どもたち
がおかれています
造形的な活動領域
が視覚優位となつて
いることへの憂慮
があります。もう
一方の重要な領域
として触覚が挙げ

これまで美術による人間形成を中心的な研究テーマに据えながら、幼児から児童を対象にした造形表現の発達、美術教育の教材開発等について研究してきました。近年、特に力を注いでいるのは、子どもの手指の巧緻性の発達の観点をふまえた身近な材料(色紙、ストロー、紙コップなど)で作って遊べるおもちゃの開発や子どもの造形活動を活性化す土(粘土質土)の開発などです。例えば、色紙一枚で五類のおもちやを作る教材。これは、息を吹きかけると紙の繊維がバネの役割を果たしてゴキゲンに動いたり、紙が振動することによっていろいろな音が鳴ったりします。一枚の紙で質の異なる様々な作品を作るこのような行為は、人間の文化創造における基礎的なプラクティス(実践)であると考えています。

られますが、視覚と触覚の感覚経験のバランスを欠いているのです。「子どもたちに良質な触覚体験を提供したい」、そんな思いから理想的な「遊べる土」を追い求めて三〇年が経ちました。その成果として、子どもの造形遊びに適した粘土質土「スーパークレイ」の開発が挙げられます。教材としての土の評価は、これまで経験的な判断にゆだねられてきました。しかし、レーザーによる砂・土の粒度分析によって、数値でのエビデンスに基づいた評価ができるようになりました。砂・土の粒度分析と関連付けながら、子どもの造形活動の様子を調査することを通して、子どもの造形遊びに適した粘土質土「スーパークレイ」を考案しました。現在は、現代こども学科で砂の研究をされている笠間浩幸先生と科研究費を獲得し、レーザーによる砂・土の粒度分析装置を導入することができました。外部の調査機関にゆだねることなく、学内で砂・土の粒度分析に研究に着手できる国内唯一の環境の下で、さらに良質の造形遊びに適した土の開発を行っているところです。

これまで開発した教材については、様々な出版物や小学校図工科の教科書で発表をしています。これらの成果を活かした研究の一環として、ものづくりによる

地域イベントも開催してきました。イベントを通して、七万人近くの親子とかかわってきたことは、私のひそかな勲章となつていますが、その一つである「泥団子アート展」をご紹介します。

つるピカ泥団子づくりは、子どもの土遊びの最も高度な遊びです。子ども時代にも夢になつて作つた経験がある方もおられるのではないのでしょうか。原理は、表面に粘土の粒子（土の中で最も細かい粒子で粒径 $2\mu\text{m}$ 以下のもの）を付着させることにより、乱反射が押さえられ、光度が増すというものです。

この土の団子を作るには、粒度の小さな土環境が不可欠ですが、その上で子どもが土という自然によりそい、土の特性を知り、土に合わせるることによつてはじめて土という自然が子どもが子どもの自己実現（つるピカ団子ができる）に答えてくれます。この行為は、人間が自然環



泥団子アート展（NHK富山放送局ギャラリー）

境と共存・共栄していく大切なもので、環境教育の原体験とも言えると考えています。しかし、現状では、園庭や校庭は水をよくするのを優先して作られており、水たまりのこともなる粒子の細かい土は取り除かれています。このような環境においては、残念ながら、つるピカ団子の制作は困難であり、子どもの貴重な経験の場を保障していくことが必要であると考えています。

大学の授業では、主に保育士や幼稚園、小学校教員の養成科目を担当しています。ができるだけ身体を働かせ、学んではしいと願っています。授業の最初には、A4のコピー用紙を使って作る紙ヒコキ作りの教材研究をしてもらいます。五歳の子どもの日本記録が約 20m なので、教職等を目指す学生には、最低 10m 飛ばすことを単位取得の必要条件にしています。教材研究を繰り返し、最終的に 10m 以上飛ばすことができた学生は、紙飛行機が飛ぶ感触や気持ちよさを味わい、その経験が、紙ヒコキ教材の基準になります。それ以外にも、土や小枝、どんぐりなどの自然材を使った教材などできるだけ具体的なものとのかかわりをもとに学修を進めています。

現在、学校現場では、文科省主導によるGIGAスクール構想で、今年度から



ホイップした石鹸で植物と土を作るアースケーキ

タブレットPCが一人一台ずつ支給され、授業に生かしていく環境づくりが進んでいます。ICT環境後進国日本がようやく重い腰を

上げたところですが、現在のタブレットPCの総花的な受け止めには、少し慎重にならないといけないと思っています。これらは、子どもの成長を疎外する諸刃の剣の側面もあることも忘れてはならないと考えています。乳児は自分の身の回りのモノを触り、口で確かめ自分の身の周りの世界を認識していきます。これは幼児や小学生も同じで、子どもたちは実在する目の前の出来事を五感を通じて認識し、感性と知性を豊かにしていきます。ICTによる成果は、子どもたちの感覚体験をもとにした感性と知性の育成がベースになつて初めて豊かなものになります。同志社女子大学の学生の皆さんは、開かれた五感をベースに多様な「世界」を感じてもらい、豊かな想像力を持つて、日本の未来を創造していつてもらいたいと日々願っています。

ICTを活用した 和歌の学習



よし だ けい こ
吉田 桂子

(香里中学校・高等学校教諭)

2020年度、私は高校1年国語総合の古文分野(週2時間7クラス)を担当した。高校1年は古文の学習における入門期であり、学習すべき文法事項が非常に多い。その上、これらの知識が定着するまで非常に時間を要する。結果、授業で扱える文章の量が減ってしまったり、体験型の授業^②を行ったりする時間が少なくなってしまう。

古文を自力で読解するためにも、文法事項の学習は欠かせない。生徒たちが読解力を身につけた上で、様々な文章に触れ、そして古文への興味を失わずに学習に取り組むにはどうすればよいのか、これまで試行錯誤を重ねてきた。その方法の一つとして今回紹介したいのが、ICTの活用である。

昨年度の一斉休校を機に、本校ではGoogle Classroomが導入された。Google Classroomを使うと、様々な課題を生徒に配信することができる。また、生徒が送信した提出物も画面で一覧表示できるので、管理も容易である。

前述のように授業で扱える教材は限られる。2020年度は三大和歌集(万葉集・古今和歌集・新古今和歌集)を授業で取り上げられなかった。しかし、和歌への理解を深めることは、古文を学ぶ上で重要である。そこで、Google Classroomを活用することにした。

1、副教材(尚文出版『基本の古典』を使用)で自習
様々な文章を読む機会を与えるため、昨年度は副教材を使用していた。今回は三大和歌集を扱っているページを自習課題とし、問題を解いた上でテキストを提

出させ、評価をつけた後、生徒に返却した。

2、解説動画と「理解度チェック」を作成し、配信
テキスト返却後、三大和歌集の特徴を説明した動画と、テキストに掲載されていた和歌の解説動画を作成し、Google Classroomで配信した。三大和歌集の特徴については、補助プリントを渡し、プリントに書き込みながら勉強するように指示した。

動画と同時にGoogleフォームで作った「理解度チェック」を送り、期限内に送信させた。

「理解度チェック」の質問は計7題で、最初の5題(①⑤)は動画の内容が理解できているかを確認する問題である。そして、⑥⑦として次のような質問を加えた。

- ⑥ A Fの歌の中で、一番印象に残った歌または気に入った歌を一首選んで下さい。
- A あしひきの山の雪に妹待つと我立ちぬれぬ山の雪に 大津皇子
- B 吾妹子が見し輶の浦の室の木は常世にあれど見し人ぞなき 大伴旅人
- C わが背子が衣はるさめ降るごとに野辺の緑ぞ色まさりける 紀貫之
- D 夏と秋と行きかふ空のかよひ路はかたへすずしき風や吹くらむ 凡河内躬恒
- E かき曇り天霧の雪のふる里を積もらぬさきにとふ人も

(圖 2)

「商法上ノ大王」渋沢栄一と同志社

新島襄との交遊

もと い やす ひろ
本井 康博 (元大学神学部教授)

初対面

今年の大河ドラマ「青天を衝け」のモデル渋沢栄一は、三年後には新一万円札の顔にもなる。彼の活躍は多方面にわたるので、その恩恵を同志社も受けた。すべては新島襄との交流による。

出会いの時と場は、一八八八年四月二十二日、井上馨邸である。新島によると、大学設立運動の支援者、陸奥宗光や募金に「大賛成」の井上馨が、渋沢を自邸に誘ったという(『新島襄全集』三巻五六頁。以下、③五六一)。

この日、鳥居坂の井上邸(現国際文化会館)では同志社募金集会(準備会)が開かれ、青木周蔵、陸奥、沖守固(神奈川県知事)、野村靖(枢密顧問官)、渋沢原六郎、益田孝らが呼ばれた。新島は脳貧血を起こしたので、中座せざるをえなかった(⑤三〇〇〜三〇一)。

健康を回復した五月一日、新島は参加者に礼状を発送(⑤三〇四)。翌日、渋沢は返信を寄せ、心情を吐露した。寄付の件は陸奥やかつての大蔵省上司、井上から縷々聞いていたので、「相応の御助

力」をしたい、自分もかねて「心学上之事」には「聊苦慮」している、いづれ終日「緩々」と面談したい、と(③四〇三)。

日程調整は新島の教え子、徳富蘇峰が担当した。渋沢は同月二十九日に彼宛てに書簡で快諾を伝えたので、まもなく面談は実現したものだと思われる。

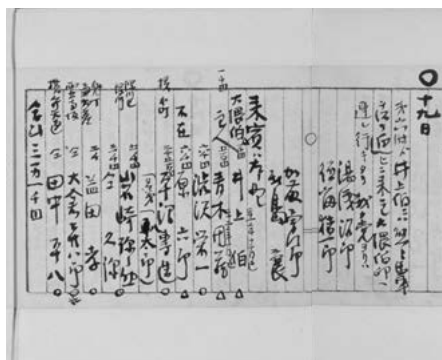
六月には両者の動きは活発化する。二十七日、東京滞在中の新島は、渋沢に「書ヲ送ル」(⑤三四五)。同日、渋沢も新島に送信する。過日、新島が第一国立銀行(現みずほ銀行)を訪ねた際には不在であった失礼を詫びる一方で、自分も井上宅を「兩三回」訪ねるも、いずれも留守であったので、本日、面会の都合を書簡で問うた、回答がありしだい、「貴台、又ハ青木君杯」と一緒に伺いたい、当方は明日、明後日は出社するので、都合がつけば来社いただきたい、と伝える(⑨上、四一六)。

それにしても、渋沢には募金集会の件で井上、青木、新島といった世話人と事前協議を重ねておきたい意向が強かった。発起人にも近いその熱意に応えるために

新島は三十日に「第一銀行ニユキ、渋沢氏ニ面会ス」。その報告を新島は翌朝、井上に手紙で知らせた(⑤三四五)。

同志社に六千円を寄付

募金集会は、七月十九日に大隈重信外相官邸で実現した。政財界の大物たちが、一晚で三万一千円の寄付を確約した一事は、「同志社設立の旨意」(募金趣意書)にも、かつてラットランド(ヴァーモント州)で集めた五千ドルと並べて、特筆される(①一三一、一三四)。募金開始以来、国内寄付額はやつと二万円余であったので、三万余円は破格の金額である。呼びかけ人の政府高官(大隈、井上、青木)以外は、財界大物八名であった。そのうち、最高予約額(六千円)は、渋沢と原六郎(横浜正金銀行頭取)のふたり。新島は渋沢や原のような「商法上ノ大王」が、同志社を「賛翊シ、其ノ一臂ヲ添フルニ至リシハ、実ニ可驚キ明治時代ノフィノミノン」[phenomenon]ト云フトモ決シテ誣言ニアラサルベシ」と称賛する(③六二〇、「」は本井)。



新島襄『漫遊記』(1888年7月19日の条)
同志社社史資料センター所蔵

渋沢は寄付ばかりかその教育観でも、新島の心を打った。新島によると、席上「渋沢氏ハ、德行ノ人物養成ノ上、世間有益ノ人ヲ作ルニ計画アリタキ旨ヲ陳ス」(⑤三五二)。「德行ノ人物」養成を力説したのは、渋沢だけであった。

その後の交流

その後、新島は伊香保に転じた。避暑かたがた、同地で静養中の岩崎弥之助(三菱)等の客人の応対やら、渋沢や益田、

陸奥(在米)らとの交信にも努めた(⑧四五六、四六二)。

九月に東京に戻るとさっそく井上を訪ねた(⑤三七五)。十月五日には京都から金森通倫(同志社社長代理)が駆けつけたので、渋沢と益田には八日に金森を遣わすと通知した。翌九日には金森と共に井上を訪問。十二日には金森が渋沢を訪ねた(⑤三七七、三七八)。寄付金取りまとめの依頼である。快諾した渋沢へ、新島は「委任状」を送付して正式に依頼に及んだ(⑤三八一)。

十一月十三日、新島は渋沢に「懇之同氏ノ手数ヲ謝シタル一書」を出す(⑤四一六)。翌月十日には、渋沢を始め大口寄付者十数名へ肖像写真を贈った(⑤四二四)。翌年(一八八九年)元旦にも同じく「同志社之賛成家」へキャンパス写真を「新年ノ祝詞」に添えて進呈した。

新島から個人的遺書

渋沢との別離は、大磯であった。新島は募金活動のため、病を押して京都から東京に出張した一八八九年十一月、すぐ

さま渋沢を訪問したが不在であつたので、有力者への紹介状を郵便で依頼した(④二三八)。

その後、出張先の前橋で倒れ、傷心のうちに東京に戻つた新島は、療養のため大磯(百足屋)に転じた。しかし、翌一八九〇年初頭、病状は悪化した。臨終直前の一月十六日、同じく大磯(渋沢には箱根とならぶ静養地)に投宿中の渋沢の所へ秘書に手紙を持参させた。腸チフスに罹つたので宿所(瀧龍館)まで伺えない、その近辺では昨年、

腸チフスが流行した由なので、飲料水にはご注意ください、と同病相憐れむ見舞い状である(④三四四)。

五日後、渋沢は百足屋に新島を見舞つた(④五七五)。再起不能を覚悟した新島は、この日個人宛ての遺言書を蘇峰に口述筆記させた。その二日後、新島は召天した。渋沢との交流は、二十か月で終わつた。彼への遺言

の本文は――

「謹^{つと}告^こ別^{べつ}申^{しん}上^う候^{こう}。是^{こゝ}迄^{まで}同志社大学ノ為^{ため}には不^ふ一^{いつ}方^{ぽう}御^ご高^{こう}配^{はい}被^お下^{くだ}候^{こう}。奉^{ほう}感^{かん}下^{くだ}度^ど、乍^さ此^{こゝ}上^う懇^{こん}請^{せい}申^{しん}上^う候^{こう}」(④四一八)。

遺体は京都に運ばれ、一月二十七日に校内で葬儀が行われた。第一国立銀行京都支店の行員が三名参列したのは、渋沢の代理か(『新島遺品庫収蔵目録』上、一〇二頁)。



同志社女学校旧静和館前での渋沢栄一
(最前列、1914年6月13日)
左端は原田助、帽子の女性はM・F・デントン
同志社社史資料センター所蔵

三度の同志社訪問

これほどまでに、渋沢が新島や同志社に入れ込んだのはなぜか。新島死去三か月後(四月二十四日)に、渋沢が同志社チャペルで行つた講演が参考になる。

「予が嘗て新島先生に見えし時、近來西洋の文明入り来りしより、智識上に於てハ頗る進歩せるもの、如く見ゆれども、道德上に於ては少しも進歩せざるのみならず、却て退くもの、如く、今や徳氣殆ど地を掃ふに至るは悲むべきことなりと(自分が)述べしに、先生大に慨嘆して、君の言へる如く、予ハ常に之を憂ひ居る所なり。予ハ予の学校を以て此等のものを改革せんと欲するなり。君の言、誠に感心の外なきなりと、涙を含で仰せられたる事なり」。

渋沢は自己の文明観を新島が涙ながらに拝聴してくれたことに感銘を受けた。

「それ故に、予が最も特に此同志社に望を措く所以のものハ、決して智育にあらず、決して奇才子を得るためにあらず。奇才固より必要なるが、猶此上に支那(中国)にて所謂仁義忠孝といふ如き徳育を

渉沢、森村両人は成瀬が手掛けた日本

同志社来校時の渋沢栄一、森村市左衛門の署名
最下段は内村鑑三。『同志社 その80年の歩み』から。
(同志社来客者名簿)

最後の同志社来校は一九一四年六月十

宣教師の J・D・デイヴィスは、大隈首相に調停を持ちこんだ。条約改正交渉上、ダメージを受けるのを危惧した大隈は、渋沢にも応援を求めた。一八九九年一月七日の日記に渋沢は、「大隈伯爵邸ヲ訪ヒ〔中略〕京都同志社ニ生スル物議ニ付テ」話を聞く、と記す（『渋澤栄一傳記資料集』二七卷、三五頁）。「物議」

とは、「同志社綱領（現寄付行為）削除事件」を指す。

結局、綱領は旧に復し、社員（理事）は責任をとって総辞職に及んだ。アメリカン・ボードは大隈と渋沢という「二人の主要な日本人寄付者」に新役員の承認を求めた（P・F・ボラー『アメリカン・ボードと同志社』二〇四頁）。

こうして誕生した社長が、第四代（西原清東）と第五代（片岡健吉）である。同志社非出身者で政治家という異例の外部者抜擢となった。これほど外部のVIPが同志社人事に介入した例は同志社史上、他に例がない。

新島の教え子たちとの交流

新島亡き後は、彼の教え子が渋沢と交流する。まずは第一回卒業生の市原盛宏。渋沢から目を掛けられて欧米視察（一九〇二年五月〜十月）に同行をした。帰国後は渋沢の肝いりで金融界に入り、朝鮮銀行初代総裁に昇りつめた。

渋沢は彼との二十年近い「意気投合した」交遊を顧み、「実業界に入り、職を

日本銀行に奉ぜらるるに及で老生相識るに至り、爾来、其の人格、手腕に傾倒すること年あり」と評する（『故市原盛宏記念』三五頁）。

二人目は徳富蘇峰である。政財界要人との折衝ではかつて新島の黒子として活躍した。神奈川県二宮の徳富蘇峰記念館は、渋沢からの来簡を七通、所蔵する。

三人目は、日本救世軍の父、山室軍平。社会事業の後援者、渋沢の恩恵を最大級に享受したのが、石井十次（岡山孤児院）や山室ら、いわゆる「同志社派」と呼ばれる社会福祉界の先駆者である。

四人目は同志社大学設立（一九二二年）の立役者で、同志社総長の原田助。渋沢が一九一〇年代に二度も来校したのは、原田との誼からである。一九一二年に理事会が渋沢らを「社友」に推挙した際、原田は東京に赴き、直々に了解をとりつけた（『原田助遺集』一九四頁）。

原田は同志社外部での活動も顕著であった。成瀬が始めた「婦人協会」（諸宗教の相互理解をはかる団体）に賛同し、スポンサー役の渋沢と共に発起人となった。「渋沢のシンクタンク」とまで言わ

れた同会に、中島力造、浮田和民、海老名弾正、村井知至、松本亦太郎、O・H・ギユリック、D・C・グリーンら同志社関係者が参加したので（同前一九五頁、一九八頁）、渋沢と同志社との輪はいつそう広がった。

原田は総長辞任後の一九二〇年秋、ハワイ大学から東洋学部設立を要請されたところが、おりしもカリフォルニアで排日運動が激化したので、日米関係委員会幹部の渋沢から二度、東京に呼ばれ、早急に渡米して問題解決に当たるように要請された。そのために渋沢は、ハワイ大学総長を説得して原田赴任の遅れを了解させた（同前、二三三頁以下）。

日米関係改善にかくまで熱心な渋沢は、おりからノーベル平和賞の候補者にも挙げられた。十余年後、渋沢の逝去をホノルルで知った原田は、「渋沢翁も遂に逝いた。実に人生の悲哀を感じざるをえない」と失望に暮れた（同前、三二七頁）。

二度の転機

渋沢の七十一年に及ぶ生涯には画期が

二度ある。華の大蔵官僚を辞して民間に転じ、実業界に転身した一八七三年と、実業界を引退して様々な社会的福祉的貢献を開始した一九一六年である。

前者での初心は「官尊民卑の弊を根本的に除去」すること（『渋沢栄一自叙伝』五五〇頁）、後者では社会的弱者の救済が新たな行動指針となった。

渋沢の二度目の転身に関して、アメリカン・ボード宣教師、J・C・ペリー（日本の監獄改良の先駆者で元同志社病院長）が秘話を伝える。渋沢から東京でこう告白されたという。自分は若い頃から国家財政の拡大に尽力してきたが、国民に何らの幸福を与えていないことを「この頃発見した」。今後は、今少しまじめに国民に真の幸福を与えるために余生を捧げたい、と（大久保利武編『日本に於けるペリー翁』九二〜九三頁）。こうして彼は晩年、「慈善事業に金を費やすこと」を「一種の道楽」とするに至った（『渋沢栄一自叙伝』四六五〜四六六頁）。

アメリカン・ボード宣教師と言えば、S・L・ギュリック（元同志社教員）も忘れられない。京都から帰国後、一九二

七年にアメリカから平和親善使節の「青い目の人形」を日本に贈った。日本側の受け入れ責任者が渋沢であった。

これまた渋沢の平和貢献の一例である。渋沢ゆかりの埼玉県に今も残る十二体の青い目の人形すべてが、今春、埼玉県立博物館で一堂に展示された。

『論語と算盤』に見る教育観

渋沢は一九二七年、持論の道德経済合一説を『論語と算盤』にまとめた。新島と重なる思想が散見される。たとえば、実業界に転じてから「論語に対して特別の関係が出来た」ために、道德に開眼したばかりか、「官尊民卑の弊」を根本的に解消する覚悟をも固めた（『現代語訳論語と算盤』一七頁、二四頁）。

新島もこれら両点が相俟つて、私学人として「民間立」大学、それも宗教に立脚する大学を日本で初めて立ち上げる夢を抱くに至っているが、渋沢は新島の志に心底から共鳴した。

・「現代青年に取つて最も切実に必要な感じつつあるものは、人格の修養である」



新島襄に宛てた渋沢栄一の書簡(1889年8月12日付) 同志社社史資料センター所蔵

(二六九頁)。仏教や「キリスト教」もあるが、自分は「孔孟の教」を最良の「人格養成法」と考える(二七二頁)。

・キリスト教の「愛」と儒教の「仁」は「殆んど一致」する(二八二頁)。「余は、宗教として將た經文としては耶穌の教が良いのであらうが、人間の守る道としては、孔子の教が良いと思ふ」(二八二頁)。

一方の新島には「孔孟の教」の評価は低い。とりわけ渡米直後は、「孔孟の道を以て國を立んとするは、大なる誤なり」とは完全否定であった(③四〇)。

しかし、宗教を異にするとはいえ、知育偏重に警鐘を鳴らし、道德教育を尊重する点では、両者は一致する。たとえば、渋沢の次の一節(一六三頁)である。

・「今の教育は知識を身につけることを重視〔はするが、〕精神を磨くことをな
おざりにして、心の学問に力を尽くさないから、精神の面で青年たちに問題が
出るようになってしまった」。

渋沢が重視する「心の学問」や「心学」(先出)は、新島が言う「心育」、「魂の教育」に一脈通じる。

フィランソロピスト

渋沢は、経済的な成功者は富を社会に還元せよと説いた。自らも聖書で言う「天に財宝を積む」を実践した。社会事業を「道楽」のように支援したのもそのためである。

新島の周辺には、卒業生を含めてこうした特異な資産家が目立つ(拙稿「同志社の精神教育と経済倫理——同志社をめぐるクリスチャン企業家たち——」、『同志社商学』七一の六)。彼にとつては、その原型(モデル)は「アメリカの父」A・ハーディーである。

追悼説教の中で新島は、彼こそ「慈善ノ働キヲ以テ畢生ノ目的」とした企業家、いや「慈善家」(原語はphilanthropist)であったと顕彰する(②四一五)。

新島の目には、渋沢は日本のハーディーと映らなかつたか。フィランソロピストとしての活躍は、刊行中の『渋沢栄一と「フィランソロピー」』(全八巻)が明示しよう。

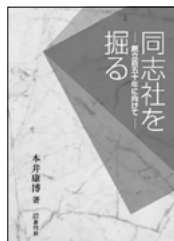
渋沢が一九三二年十一月十一日に亡くなった時、同志社は理事会で彼の死を報

じると同時に、「令嗣敬三氏は、従来本社〔同志社〕と特別の關係がないため社友に推薦しない」と決議した(「同志社理事会記録」)。渋沢栄一との繋がりは潰えたものの、昨今の渋沢「再登場」が同志社でも彼の思想と実績を再検証する契機になればと願う。



救世軍創立者のW・ブース大將歓迎会(救世軍本營提供)
ブース大將(前列中央)、渋沢(前列右端)、山室(2列目左端)
(東京市議會堂、1907年4月18日)

※著者の所属・職名は執筆時のものです。



蒼穹社

5,060円(税込)

刊行年月 2020年11月29日

同志社を掘る

—創立百五十年に向けて—

もといやひろ
本井康博(元大学神学部教授) 著

創立百五十年まであと四年。
年史の編集実務もすでに始動し
たと聞く。

法人が組織を挙げて取り組む
校史が正史ならば、個人著作は
外史である。

早稲田には木村毅『早稲田外
史』、本学にも編纂委員会編『同
志社五十年史』に対して青山霞
村『同志社五十年裏面史』がある。
後者は個人的趣向や偏向が目立
つと批判されながらも、単独執
筆の面目躍如である。

本書も二匹目の泥鰌を狙う。
半世紀に及ぶ新島研究のスピン
オフとしてこれまで発表してき
た同志社史の諸論考を、創立

百四十五年(一〇二〇年)を機に
一本にした私的学園史、いや初
期同志社の発掘調査書である。
個人の手作業ゆえに正史のシ
ヤベルカー数台に対して、スコ
ップ一本。

これぞ蟻螂の斧だが、「五分の
魂」を心して込めれば、独自の視
点で自在に動け、正史では見落
とされがちな地層も試掘できる。

ほかにも本書には、日本近代
史の中に同志社の歩みを位置づ
けたいという外向きの意図をも
こめた。そのため、維新の三傑
が同志社開校に絡んだ史実の究
明を冒頭に据えた。

その他、演説・公開講演会や
社会福祉・社会事業、看護・医
療、体育・スポーツ、音楽など
の分野における同志社の先駆性
をも実証した。菊版六百四十七
頁、二段組でもなお積み残しが
出たので、いずれ補遺版を考え
たい。

同志社の歩みはたかだか百五
十年。されど深掘りすれば、金
銀財宝、遺跡などがまだまだ出
よう。正史によるお宝発掘に期
待したい。

著者より



ミネルヴァ書房

4,400円(税込)

刊行年月 2021年3月30日

記憶と慣行の西洋古代史

—エジプトからローマまで—

なかよし
堀井優(大学文学部名誉教授)

堀井優(大学文学部教授) 編著

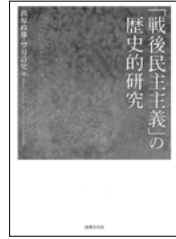
岸本廣大(大学文学部助教) 他著

本書は、同志社大学人文科学
研究所部門研究会第一九期第
一三研究「歴史のなかの記憶と
記憶のなかの歴史」の成果とし
て刊行された。序章(中井、堀井)
で述べたとおり、全一一本の論
考の大半は、ある時点における
過去認識が人々の意識と行動に
与えた影響を明らかにし、また
幾つかは、ある時点に定着した
社会的規範の持続的影響を示唆
する。こうしてその全体をつづ
じて、様々な記憶と慣行が連続
のかつ重層的に示される。

著者より

第三章「民主政復興期におけ
るアテナイ外交」(中井)は有名
なペリクレス時代ではなく、前
四世紀のギリシア史を扱ってい
る。ペロポネソス戦争で多くの
市民を失ったアテナイはスバル
タへの従属を条件に降伏した。
政治的自立の確保と海上権回復
を模索したのが本章のアテナイ
である。その過程で「過去の記
憶」が現実世界に及ぼした影響
力について論じた。

第六章「使節の演説における
過去の語り」(岸本)では、ヘレ
ニズム時代の外交演説を分析し、
当時のギリシア人の間で利用さ
れた過去、その利用から見いだ
される規範を論じた。第八章「ヘ
レニズム詩におけるアレクサン
ドロス」(シルヴィア・バルバン
ターニ、岸本訳)は、ヘレニズ
ム諸王朝を中心に、文学作品や
モニュメントに残されたアレク
サンドロス大王の記憶がどのよ
うに利用され、受容されたのか
を論じる。両論考からは、変化
の激しいヘレニズム時代ならで
はの記憶の作用を垣間見ること
ができる。



法律文化社
7,260円(税込)

刊行年月 2021年3月30日

「戦後民主主義」の歴史的研究

出原政雄 (いずはらまさお)
大学法学部名誉教授

望月詩史 (もちづき しし)
大学法学部准教授 編著

林葉子 (はやし ようこ)
人文科学研究所助教 他著

本書の内容を一言で表すと「戦後民主主義」の内容・特質を、近現代日本の民主主義の歴史の展開の中で探求しようとする試み(序章)である。第1部「戦前日本の民主主義の展開」(第1～5章)、第2部「戦後日本の民主主義の諸相」(第6～12章)の全2部・12章からなる。

第1部は自由民権から大正デモクラシーを経て戦後の民主主義へと連なる近代日本の民主主

義の歴史的展開に焦点を合わせた章立てによって構成されている。各章はそれぞれの観点から「戦後民主主義」との関連を意識しながら検討されており、理論的には立憲主義、「君民共治」論、デモクラシー論、議会政治論を取り上げている。

第2部は概ね以下に分類される。第一に戦後知識人(住谷悦治、丸山眞男、日高六郎)の民主主義論(第6～8章)、第二に女性史の視点から(戦後の民主主義)の実態を検討した論文(第9・10章)、第三に主として1960年代にみられる「戦後民主主義」への問い直しの時期に賛否の立場を主張する知識人(山田宗睦、高橋和巳)の思想(第11・12章)である。時期としてはほぼ1960年代末までを分析対象としている。

本書は出原編「戦後日本思想」と知識人の役割(法律文化社、2015年)と問題意識を共有しており、続編としての性格を保持しているので、同書も併せてお読みいただければ幸いである。

著者より



人文書院
8,250円(税込)

刊行年月 2021年2月28日

身体と環境をめぐる世界史

服部伸 (はっとり のぶ)
大学文学部教授 編

大谷実 (おたに じつ)
大学経済学部助教

穂山洋子 (ほやま ようこ)
大学グローバル地域文化学部准教授 他著

本書は、同志社大学人文科学研究所第一九期部門研究会(二〇一六～二〇一八年度)第五研究の研究成果で、近現代社会における身体および身体と密接に関わる環境に関する領域を多面的に検討する。

その際、生政治という概念を使って、統治者や社会のなかのある集団や個人が、社会のなかの個人や集団に対して、どのようにして監視・介入・操作を行おうとしたのか、また、このよ

うな監視・介入・操作に対して、その対象者となった人びとがどのように対応したのかを、歴史的な文脈のなかで明らかにする。具体的には、労働者を搾取しつつ、消費者を踊らせる現代のグローバル企業、シンティ・ロマの移動を監視する帝政期ドイツの警察、ペストが流行した香港で顕在化した死体遺棄の対策をめぐる言説、日本人の食生活改善を誘導しようとする大正・昭和初期の半官半民組織、スイスにおける移動型民族の子どもを強制保護する民間団体、戦後アメリカにおける知的障がい者の家族、医療倫理を策定する独立前夜のポーランド人医師団体、自然食普及を目指す戦間期イギリスの健康マニュアルなど、一六編の論文を収録する。

ただし、本書では全てを生政治に還元するわけではなく、あくまでも多様な歴史をすくい取ることには力点を置いている。また、人びとを「幸せ」へと「誘導」しようとする生政治のもう一つの側面にも注意を向けている。

著者より



弘文堂

6,600円(税込)

刊行年月 2020年11月30日

民事訴訟の簡易救済法理

川崎 四郎 (大法学部教授) 著

現代の日本社会では、簡易裁判所が、市民に身近な紛争解決機関として日常的な正義の実現に深く寄与している。簡易裁判所は、全国438カ所に存在するいわば「市民裁判所」である。

日本の場合には、世界的に訴訟以外の紛争解決手続(ADR)が注目される遙か以前から、簡易裁判所における話し合いによる紛争解決である「調停」も、よく利用されてきた。本書は、簡易裁判所に関する日本初の本格的な研究書であり、裁判所という名称をもつものの、裁判以外の多様な「簡易救済のフォーラム」を提供している簡易裁判所の創設から現在に至るまでの法の課題や実務の課題を、比較法

的研究を交えて網羅的に論じている。これは、戦後の創設時から今日に至るまで、家庭裁判所と共に法的救済の実績をあげてきたものの、意外にも包括的な研究対象となることがなかったことによる。

富士山のような日本の司法の広大な裾野を形成している簡易裁判所が、市民に利用しやすく頼りがいのある身近な「救済の殿堂」として、理論的にも実務的にも発展し、かつ「市民の司法利用・司法参加」がより一層広がることを願って、私は本書を執筆した。調停制度100周年を迎える約1年前に公開できたことは僥倖である。私は、郷里から輩出した近江商人の「三方よし」、すなわち「売り手よし買い手よし世間よし」の家訓を民事訴訟に応用し、「原告よし被告よし裁判所よし世間よし」の民事訴訟・民事訴訟法の構築を目指してきた。これは、「四方よし」ゆえに、「司法よし」につながると考えるからである。

今後とも、「当事者主導の民主的手続実践」を促進できるように、法的救済過程を研究してゆきたい。

著者より



法律文化社

6,600円(税込)

刊行年月 2020年11月30日

石橋湛山の〈問い〉

日本の針路をめぐって

望月 詩史 (大法学部准教授) 著

「小日本主義」と聞いて「石橋湛山」を想起する人は少なくない。確かに彼の思想は「小日本主義」として体系化され、彼も「小日本主義者」と評価される。

だが「小日本主義」概念には曖昧さが存在するのみならず、戦後の価値観が投影されている。石橋の思想をこの概念に引き寄せて論じることで浮かび上がるのは、多かれ少なかれ「理想化された石橋湛山像」である。その弊害は何か。例えば石橋を引き合いに出して現実政治を批判することである。要は石橋の思想に仮託して自己の思想を語っている。この論者は身勝手にも「理想化された石橋湛山像」を実像

と思い込んでおり、それに相容れない思想像を一切受け付けない傾向にある。

前置きが長くなったが、本書は言論人、政治家として活動した石橋湛山の思想を検討したものである、全3部からなる。本書の独自性は、曖昧な「小日本主義」概念に依拠しないこと、「真」を追求する思考に着目したことにある。後者について少し紹介したい。ここでいう「真」とは「日本人の『生活の方法』」として有効性を持つものが意味する。それに連関するのが「日本の視角に根差した思考である」。「日本」的視角に根差した思考には、「国民的使命観」と「道徳的使命観」が深く結びついており、この使命観が二つの「問い」、つまり「日本からの問い」「日本は世界に対してどのような役割を果たすことができるのか」と《日本への問い》(「日本は役割を果たすためにどうあらねばならないか」)を生み出した。この思考に基づく石橋の言論については、特に第2部をお読みいただきたい。

著者より



森話社

5,280円(税込)

刊行年月 2020年12月18日

テレビドラマと

戦後文学

芸術と大衆性のあいだ

瀬崎圭二(大学文学部教授 著)

昨年一二月に刊行した本書のアイデアを最初に着想したのは、今から一〇年前前のことであつたと思う。そのときの私は某国立大学の文学部に勤めており、そこでは所属教員は必ず科研費に応募しなくてはならないという規定があつた。応募しなければ、その理由を記した書類を作成しなくてはならない上に、事務職員が研究室まで注意をしにやつて来るという話も聞いていた。しかたなく自宅のリビングでぼんやりと研究のアイデアを練つていたところ、寝つ転がつてテレビを見ている妻子の姿が私の視界に入った。

それをきっかけに、私の専門である日本近現代文学とテレビとの関係を少し調べてみたところ、テレビ番組制作にかかわつた作家たちの名前が何人も挙がつてきた。それどころか、テレビがまた新しいメディアだつたとき、このメディアに期待した小説家、詩人たちも多かったことが分かつた。そのことを研究計画に仕立て上げて科研費に応募したところ、皮肉にも採用されてしまった。

そのような形でスタートした研究の成果が本書である。私が主に調査したのは昭和三〇年代に芸術祭に参加したテレビドラマであつたが、遠方までその映像を視聴しに行ったり、当時の番組制作者から話を聞いたりするのには非常に楽しかつた。中でも詩人の谷川俊太郎さんが快くインタビュにに応じて下さつたのは望外の喜びとなつた。その結果、本書とは別に『谷川俊太郎 私のテレビドラマの世界』『あなたは誰でしょう』(ゆまに書房 二〇二〇年三月)も編集し、刊行することができたので併せてご覧いただければ幸いである。

著者より

出版館 ブック・クラブ
2,860円(税込)

刊行年月 2020年11月20日

ホリスティック

教育講義

なかがわよしはる

中川吉晴(大学社会学部教授 著)

筆者はホリスティック教育を専門とするが、本書では、その誕生から今日に至るまでの発展過程を辿り、基本理論を吟味し、さらに実践例を紹介し、方法論を体系的に論じた。

ホリスティック(全体論的)教育は、断片化された教育を克服するために1980年代末に登場してきたものであるが、そのルーツは古今東西の伝統や思想のなかに広く見出される。また本書では、ホリスティック教育に隣接する観想教育やインテグラル教育といった最近の動向にも言及した。

理論的考察では、エマソン、

シュタイナー、オーロビンド、クリシュナムルティ、アサジョーリといった思想家に加えて、第一人者であるジョン・ミラー(トロント大学オントリオ教育研究所留学時の恩師)と、先駆的なビジョンを残したオルダス・ハクスリーについて詳しく論じた。

実践例としては、世界的に見ても優れた取り組みを行っているタイのルンアルン・スクールを紹介した。この学校とはこの10年あまり交流をつづけているが、近年は、筆者が所属する教育文化学科の海外実習先の一つとして学生とともに訪問している。

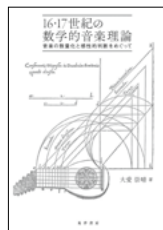
方法論については、ホリスティック教育の多元的理論にもとづくモデルを描きだした。そのほか第6章では、筆者が授業のなかで実施してきた取り組みを紹介し、第7章ではいじめ問題について考察した。

本書は当初教科書として企画したものであつたが、2020年度の科研費研究成果公開促進費を獲得することができた。

著者より

16・17世紀の 数学的音楽理論

おおいなたかはる
大愛崇晴（大学文学部准教授）著



晃洋書房
7,700円(税込)
判型 A5 頁数 288頁
ISBN 9784771034259

世界史の教科書などで、中世ヨーロッパの基礎教育をなした自由学芸に、音楽が算術・幾何学・天文学という「理系」学科とともに挙げられていることに違和感を覚えた人は少なくないかもしれない。ここの「音楽」は、歌や楽器演奏、あるいは作曲といった実技のことではなく、一本の弦をどのような比率で分割すると、どのような音程が得られるのかを探る、きわめて原理的かつ思弁的な知の営みであり、そのため数学の一部とされた。その起源は古代ギリシアに遡り、例えば弦を二対一の比で分割す

るとオクターヴが生じることを発見したのは、「三平方の定理」で知られるピュタゴラスとされる。単純な整数比・音の協和・自然の調和的秩序が一体であるという思想は、「地球の音楽」などの空想的な世界観を伴いつつ、近世に至るまで西洋音楽理論の底流にあり続けた。書名にある「数学的音楽理論」とは、こうした音程と数比の関係性をめぐる理論的考察を指すが、科学革命期にはこの古来の理論も変革を迫られることになる。

本書は、十六世紀最大の音楽理論家ザルリノにはじまり、ケプラー、デカルト、ガリレオといった科学革命の担い手たちが、数学的音楽理論の伝統をいかに引き受け、変容させたのかを詳論する。特に十七世紀イタリアの数学者メンゴリの音程知覚論は、数比による音程の客観的理解と、主観における音程認識がどのように接合されていたかを示す興味深い例であろう。音楽のみならず、哲学や科学史に関心のある向きにも、一読いただければと願っている。

著者より

超大国 中国のあゆみ

ゲンゼン、ヘイ
蔵善平（大学グローバル・スタディーズ研究科教授）著



晃洋書房
3,080円(税込)
判型 A5 頁数 260頁
ISBN 9784771034426

本書はここ20年、著者が各紙誌に寄せたエッセイを体系的にまとめたものであり、中国が超大国へまい進した足跡を主として社会と経済の両面から観察した記録でもある。

伝統的農業から近代的産業への近代化と、計画経済から市場経済への体制移行を同時に進めていかなければならないという中国の改革開放は、共産党による絶対的支配の下で果たして成功するのか。

これら巡って今まで多くの論者が多様な見解を示してきたが、本書は在日中国人学者による中国論の部類に入るかもしれない。反中や嫌中あるいは反日とも一

線を画し、日中双方を冷静に観察し、事実に基づく分析に徹し、相互理解の一助になれるように心がけたという点では、本書が一定の独自色を持つと考えられる。本書の元になる論稿は基本的に自らの学術研究の成果、および現地調査や日本生活の体験に裏打ちされている。幸いなことに、著者の多くの主張が概ね妥当であることが時間の経過と共に実証されている。例えば、①経済成長に及ぼす人口転換の影響および相応の対策、②農業・農村・農民という三農問題への理解および問題解決の処方、③日中経済の逆転および日中関係のあるべき姿、に関する著者の主張である。

著者より



ミネルヴァ書房
3,300円(税込)

刊行年月 2021年3月1日

虫たちの日本中世史 『梁塵秘抄』からの風景

植木朝子(大学文学部教授 著)

本書は、平安時代末の流行歌謡・今様を出発点に、中世の人々と虫の関わりを追いかけ、小さな虫の世界からのぞいた中世の風景を切り取って描くことを目指したものである。

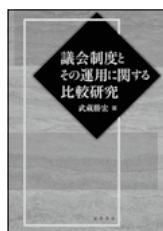
今様に魅せられた帝王・後白河院が、その歌詞を集成した書『梁塵秘抄』には、消えない火を灯している虫、衣を一生懸命に織っている機械虫(キリギリス)、面白く舞う蝶や蠅や蝸牛、拍子をとるように跳ねている稲子磨(シヨウリヨウバツタ)、鉦鼓を打つような声で鳴いている蟋蟀(コオロギ)、人の頭で遊んでいる虱、子どもたちと戯れる蜻

蛉など、多くの虫が登場する。これらの虫を歌い込んだ今様からは、積極的な擬人化をほどこされた愛らしく親しみやすい虫たちの姿が浮かび上がってくる。このような虫の把握はしかし、必ずしも一般的ではない。たとえば伝統的な和歌の中では、多くの場合、鳴く虫が聴覚的に捉えられており、今様のように舞う虫、遊ぶ虫といった捉え方はほとんど見られないし、物語や説話の中の虫には、今様に歌われるように人と親しく交わるのではなく、人に危害を加える恐ろしさが強調されるものもいる。

本書では、上記の虫に加え、百足・蜘蛛・松虫・鈴虫・響虫を取り上げ、現代人が持つ、虫に対しての親近感と嫌悪感といった相反する感情が、過去とどのようにつながっているのか、さまざまな文学・芸能・信仰などに現れる虫の姿をたどりつつ考察した。

身近な虫と人との関わり、ささやかながら豊かな世界を味わっていただければ幸いである。

著者より



晃洋書房
5,280円(税込)
判型 A5 頁数 240頁
ISBN 9784771103477

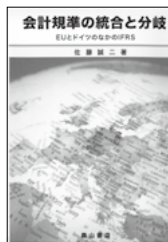
議会制度とその運用 に関する比較研究

武蔵勝宏(大学政策学部教授 著)

この1年半以上続くコロナ禍で、政府の対策の遅れや、政治家の無策に苛立ちを感じられた方も少なくないと思われる。日本以外の主要国では、政府が緊急事態宣言を発令し、議会側も迅速な立法措置で対応したのに対し、日本では、実効性を強化するための法改正に1年近い時間を要することとなった。日本の政治、特に国会の役割は、立法とともに、行政府の監視機能が重視される。政府のチェックをすることが第一義であることは当然としても、この立法の非効率の原因は、どこにあるのか。

そこで、本書では、英仏独伊そして日本の議院内閣制諸国を対象に、各国議会の制度・運用の比較分析を行った。日本の国会は、本会議の審議時間が極めて短く、与党が法案を修正したり、政府に質問したりする機会が極端に少ないなど、実際は、政府対野党の対立構造にある。その原因は、他国に例を見ない与党の事前審査制や、政府による議事運営権の欠如など日本の国会制度や運用の変則性にある。他方で、日本の国会は、短い会期であるにもかかわらず、重要法案の制定に多大な時間を要する傾向がある。このことが、危機管理において負に作用するのは皮肉的ともいえる。では、そうした国会を再生するためには何が必要なのか。本書では、衆議院での対案をめぐる論争を活性化させると同時に、それと切り離した調査委員会等の行政監視機能の強化を提案した。本書は学生用のテキストとして執筆したものであるが、社会人や高校生などにもぜひ一読していただければと思っている。

著者より



森山書店
3,630円(税込)
刊行年月 2020年10月31日

会計標準の統合と分岐 EUとドイツのなかのIFRS

佐藤誠二(さとう せいじ)
大学商学部教授 著

ヒト、モノ、カネ、情報が国境を越え自由に行き来するグローバル社会において、最近のESG(環境・社会・ガバナンス)等の関連でもみられるグローバル・スタンダード(国際的な基準・標準)の取り扱いが課題となっている。この課題を会計学の領域で取り上げ、とくに、会計のグローバル・スタンダードとしてのIFRS(国際財務報告基準)の最大利用者であり、28の加盟国を含む統一経済圏を形成するEU(欧州連合)のなかで、IFRSがどう受容されているのか、問題点も含め検討したのが本書である。

念頭に置くのは、「統合と多様性」という二つの観点である。

IFRSはIASB(国際会計基準審議会)が策定するグローバル・スタンダードであつても、そのガバナンスは結局、ローカルな国家の規制当局に委ねるしかなく、そのパラドキシカルな性格が、IFRS適用の国際的多様性をもたらす基本的要因となる。EUの場合、規制市場の上場企業に対し、2000年からIFRSという外生基準の適用が義務づけられたが、その順法性は、基本的には加盟国の監督機関に委ねられる。本書では、加盟国制度の「多様性」を認めつつ、会計基準の「緩やかな統合」を求めるEUとその主要国ドイツの姿を描き出すとした。

今後、グローバル化がより進行するにつれ、経済、社会、文化など多くの面でグローバル・スタンダードの要請が高まることが予想される。では、それにどう対応すべきか。その課題に対して、本書がなんらかの示唆を与えることが出来ればと思う。

著者より



新典社
2,915円(税込)
刊行年月 2020年9月10日

百人一首を読み直す2

言語遊戯に注目して――

吉海直人(よしかい なおひと)
女子大学特任教授 著

本書は前著『百人一首を読み直す―非伝統的表現に注目して―』の続編である。著者は長年に亘って百人一首の研究を行ってきたが、その成果がこの二冊に込められている。前著は副題が示すように、百人一首に歌語の初出例が多いことから、「非伝統的表現」に注目して撰者定家の新表現好みを論じてみた。

それに続いて本書では、百人一首に掛詞などの技巧つまり「言語遊戯」に注目して、定家が和歌の技巧を開拓していることを論じてみた。その一つが三重の掛詞である。普通、二つの意

味を掛けるのが掛詞とされているが、定家はさらに三つの意味を加えてより複雑な技巧を開拓している。

具体的には小式部内侍の「大江山」歌や参議雅経の「み吉野」の歌を例にして論じている。「大江山」には「多くの山」が掛けられ、「生野」には「行く」だけでなく「幾つもの」を掛けることで、「天の橋立」までの道の困難さを強調していると論じた。また「三吉」の歌の「さ夜更けて」には、「夜が更ける」「秋が更ける」のみならず、「秋風が吹く」までも掛けられていることを論じた。そのために定家は「風ふけて」という表現を作っている。

それ以外にも、行平歌の「因幡」「往なば」「松」「待つ」が因幡国歌の最初の掛詞であること、素性の「長月」が「長い」の掛詞になっていることなど、百人一首撰入歌に見られる言語遊戯の特性を論じている点に本書の斬新さが認められる。

著者より



アルテスパブリッシング
2,420円(税込)
判型 四六判 頁数 240頁
ISBN 9784865592221

フォルテピアノ 19世紀ウィーンの製作家と 音楽家たち

筒井はる香^{つうい} (女子大学
文学部助教) 著

本書は、古典派から初期ロマン主義にかけてのウィーンの音楽文化を、ピアノ製作史の側から見つめたものである。従来の音楽史研究は、主に作曲家や彼らの作品を中心に描かれてきた。しかし、鍵盤音楽の歴史がどのように変遷してきたのかを明らかにしようとするとき、楽器製作史研究は避けては通れない。なお、タイトルにある「フォルテピアノ」とは、18世紀、19世紀にヨーロッパで使われていたピアノの名称で、また現在では、モダンピアノと区別する

ために歴史的ピアノを総称してこのように呼ぶ。

筆者は、2006年から2年間、ウィーンに留学している間、ヨーロッパ各地の博物館や個人宅で数多くのオリジナルの古楽器を見る機会があった。その都度、心が動かされたのはその多様性と個性である。形状、色、装飾、機能、音色、響き、どれ一つとってもまったく同一のものがな

いと言つても過言ではない。

研究を進めるうちに、当時の鍵盤楽器は、受注者の要望に応じて製作する、なかばオーダーメイドの形態をとっていたことがわかってきた。第5章「シュトライヒヤーの顧客たち」が読みどころ。ここでは仲介者が製作家に宛てて書いた書簡が紹介され、音楽愛好家、首座大司教選帝侯、音楽家、大公妃など様々な顧客たちの要望や、当時の鍵盤楽器製作の状況を手に取るように知ることができる。これまでも少し異なる視点から音楽史を見る面白さを共感していただけなら幸いである。

著者より

繋真館

(同志社香里中学校・高等学校)



カウンターテーブルから望むシンボルツリー(Photo by Satoshi Asakawa)



エントランス(Photo by Satoshi Asakawa)



外観



ラーニングcommons

2021年4月、本校卒業生から頂いた高額寄附を原資に、図書館とICT教育施設を融合させた繋真館(メディアセンター)が竣工しました。
名称は、未来を担う生徒たちのために「人と人が集い、人と知識・情報を『繋ぐ』新しい学びの場」になつて欲しいという願いと、ヨハネによる福音書第8章32節「あなたたちは『真理』を知り、真理はあなたたちを自由にする」に由来しています。

繋真館は、中庭の既存の樹木を残し、沢山の緑に囲まれた「香里の森」と名付けられたエリアに建てられた「静的空間」と「動的空間」が共存する新しいタイプの図書館です。

ガラス張りの円形カウンターや建物奥の自習スペースがある静的空間では、香里の森の樹木を感じながら静かに読書や学習に集中できます。一方、能動的・協働的な学びの場である動的空間では、書籍や雑誌はもちろんノートPCやタブレットを用いて情報収集したグループ学習やプレゼンテーションができるラーニングcommons、メディアラウンジ、commonsスペースの3つのエリアで目的に合わせた多彩な教育活動を行うことができます。

キャンパスの中心部にあるこの繋真館が生徒たちの新たな知の拠点となり、生徒自らが問題発見・解決に積極的に取り組む、自治自立の精神を育む新しい知的創造空間として活用されることを期待しています。



繋真館紹介動画
QRコード

新たな知の拠点となり、生徒自



2021年9月、旧継志館跡地に継志寮が竣工しました。館名は、創立者である新島襄が1889年12月10日に認めた書簡の一文「誰力余之志を継ぎ此事業を成就せしむるあるへしと陳へたるなり」(『新島襄全集第4巻書簡編Ⅱ』)に由来します。この寮の寮生には、新島襄や同志社に連なる方々の「志」を受け継ぎ、その実現を先導するような人物に成長することが期待されています。

継志寮は同志社大学VISION2025 に掲げられた「日本人学生と外国人留学生が区別なく生活を共にし、学びあえる寮」を具現化した本学初の「教育寮」です。人種、性別、障がいの有無、文化等の様々な違いや背景を持つ学生が混住・交流する環境のもと、多文化共生、地域社会との異世代共生を実践する生活を通して多様な価値観を理解し合い、その違いを新たな創造へ導く力を持つ人物の養成を目指します。

建物は地上3階・地下1階建ての鉄骨造(一部鉄骨鉄筋コンクリート造等)で、京都市市街地景観整備条例にもとづく勾配屋根と軒庇の外観であり、高さを低く抑えることで周囲の街並みと調和するデザインです。建物内部には、地階と1階にワークシヨップルームを配置し、外部の方へのプレゼンテーション等が可能なエリアを設置しています。

幻のヴォーリス建築 ——一九三五年同志社創立六〇周年記念計画——

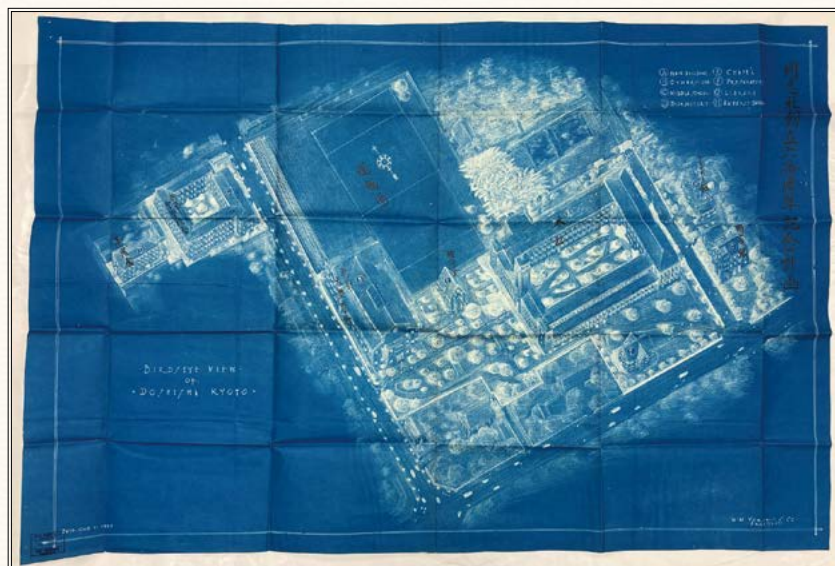


図1 同志社創立六拾周年記念計画
(「創立六十周年記念募金計画 昭和十年九月」所収)

ウィリアム・メレル・ヴォーリス

(William Merrell Vories, 一八八〇—一九六四年)は、一九〇五(明治三八)年に宣教を志して来日し、東京の山の上ホテルや、京都の東華菜館、駒井家住宅を設計したことで知られる建築家である。彼は、一九一五(大正四)年から一九四二(昭和一七)年にかけて建てられた同志社の建築にも深く関わった。同志社におけるヴォーリス建築事務所による建物は、アーモスト館(国登録有形文化財)、同附属家、啓明館(国登録有形文化財)、新島遺品庫が現存しており、相国寺の門前の道の東側に並んでいるのを見ることができる。

今回ご紹介するこの図面は、「創立六十周年記念募金計画 昭和十年九月」(同志社社史資料センター所蔵)

に納められている「同志社創立六拾周年記念計画」と題された複数枚ある図面の中の一つ、鳥瞰図(『BIRD EYE VIEW OF DOSHISHA KYOTO』)である。日付は『Aug. 1. 1935』 署名は『W. M. Vories & Co. Architects』とあり、一九三五(昭和一〇)年八月一日、ヴォーリス建築事務所が設計した現在の今出川、室町キヤンパスの図面であることがわかる。

すでにお気づきかと思うが、この図面には興味深い点が多々みられる。まず目を引くのが、④本館と書かれた、中央にある口の字型の大きな校舎である。本館の塔の向きを考えれば、現在の西門を正門としているようにも見える。さらに、彰栄館の場所には、③新築大体育館がみられる。大体育館内には温水プールが計画された。そして現在、寒梅館が建つ場所には、②新築中学校舎および①寄宿舎が建っている。⑤礼拝堂、⑥有終館、⑦図書館(啓明館)、⑧アーモスト館はそのままである。

一方、一九三五年当時は存在していたにもかかわらず、この図面には見られない建物が多々ある。それは、現在

のハリス理化学館、現在のクラーク記念館、同志社事務所、弘風館(一世)、徳照館(一世)、そして一九一六(大正五)年に竣工した致遠館(一世)などである。特に興味深いのは致遠館(一世)で、これはヴォーリス建築事務所によつて設計され、一九三五年当時、竣工から一九年しか経っていない建物である。

なぜヴォーリス建築事務所はこの図面をひいたのだろうか。「創立六十周年記念募金計画」という史料にこの図面が含まれていることに、一つの鍵がある。一九三五年に創立六〇周年を迎え計画された募金では、建築設備資金、福利奨学基金それぞれ百万円を用途とし、総額二百万円の募金目標額が掲げられた。募金の期間については変動があるものの、当初は創立六〇周年を迎えた一九三五年から五年間の予定であった。この時期、大掛かりな建築計画が必要であった理由として、「同志社六十周年記念趣意書 昭和十一年」(同志社社史資料センター所蔵)には、学生数が増加し、校舎が老朽化したこと、そして「教育的施設としての本社諸校舎の能率低下を来

し、早晚大改築をする必要に直面」したためと書かれた。

ヴォーリズ建築事務所のこの図面は、募金を集めるためのいわば青写真となり、実際に前述の「同志社六十周年記念趣意書」にその体育館の図面の一部が掲載されたほか、同志社創立六〇周年記念誌『我等ノ同志社』（同志社事業部、一九三五年、同志社社史資料センター所蔵）

にもこの図面に類似した図面が掲載された。

しかしながら、約五年にわたる募金とヴォーリズによる建築計画は成就しなかった。創立六〇周年記念募金で集まった資金は、一九四一（昭和一六）年二月に建てられた精思館の土地購入費およびその建築費などにあてられた。精思館は、大学の大教室と専門学校の教室不足を補うために建てられた木造校舎で、冷泉家の横の藤谷子爵家の土地（現在の徳照館付近）を購入し建てられた。

計画が変更されたのは、単に募金が集まらなかったのではない。戦時体制に突き進む中で、すでに大きな校舎を建てることができなくなっていた。さらに戦局が悪化し、長期勤労働員や学徒出陣によって、学内は閑散とし

たという。

もし、このヴォーリズ建築事務所が描いた創立六〇周年記念計画が達成されていれば、現在はどのようなキャンパスであつたか、想像せずにはいられない。幻のヴォーリズ建築が、私達の想像力を大いにかき立てる。

参考文献

前久夫、山形政昭「同志社の近代建築（下）―遺構と資料―」（『同志社談叢』第四号、同志社社史資料室、一九八四年）

河野仁昭『キャンパスの年輪―同志社今出川校地―』、

同志社大学出版部、一九八五年

山形政昭「同志社とヴォーリズ」（認定NPO法人

古材文化の会編『同志社大学致遠館調査報告書』、

同志社大学同志社社史資料センター、二〇二〇年）

（同志社社史資料センター）

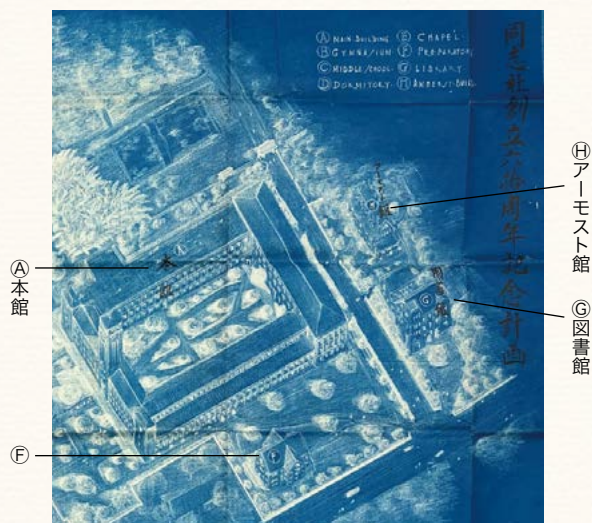


図1 右側拡大 (部分)

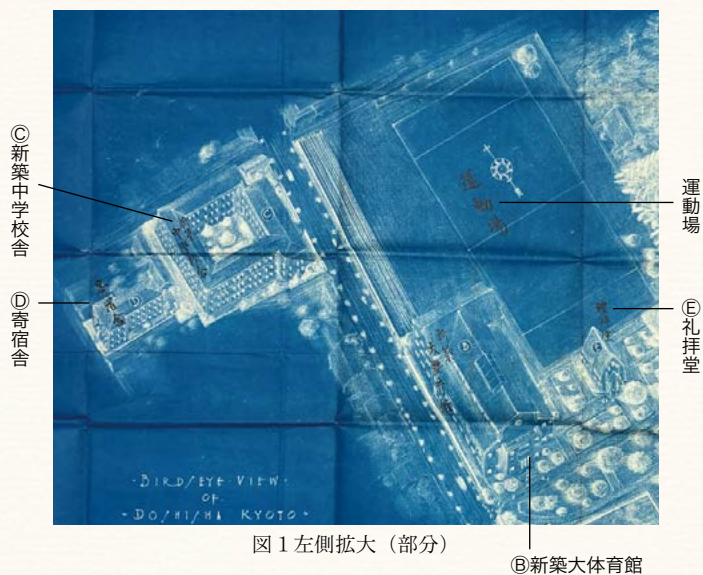


図1 左側拡大 (部分)

⑧新築大体育館

2021年度同志社大学アメリカ研究所
春季公開講演会

「優生学運動とその遺産 —身体管理のポリティクス—」

富山大学学術研究部
人文科学系教授

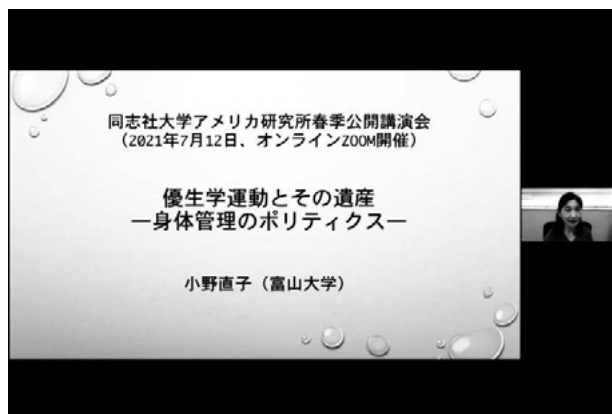
おの なお こ
小野直子氏



※本講演では、歴史的叙述においては「精神薄弱」（知的障害の古称）など、現在では不適切として使用されていない用語を訳語として使用しています。それは用語の定義が当時の思想を反映しており、現在使用される用語と含意が異なるためです。

優生学登場の社会的背景

新型コロナウイルス感染症の拡大は、警察や人々による相互監視、同調圧力など、政府と社会が一体となって個人の体への介入をもたらしっていると云えます。本日は社会と個人の関係性および、そこ



に潜む諸問題を歴史的に考える一助として、優生学運動を取り上げ、身体の社会性に注目します。

アメリカでは1907年から37年にかけて、32州で断種法が制定され、6万3000人以上のアメリカ人が断種されました。ドイツでは33年に遺伝病子孫予防法が制定されています。今日では、このアメリカの政策とナチスの犯罪の類似性が指摘されています。日本でも優生思想に基づいて48年に優生保護法が制定され、特定の疾病や障害を有することなどを理由として、多くの人々が生殖を不能にする手術または放射線の照射を受けました。96年の母体保護法まで、優生保護法に定められていた優生手術に関する規定は削除されませんでした。それに対しては2019年4月に、旧優生保護法に基づく優生手術等を受けた者に対する一時金

の支給等に関する法律が国会で成立し、公布・施行されました。

「優生学」とは、進化論で有名なチャールズ・ダーウィンのいところであるイギリスの科学者、フランシス・ゴルトンが1883年に作った言葉です。より生存に値する人種または血統に対し、より劣

2. 優生学とは

- 1846年 グレゴール・メンデルが遺伝の法則発表
- 1883年 フランシス・ゴルトン
「優生学」=「生存により値する人種
または血統に対し、劣等な人種あるいは
血統よりも、より速やかに繁殖する機会
を与えることによって」人種を改良する
「科学」
- 1900年 メンデルの遺伝の法則の再発見
- 1903年 アメリカ育種家協会 (ABA: American Breeders Association) 創設
- 1906年 ABAに優生学委員会設置
- 1910年 ABAに優生学部門設置
- 1913年 アメリカ遺伝学協会と改称

等な人種あるいは血統よりも、より速やかに繁殖する機会を与えることによって人種を改良するという意味で、それが科学として提示されました。優生学の拡大を推進したのは、グレゴール・メンデルの遺伝の法則に負うところが大きいです。しばらく顧みられなかったメンデルの業績は1900年になって再発見され、多くの研究者に支持されました。19世紀末から20世紀への転換期には、人間のすべての特質が遺伝に由来するという認識が、漠然と拡大していきます。

1903年に設立されたアメリカ育種家協会では、人間の品種改良を科学する優生学委員会が設置されました。これが1910年には優生学部門に格上げされました。これには当時の社会的背景が関係します。19世紀末から20世紀初頭にかけてのアメリカでは、移民流入によって工業化と都市化が進行しました。そこでは労働争議や、女性参政権・産児制限を要求する運動が起こり、第一次世界大戦や黒人大移動なども起きて、政治的・経済的・社会的な葛藤や不安がもたらされました。そのような中、さまざまな社会問題を合理的に解決しようとする革新主

19世紀末から20世紀初頭のアメリカ
移民の流入、工業化と都市化、労働争議、女性参政権や
産児制限を要求する運動、第一次世界大戦、黒人大移動など
→政治的・経済的・社会的葛藤や不安
→さまざまな社会問題を合理的に解決しようとする
革新主義運動家にとって、「科学的」根拠に基づく
優生学は魅力的

積極的優生学 (Positive Eugenics)
望ましいと思われる人間の多産を奨励

消極的優生学 (Negative Eugenics)
望ましくないとと思われる人間の排除
移民制限、生殖制限 (隔離、婚姻制限、断種 (不妊化))

義運動家たちにとって、実験科学的な根拠に基づく優生学は魅力的に思われました。科学が何よりも信奉された時代であり、遺伝に関する科学的知識を社会政策に生かして、人種の退化を防ぐための手段として考えられたのが優生学でした。文明を強化するためには市民が健全な精

神と健康な身体を必要とするという主張のもと、望ましくないと思われる遺伝子を排除する政策として、移民制限や生殖制限が行われました。生殖制限の方法としては、隔離・婚姻制限・断種（不妊化）が試みられることになります。

断種法制定の歴史

アメリカでは19世紀末から、法的な根拠がないまま、いくつかの州で刑務所・矯正施設・精神病院・精神薄弱者収容施設などで、懲罰・治療・管理などを目的とした不妊化手術が実施されてきました。1897年にはミシガン州で優生学的断種法案が提出されますが、これは不成立となりました。1901年にもペンシルヴェニア州で断種法案が提出されますが、知事が拒否権を発動します。1905年にも同州でこの法案が再提出され、やはり知事が拒否権を発動しました。

実際に断種法が制定されたのは1907年、インディアナ州においてです。犯罪者・知的障害者・レイプ犯の強制断種を認める法律が制定され、11年までに同州では873人の男性が断種されました。

他の州でも1907年から17年にかけて15以上の州で断種法が制定され、この動きは南部を除き、アメリカ全域に及びました。

20世紀の初頭に、なぜ断種法が認められたのか。根拠とされたのは次のような事柄でした。第一に、当時は精神障害者・精神薄弱者・てんかん患者・貧困者・アルコール中毒者・犯罪者など、望ましくないと考えられる人たちが増加していると認識されていました。第二にそうした社会的「不適者」は、正常な人々よりも多産であることが想定されていました。第三に精神障害・精神薄弱・貧困・犯罪性などは、基本的に遺伝性であるという認識がありました。四目点として、環境は遺伝ほど重要ではなく、慈善や福祉は不適者を増加させるので人種の改良に反するという主張がありました。施設への収容や裁判費用などには税金が使われるため、不適者は納税者つまり社会にとって負担になり、重荷や脅威であるという論理です。

ただ、断種法を制定した州でも、断種政策の基準への疑義が法廷で争われたり、立法過程で少なからず反対票が投じられ

たり、行政側は執行を拒否したり、法案が議会を通過した後でも知事の拒否権発動によつて葬り去られたりと、さまざまな経緯をたどり、第一次世界大戦勃発の頃には、断種法を巡る議論が激しくなりました。

焦燥感を深めた優生主義者や断種推進主義者たちは、問題の決着を最高裁でつけようとしています。1924年、綿密に練られた断種法がバージニア州で制定されます。同年、「バック対ベル」裁判が起きました。バージニア州のてんかん患者・精神薄弱者収容施設の理事会が、キヤリー・バックという17歳の女性の断種を決定し、彼女に対して手術を行うことが合憲か否かを争う裁判です。これは27年に連邦最高裁判所で、8対1で合憲であるという判決が下されました。この判決文は非常に有名です。その一部にはこうあります。「明白な不適者が同種を再生産することを社会は予防することができるのであれば、世界にとつてより望ましい。ワクチンの強制接種を認める原則は、卵管切除術に対しても適用されるのに十分である」。

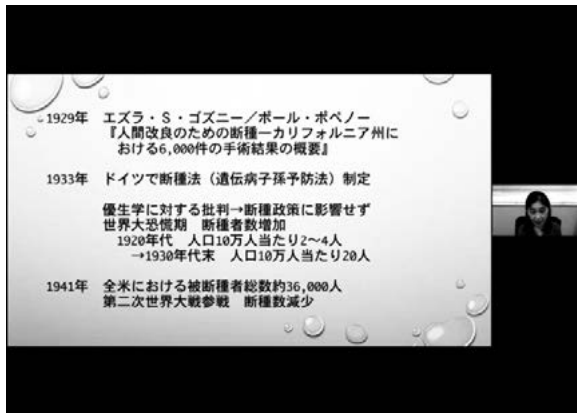
これにより、20年代の終わりには断種

法は24州で制定され、南部の州も例外ではなくなりました。30年代に世界を襲った大恐慌は、優生主義者にとって断種推進の必要性をますます痛感させることになりました。断種手術の大半は公立施設の収容者を対象に実施されていました。彼らは基本的に生活困窮者であつたため、優生主義者の範囲をはるかに超える断種支持を各方面から集めることになりました。

こうした風潮のもとで、北欧でも断種法が制定されていきます。ドイツでは33年、「遺伝病子孫予防法」が制定されました。その際参考にしたのが、アメリカで29年に出版された『人間改良のための断種』という、カリフォルニア州の断種政策の歴史をまとめた報告書です。カリフォルニア州はアメリカの断種政策において先駆的な役割を果たしていました。こうした時代背景があり、20年代の断種数は人口10万人あたり2〜4人だったのが、30年代終わりになると20人に達し、41年までに全米における被断種者数は約3万6000人に及びました。

一方で20〜30年代には、遺伝の法則は20世紀初頭の優生学運動において主張さ

れたような、単純なものではないことが指摘されるようになっていました。第二次世界大戦が始まると、アメリカで優生断種政策への関心は減り始めます。アメリカが大恐慌から立ち直り、戦時生産が雇用を増加させたため、福祉の経費が急激に減っていったからです。あるいは戦争のために、外科医不足も原因となりま



した。

断種政策の変容と社会的背景

そうした中で42年、連邦最高裁判所で断種に関する重大な判決が下されます。「スキナー対オクラホマ」判決です。これはオクラホマ州の断種を巡る裁判で、最終的にはバージニア州の断種法合憲判決を覆したわけではありませんが、重大な指摘がなされました。一つ目が、生殖の権利が人間の基本的人権の一つであることを、連邦最高裁が初めて認めた点です。二つ目は、「悪意のある人間の手にかければ、支配集団と対立する人種や特定集団の人々を衰退させ、絶滅に追い込むことも可能である」と指摘された点です。

とはいえ、優生思想そのものが完全に姿を消したわけではありません。ドイツでは優生学が民族浄化政策へと転換しました。しかし第二次世界大戦後も、ユダヤ人虐殺や人体実験がナチスの悪行の核心と考えられ、優生断種は非難の対象にはなりません。大規模に行われたナチスの断種政策は、確かに他国と比較

すれば極端なものではありませんでしたが、実際には似たような政策は他国でも実施されていて、第二次世界大戦後も継続されています。日本でも第二次世界大戦後の1948年に制定された優生保護法は、優生上の見地から、不良な子孫の出生の防止を目的としていました。このような政策は50、60年代にはまだ問題視されておらず、むしろ新たな社会的・文化的な不安を反映して実施されるようになっていきます。

アメリカでは60年代までに、新たな傾向の強制断種が連邦家族計画を通して南部から全国に拡大していきます。そして「自発的な」選択を装った強制断種が実施されるようになっていきます。60年代末に一部の医師たちが、生殖に不適であるとなした女性に対して、望んでもいない、あるいは理解できない手術に同意することを強制しました。患者は訴訟を起こし始めますが、医師は断種が患者の希望である証拠として、患者が署名した同意書を法廷に提出するという、新たな強制断種のパターンが発達していきます。背景には第二次世界大戦後の福祉の拡大と、福祉受給者のイメージの変化があり

ました。

35年の社会保障法で、要扶養児童扶助が成立します。一人親家庭の16歳未満の貧困児童を対象にした制度です。これが62年に要扶養児童家庭扶助と名称変更されますが、このような児童に対する扶助が拡大していきます。その経費は、40年には1億3300万ドルだったものが、60年には9億9400万ドルになり、67年には22億ドルに増加しました。50年代半ばまで、福祉の受給者は主に働き手の夫を亡くした同情すべき白人の寡婦でしたが、60年代半ば以降はマイノリティの女性が増えていきます。性的に不品行な黒人のシングルマザーが「福祉の女王」と言われたように、福祉受給者のイメージが変化しました。

背景には、アメリカ全体における人口の増加や離婚率の上昇に伴い、人種を超えて公的な扶助を求める女性が増えていったという全国的傾向がありました。特に南部では農業の機械化によって労働者が解雇され、さらなる低賃金労働に追いやられる、あるいは労働市場から排除される黒人が増え、福祉受給者が増えていったのです。実際には白人が福祉受給者

の最大集団ではありましたが、黒人女性の福祉受給率が高くなっていったのは事実です。

当時は世界的な人口爆発に対する切迫感があり、貧困層を対象とする家族計画に対して資金と人員が投入されていました。家族計画は、基本的には貧困者に対する産児制限でした。67年には連邦政府が家族計画に参入します。64年に設立された経済機会局は、家族計画の方法として、既婚女性に子宮内避妊器具や経口避妊薬ピルの提供を行いました。同局は断種手術の支援は躊躇していましたが、女性解放運動や性革命の高まりを背景に、望まない妊娠・出産を防ぐ権利が主張され、効果的な避妊法として断種を求める人も増加しました。

71年、経済機会局は断種手術の実施にあたってガイドラインを作成しました。しかし実際の配布は74年になり、空白期間には最低限の保護規定もないままに、連邦の資金援助のもとで断種手術が実施され続けました。南部では人種隔離政策撤廃を巡って白人と黒人が争っていたため、黒人女性が強制断種の標的にされました。カリフォルニア州などではメキシ

コ人移民の問題があつたため、人口と福祉受給者数を減らす手段として、医療関係者はメキシコ人女性とメキシコ系アメリカ人女性を断種の標的にしました。ニューヨーク州ではプエルトリコ系や黒人の女性がターゲットになりました。

インフォームドコンセントの発達と断種ガイドライン制定

1950年頃から80年頃まで強制的に断種された人々の正確な人数は不明瞭です。当時はまだインフォームドコンセントの概念や政策が発展途上でした。45

46年に行われたニュルンベルク裁判では、人体実験についての厳しい倫理が強調されました。特に欧米の医師の中にはこれを深刻に受け止めた人が多く、48年には世界医師会がジュネーヴ宣言を決議し、67年にはヘルシンキ宣言が出されました。

ヘルシンキ宣言は、医学の進歩のためには人体実験が不可欠である点は認めた上で、科学や社会に対する貢献よりも被験者個人の利益と福祉を優先すべきであるという原則に立ち、臨床研究の倫理を守るための具体的な手続きを明らかにし

たものです。国際的にも高く評価され、医療倫理のバイブルとされています。こうした考え方の基本がインフォームドコンセントにあるということが明確になり、患者の権利という受け止め方がなされるようになっていきます。特にアメリカではこの傾向が強く、73年にはアメリカ病院協会が、インフォームドコンセントが患者の権利を保証するものであることを「患者の権利章典」に明記しました。このように医療倫理が医師の義務から患者の権利へと移行したことが、非常に決定的な動きであつたと言えます。

60〜70年代は女性解放運動や性革命によって、自発的断種が、権利として考えられていきました。65年には連邦最高裁判所による「グリスウオルド対コネティカット」判決がありました。夫婦が避妊具を使用する権利を認めるといふものです。72年の「アイゼンスタット対ベアード」判決では、非婚者にも避妊具を使用する権利が拡大され、73年の「ロー対ウエード」判決では中絶の権利が認められました。生殖の管理に対する人々の認識が変化したわけです。連邦最高裁が生殖の管理を、憲法上保護された権利である

と認める判決を下すようになると、産児制限の手段としての断種手術に対する要求も高まっていきます。

断種手術の技術も急速に発展し、安全かつ簡単になっていきます。ただ、医療行為として安全な避妊目的の中絶や断種手術を選択的に受けることができるようになったのは、中産階級の白人でした。連邦家族計画のプログラムによって貧困者の中絶や断種手術の利用の可能性は高まりましたが、逆にインフォームドコンセントの概念が発達したため、福祉受給の前提として断種手術の同意書にサインを要求されることで、望まないサービスの利用を強制されるという事態が起り得ました。断種への同意を求められるのが陣痛の最中や帝王切開手術の直前だったり、鎮痛剤を打たれて意識朦朧とした状態だつたりということもありました。スペイン語を母語とする患者に対して、英語の説明書しか用意されないこともありました。60年代末からは、このような強制断種裁判も増加していきます。原告たちは貧しく、もともと被害を受けやすい女性たちでした。

裁判所はこうした訴えを却下していま

したが、ようやく断種手術の濫用が問題視されるようになっていきました。注目したいのが73年の「レルフ対ワインバーガー」裁判です。アラバマ州の10歳と12歳の黒人姉妹に対して、家族計画の職員がデポ・プロベラという避妊薬の注射を打っていました。70年代初頭、デポ・プロベラは実験的な避妊方法として臨床試験が行われており、連邦政府から資金を提供されているクリニックで、職員が福祉受給者に対して注射をしていました。発がん性の恐れが判明したため、73年春に臨床試験は終了しましたが、家族計画の職員は読み書きができない母親に十分な説明をしないままサインをさせ、姉妹に断種の注射をし続けたというものです。

これは政治家が医学的な自己決定のプロセスに参入し始め、一般大衆が、特に有色人種に向けられた医療差別を知るようになった時期に起こりました。その前に「タスキギー事件」がありました。これは32年から72年までの間に、公衆衛生局がアラバマ州タスキギーで約600人の黒人男性に対して梅毒実験を実施し、治療せずに病気の影響を観察したというものです。この話が72年にジャーナリス

トによつて暴露され、公聴会が開かれていた最中にレルフ姉妹の裁判が起きました。特に公民権運動に関わっていた人々にとつては、黒人が第二級市民であり続けていることを裏付けるものであり、医療における人種差別ということで、後に二つが結びつけられることになります。

「レルフ対ワインバーガー」判決では、断種のガイドラインの作成が命じられました。最終的なガイドラインが出されたのは78年で、手術から同意までの待機時間の延長、21歳未満の未成年者の断種の停止、当事者の主要言語での説明などが盛り込まれました。インフォームドコンセントの必要性が強化されたということです。これによつて、強制断種を巡る論争は一応終結します。地方における断種反対連合も解散し、訴訟も減少しました。ただし保健教育福祉省は、ガイドライン順守を呼びかけはしましたが、監督する権限を与えられていなかったため、ガイドラインの網目をくぐつての断種は続けられました。

強制断種は、98年の国際刑事裁判所ローマ規程第7条において、「人道に対する罪」の一つに規定されました。ただ、

強制断種は今なお終わっていません。例えばカリフォルニア州の刑務所では、2006年から2010年の間に、少なくとも148人の女性が強制断種されました。このような強制断種の歴史をさかのぼると、それを可能とした要因がいくつか考えられます。生殖管理による納税者の負担軽減という経済的利益の存在、親として不適な人々を想定するという、生殖管理を正当化するような思想的枠組みの存在、そして医師の専門的な判断による医療行為としての手術が行われていたこと、つまり医師の自由裁量による余地が大きかったこと、これら3点が挙げられます。

42年の「スキナー対オクラホマ」判決では、断種が特定集団の人々を衰退させて絶滅に追い込む可能性がある」と指摘されていました。現在もその可能性は失われていないのではと考えます。(2021年7月12日、オンライン)

同志社 クローズ・ アップ

同志社創立150周年記念事業がスタートしました

法人事務部創立150周年記念事業事務局

1. 同志社創立150周年記念事業の意義

2025年に同志社は創立150周年の節目を迎えます。これを記念するために様々な事業を展開することが決定されました。創立150周年事業は三つの大きな意義を持ちます。一つ目は、年にわたって積み重ねられてきた歴史を正確に把握し、後世に伝えること。二つ目は、建学の精神、教育の理念を念頭に、同志社教育の現況を過去に照らし合わせて検証すること。そして、三つ目はかつて勝海舟に問われた新島が「同志社教育の理想の実現には200年の歳月が必要」と答えているように、同志社教育理想の実現とされる創立200周年(2075年)に向けて、創立150周年を機に学生・生徒・児童・園児(以下、「学生など」)、卒業生、教職員が「一丸」となつて新たな歩みを強力に進めること。



同志社創立135周年記念「函館新島講座」

とです。

過去・現在・未来を視野に入れた記念事業は、同志社に繋がる多くの関係者、同志社を取り巻く地域社会、国内外のコミュニティ全般をも対象とし、同志社の真価を広く強く発信する好機とすべく取組を進めてまいります。また記念事業の実施により、同志社に関心を持つ方だけでなく、同志社の未来建設に主体的に寄与する理解者をひとりでも多く得たいと願っています。同志社創立150周年記念事業を通じて14の学校の連携をより深めることで、同志社の更なる飛躍を目指します。

2. 同志社未来創造プロジェクトが始動します

創立150周年記念事業を行うにあたり、様々な企画を練り実行するため、各学校の教職員を対象に同志社未来創造プロジェクトメンバーを公募し、2021年6月に決定しました。6月25、26日に初めてプロジェクトメンバーが打ち合わせを行いました。周年事業を通して社会に対して同志社の何を発信していくか、現時点における課題や今後行っていく企画などについて意見交

換を行いました。周年事業の具体的な内容はこれから決定することになりますが、プロジェクトメンバーの柔軟な発想やアイデアで創立150周年記念事業の設計図を描き、形にしていきます。皆様が周年事業のアイデアを思いついたり、関わってみたい企画などがあれば、プロジェクトメンバーにお話しをいただるか、創立150周年記念事業事務室までご連絡をいただければ幸いです。

同志社未来創造プロジェクトメンバーについては以下のHPをご参照ください。

<http://www.doshisha.ed.jp/works/150th.html>

3. 同志社に繋がる私たちだからこそできる記念事業

社会に広く同志社の周年事業をアピールするために、多くの同志社関係者に創立150周年記念事業に関わっていただき、盛り上げていきたいと考えています。同志社創立150周年記念事業委員会からは、学生などが参加するための取組を進めてもらいたいという意見をいただいています。徐々に、事務室にもアイデアが寄せられています。各方面から寄せられた意見を実現するために、同志社創立150周年事業募金を今年10月に立ち上げることにしました。募金は創立150周年事業に活用させていただきますが、それ以外にもクラブのOB会などで記念事業に合わせたイベントを予定されている場合にも活用いただければと思っています。ぜひ創立150周年事業募金 (<https://bokin.doshisha.ed.jp/>) にご協力をお願いできれば幸いです。

4. 同志社創立200周年に向けて

今回の周年事業では、「同志社教育の理想の実現」に向けて4分の3の地点にあることを念頭において、200年あるいはその先の同志社の姿について同志社人の一人ひとりが考える機会とすることも意味があると考えています。既に、同志社社史資料センターにより『同志社百五十年史』の編纂作業が進められておりますが、先日、プロジェクトメンバーの一人から、『我等ノ同志社（創立60周年記念誌）』（同志社校友同窓會報第百號特輯）を閲覧させていただきました。セピア色に変わった表紙からは歴史を感じます。内容は祝辞や寄稿文、写真に加えて、キャンペーンの未来イメージ図や学生編集委員による将来の大学像に対する提言（例えば、小学校の開設、図書館の夜間開放、同志社大学出版部や博物館の新設）など、たいへんユニークな内容でした。

現在、30歳の方は50年後に80歳となりますが、これから始まる創立150周年記念事業に参加し50年後の同志社の理想の姿に対して意見を述べるなどの関わりを持ち、創立200周年記念式に集まった仲間とその後道のりを振り返ることができるのです。

同志社の150周年に向けて皆さんの英知を結集し、この記念すべき事業に楽しみながら参加、協力いただけることを願っています。



『我等ノ同志社（創立60周年記念誌）』の表紙

同志社 クローズ・ アップ

学生の多様な個が輝くキャンパスを目指して

― スチューデントダイバーシティ・アクセシビリティ支援室開設 ―

大学スチューデントダイバーシティ・アクセシビリティ支援室長

さかたまみこ
阪田真己子

障がい学生支援室からスチューデント

ダイバーシティ・アクセシビリティ支援室へ

2021年4月、障がい学生支援室が改組され「スチューデントダイバーシティ・アクセシビリティ支援室（通称…SDA室）」が開設されました。同志社大学は、他大学に先んじて「大学」が障がい学生の支援をする先駆けとして歴史が古く、国内でも障がい学生支援の先導的大学として認知されてきました。今回の改組のポイントは、障がい学生の支援に限定せず、同志社大学を選んでくれたすべての学生が、それぞれの個性を発揮して輝けるキャンパスの実現を目指しているところにあります。とりわけ、社会で急速に関心を集めている多様な性別や性的指向・性自認をもつ学生への相談対応はこれまで手つかずの状態でした。そこで、SDA室は、障がいのある学生や、多様な性的指向・性自認（SOGI）をもつ学生が、学生生活を送るうえで必要かつ適切な支援と機会を得られるように、また学生が相互に多様な人格と個性を尊重し合いながら共生できるように全学的協力体制を推進することを目的として設置されました。

ダイバーシティとは何か

Diversityは、日本語では「多様性」と訳されます。つまり、ダイバーシティが意味するところは単に「いろんな人がいる」という状態、ただそれだけです。さて、皆さんが「いろんな人がいるよね」と言うときは、どんな時でしょうか。もしかしてネガティブな文脈の時ではありませんか。

「ダイバーシティ推進」というと、この「いろんな人がいる」状態を推進すること（例えば女性、障がい者、外国籍の方の比率を向上させる）と思われがちです。もちろん、構成員の「多様性」そのものを推進することは非常に重要です。例えば、今では高齢者に限らず多くのユーザが使用しているスマートフォン「らくらくホン（らくらくスマートフォン）」が、実は視覚障がいの女子高校生のアイデアが発端になっていることは非常に有名です。多様性は、このように多くの人にとってメリットをもたらすイノベーションを生み出す力を持っています。しかし、前述の通り、単に「いろんな人がいる」状態というのは、自分とは異なる背景や価値観を持つ人をネガティブに捉えてしまいうリスクも孕んでいます。では、どうすれば「多様性」を活かしてイノベーションを起こすことができるのでしょうか。

ダイバーシティ推進からDEI推進へ… Diversity, Equity and Inclusion

「いろんな人」がそれぞれの力を発揮し、イノベーションを生み出すためには、単に「いろんな人」がいる状態(多様性)を推進するだけでは不十分です。なぜなら、その力を発揮するためには何らかのサポートが必要だったり、そもそもその「機会」にすら恵まれなかったりするからです。近年、ダイバーシティを推進する上では、3つの柱(DEI: Diversity, Equity and Inclusion)が重要であるとされています。

1つ目は Diversityです。これだけでは個々の力が発揮できるとは限らないことは前述の通りです。

2つ目は Equityです。Equityは、「公平性」を意味する言葉です。多様な人々が混在したコミュニティにおいて、それぞれが能力を発揮するためには、すべての人に公正な機会が確保されるときともに、力を発揮するためには必要な支援が受けられる制度が用意されていなくてはなりません。2016年に施行された「障害者差別解消法」は、まさに障がいのある方(学生)の力が発揮できるよう「同等の機会を保障すること」とそのために「必要な合理的配慮(reasonable accommodation)」を提供すること」が定められています。障がい学生だけではなく、多様な背景を持つすべての学生に等しく学びの機会と必要なサポートを提供する教育機関としての責務、それがEquityです。

3つ目の柱はInclusionです。Inclusionは「包摂性」と訳されることもありですが、そのまま「インクルージョン」としてその概念が浸透してきました。多様な個によって構成されるコミュニティの中で「私は私のままここで受け入れられている」という安心感が得られる状態です。大学の責務としてEquityが重要であることは前述しました。しかし、おりしものコロナ

禍により、オンラインによって「学びの機会」を保障してもお「大学(教育機関)」が果たす役割としては不十分であることを私たちは痛感しました。それは学生の「居場所としての大学」の役割です。Inclusionとは、まさに「居場所としての大学」において、コミュニティの一員として存在を認められ、互いに尊重しあえる仲間がいる状態であるといえます。多様な学生が集まったキャンパスでそれぞれの個が輝くためには、「私は私のままここで受け入れられている」というインクルーシブな環境が必要なのです。

同じ志を持って集まった学生の個が輝くキャンパスを目指して

本学に在籍する学生ひとりひとりがそれぞれの個を発揮して輝けるよう、そして大学全体が多様な個の集合体としてイノベティブなキャンパスとなるよう関連部署をつなぐハブとなること、それがSDA室のミッションです。SDA室は、Diversity、EquityそしてInclusionをキーワードに、同じ志を持って集まってきたすべての学生が、人一人を大切にすると同志社の風土の上で、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生するキャンパスの実現を目指したいと思っています。



旧障がい学生支援室が毎年夏に実施していたChallengedキャンプの様子(2011年Challengedキャンプより)。Challengedキャンプは肢体不自由の学生を「海に連れて行きたい」というスタッフの声からはじまり、2020年度で16回を数えた(2020年度はコロナによりオンライン開催)。学生自らが「インクルージョンとは何か」を考える機会となっている。

※本稿は、UDフォント(ユニバーサル・デザインフォント)を使用しています。

同志社 クローズ・ アップ

「オーケストラ」という授業について

女子大学音楽学科 教授

牛渡克之
うしわたかつし

私は、2020年度に同志社女子大学に着任し、前任の関谷弘志先生から引き継いで「オーケストラ」の授業を担当しています。「オーケストラ」は、管弦打楽器専攻学生の必修科目として位置づけられており4年間履修することが義務づけられています。

△授業としてのオーケストラとは?▽

オーケストラは、管弦打楽器等による、指揮者を要することが多い編成のものを言います。大小様々な編成があり極めて幅広い分野を総合するものです。

世界中、どこの音楽大学でもオーケストラの授業は必須となっています。理由は様々ありますが、大雑把にいつて以下の3つにまとめることが出来ると思います。

1Ⅱオーケストラは、管弦打楽器



管弦楽団

奏者にとつて大きな就職先であり、定収入を得られる職に就くための職業訓練。
2Ⅱ合奏全般における音楽的なコミュニケーションのスキルを学ぶ。
3Ⅱ名曲の演奏体験。

「音楽で飯を食う」ということはなかなか大変なことです。私の場合も、音楽大学に進学したいと親に言ったら、お前は河原乞食になるのか?と叱られたくらいですから、いつの世も音楽を仕事にするということは経済的なリスクがあると思われています。フリーランスが皆貧乏であるとは言えませんが、経済的に不安定であることは否めません。

しかしプロオーケストラに入団することで、定収入を得ることが可能です。演奏能力や、健康上の問題がなければ、定年までずっとその待遇を維持することができます。本学音楽学科からオーケストラに就職する例は少ないようですが、可能性が小さくても学生の就職に直接寄与できる授業である、ということが出来ると思います。

オーケストラにおける音楽的なコミュニケーションスキルは、すべての合奏に通じるものです。指揮者と、あるいは演奏者同

士でコンタクトを取る能力は、プロの演奏家として必須の能力です。よく「音を合わせる」と言いますが、音楽は時間の経過とともにどんどん動いていますので、その判断は瞬時に行わなければならないセンス。判断の際の観点はリズム、テンポ、和声、音程、音量のバランスなど、複雑多岐にわたるものです。我々は主に耳を使って音を捉えますが、それ以外に目を使ったり、動作を交えたり、場合によっては皮膚感覚のような言葉では表せないような感覚を使って演奏家同士のコミュニケーションを行っています。

オーケストラには、名曲が多く存在します。そして演奏家の幸福は名曲を自らの手で演奏することです。とかく専門課程に学ぶ学生というものは、その専門性の追求のために必要以上に生真面目になる傾向があります。演奏はその人にとつての大きな喜びだったはずですし、だから音楽を学ぼうと思つたはずなのに、長時間の練習や厳しいレッスンがその気持ちを萎えさせていきます。オーケストラの時間は、音楽的な喜びを呼び覚ます時間でもあるわけです。

△授業は、どのようにして行われるか△

オーケストラの授業は毎週金曜日4講時、5講時に開講し、関谷弘志先生（嘱託講師）、森香織先生（嘱託講師）が担当しています。複数の曲を取り上げているので1曲30分とか45分とか時間を決めて合奏練習を行います。弦楽器は全員が弾いていますが、管打楽器で学生数が多いパートは曲ごとにメンバーを入れ替わっていきます。月曜日の5講時には分奏の授業があり弦楽器は柳生厚彦先生（嘱託講師）が、管打楽器は牛渡が担当しています。演奏会が近くなると集中練習の期間があり、本番1週間前くらいからより徹底した合奏練習を行っています。

△コロナ禍での授業について△

世界的なパンデミックは、オーケストラにも大きな影響がありました。オーケストラは前述したように肉体的かつ心理的な極めて細かい作業を瞬時に行うものです。いかなる遠隔授業でも合奏経験を代替することは出来ません。音楽学科では、独自に定めた感染対策を徹底して行い、対面授業の機会を有意義に使っています。

昨年度中止になった「オーケストラコンサート」は、今年7月に実施の予定で準備が進められています（ただし関係者のみ入場可）。

△これからのオーケストラ授業△

オーケストラの授業が円滑に実施出来るようになるために、新型コロナウイルス感染がある程度収束に向かわなければなりません。その意味ではワクチン接種が進むことに大きな期待をもっていますし特効薬の開発も待たれるところです。

パンデミック以前から弦楽器学生の減少、管打楽器学生数のアンバランスなど問題があり、常に悩みの種が尽きることはありません。しかしどんなことがあっても、音楽学科のカリキュラムにおけるオーケストラの重要性は少しも揺らぐことはなく、その時々状況を見据えながら、最適な経験を学生に与えることが私の責務であると考えています。



2021年度オケコンチラシ

同志社 クローズ・ アップ

創造的な学びで「教科の壁」に風穴を 数学×地理コラボの取り組み

中学校・高等学校 教諭

篠原貴明 しのはら たかあき

はじめに

2020年度開始当初、我々は普段慣れている「対面授業」をコロナで封じられた。6月以降、少しずつ登校が再開される中で徐々に授業も戻りつつあるが、「コロナ以前」に完全に戻ることは困難な状況である。これまでの授業ができない、ということは新しいことに挑戦する絶好のチャンスでもある。その中で生まれた実践として数学の統計と地理をミックスした独自にテーマと仮説を立てて検証していく「同中ナイトスグループ」を取り上げる。生徒に対しては

「○○（地名）は□□（何らかのランキングデータや特性）が日本一多い（少ない）。その理由を調査し、報告レポートを作成せよ！」

という課題リリースを行った。取り組みを細分化すると以下のようになる。

- a. テーマの設定
- b. 仮説の考案
- c. 統計データ集め
- d. グラフ作成
- e. 仮説の検証
- f. スライド作成
- a・b・e・fを社会科が受け持ち、c・dを数学科が受け持った。社会科だけで「ナイトスグループ」に取り組んだ場合、データ分析やグラフ作成が弱点となる。数学科だけではデータ

生徒のふり回りレポート

（※この字体は生徒のふり回りレポートより抜粋 注目すべき記述は筆者が傍線を引いた）

「この課題に取り組む後輩に向けたメッセージ」より抜粋
この課題はテーマを決めて仮説を立て、自分で立証したことをグラフを入れてスライドにまとめないといけないのどって大変です。でも、この課題を乗り越えると、様々な力がかかります。例えば、自分で考える力、分かりやすくまとめる力などです。特にkeynoteやPowerPointなどを使ってスライドを作るのは将来必ず必要になります。また、知らなかったことを知ることができて自分の知識が増えます。どのようにしたら分かりやすく伝わるかを考えながら作るといいと思います。

「この課題を通して成長した点、感じたこと、身についた力など、自由に記述」より抜粋

まず、何かを調べるときにいつもだったらネットで検索したら出てくるけど、今回は答えがないから自分で仮説を立てるのがという新しい試みで、自分で考えるって面白いなと思ったし、いい経験になりました。また、自分でグラフを作ってプレゼンテーションを作ったのでこれも今までやったことがなかったです。いつもだったらネットから拾ってきたので、自分で作ると新しい発見や気づきがありました。

普段は考えていなかったことを考えることができました。なぜそのような統計になったのかを、仮説を立て、関係性のありそうな物のランキングを調べ、実際に当てはめて説を立証することがとても楽しかったです。物事に関連していることを考える力が身についたと思います。

今まで統計を見ても「へえーそうなんやー」と思って終わりだったので統計結果から仮説を立ててさらに統計結果を使って仮説を立証するなんて初めてでまず、そんなことができるということが学びでした。また、これは関係あるやろ！みたいな仮説があまり関係なかったり、意外なところが関係あったりして色々なデータを見て、組み合わせてみることの面白さを感じました。

おわりに

自分が立てた仮説の真否が気になり、裏付けとなる資料を探し、仮説と検証のスクラップ&ビルドを繰り返す作業に夢中になった生徒が多く見られた。まさにこれこそ探究の醍醐味といえる。自分が打ち立てた仮説に客観性を持たせ、説得力を高めるために統計資料を探し、グラフ化（ビジュアル化）するとい

う経験もさせることができた。まさに数学と社会科学の学びの「おいしいトコ取り」ができたのではないだろうか。また、正解のない問い、かつ探究的な取り組みであったことも生徒のリフレクションから見て取れる。石川一郎「学校の問題」これからの「教育リスク」を考える『SB新書』、2020年P185では「探究的学びモデル」について以下のように書かれている。

なかを「観察」して、「違和感」を覚えて、「想像」を巡らし、「推測」「予測」をして、「仮説」を構想し、「検証」をして「再構成」し、「共有」し「対話」をする中でさらに練り上げて、「経験」として落とし込んでいく。このプロセスが自然とできるようなれば、人生において永遠に探究を続けることができます。

「同中ナイトスクープ」ではこの「探究的学びモデル」をそれぞれ一巡させることができ、一定の手がたえを得ることができた。「このプロセスが自然とできるような『探究人』へと生徒を導いていけるような学びのデザインをコラボ授業でも単独授業でも模索し続けていきたい。

生徒の作品



同志社 クローズ・ アップ

高校生が語る「人生」とは…？ ～ボードゲームを取り入れた主権者教育へのチャレンジ～

香里中学校・高等学校 教諭

なかゆうぎ
中優己

1. はじめに

「学びに向かう力」とは何だろうか。この力を育むための授業のあり方や、教員の役割について考えることが増えた。生徒に社会科の学習に対するイメージを問うと、「難しい言葉を感じるのが楽しい」という生徒から、「暗記が苦手だから嫌い」という生徒まで、背景にこそ差はあれ「社会≡暗記」というイメージはやはり根深いようだ。

新しく示された力を身につけるには、教員とともに生徒も視点を転換する必要があるのではないか。そんな気づきから、私が担当する授業では、生徒の生活経験にもとづく対話を学びの出発点とする流れづくりを意識してきた。本稿では、高2「現代社会」での授業の様子と、自分なりの言葉で「人生」を語ろうとする高校生の姿を紹介したい。

2. ボードゲームを取り入れた授業

取り上げたのは『挑戦！ライフ・リテラシーゲーム』である。生徒の多くがすでに遊んだことのある人生ゲームと同じく、自分の選んだコマをさいころの目の数だけ進め、就職や結婚など

のライフイベントを経験していくものである。これを教材として選んだのは、人生ゲームに比べてあらゆる箇所に実社会のしくみを忠実に再現した工夫が凝らされているからである。

ゲームはプレイヤーの就職から始まるが、ここで選択した職業や性別によって後の展開に差が生まれる。給料日にはお金を受け取るだけでなく、職業によって額の異なる税金を納めなければならず、ゲームが進行するにつれてボード上の役所に税金がたまっていく様子が目に見えるよう構成されている。

特に魅力的に感じたのは、投票の疑似体験ができることである。中盤に設定された総選挙のマスではさまざまな争点が表示され、各人の投票結果によって、選挙後のゲームの展開が変化する。有権者になるのを目前に控えた高校生に、社会のしくみを実感させることをねらいに、このゲームを教材に選定した。



3. 生徒のすがた

これまでには青年期をテーマに、行動経済学やゲーム理論を活かした思考実験に取り組み、個人の利益と社会全体の幸福のバランスについて考える授業を展開してきた。今後本格的に憲法や選挙のしくみについて学ぶにあたり、難解な用語や概念にも抵抗感なく向き合い、教科書だけにとらわれない見方ができるように、政治分野の学習の導入としてこのゲームを位置付けた。

生徒は教室に入るなり、すぐにゲームに関心を示し「とにかく目の前のゲームをとことん遊ぼう!」と伝えると、驚きと喜びの入り混じった反応が返ってきた。ゲームを開始すると、少しでも給料の多い職業を求め、生徒や、収入に対する税金の多さに愕然とする生徒、さらには自分や周りの置かれた状況を吟味しながら一票を投じる生徒など、それぞれの個性を発揮しながら、授業はにぎやかなムードのもと進行した。

授業後にはアンケートを実施し、社会のしくみに対して「ええやん!」「おかしいんちゃう?」と感じた点、さらにはそれらを改善する方法を検討させた。すると税制や選挙が抱える課題について指摘する声が多く見られた。「税は政府に取られるもの」という印象を持つ生徒が少なからずいたが、ゲームを通じて「税はみんなで出し合い、社会で必要とする人のために使うもの」という新たなイメージを抱くことができた生徒もいた。さらに、多数決の結果が必ずしも社会全体の意見をカバーするわけではないことに気づき、より多様な意見を反映するためには、



海外の選挙制度にまで関心の範囲を広げられた生徒もいた。こうした気づきは、細かな知識や固定概念にとらわれる前の状態だからこそ得られたものではないだろうか。

4. 「学びに向かう力」に向かう授業へ:

アンケートの最後に「人生とは?」という問いを設けた。すごろく形式のゲーム性から「何が起こるかわからない」「小さな選択の積み重ねで大きく変わる」という人生観を言葉にすると同時に、「運まかせにならないよう、慎重な判断が求められる」「判断力を高めるには、正しい知識を身につける必要がある」といった今後の授業の動機付けにもつながる意見が見られた。さらに興味深いのは、「人生はお金で決まるものではない」「ゴールに至るプロセスこそが人生の醍醐味だ」という声が多く見られたことである。現状の社会に適応するだけでなく、多くの人が幸せになれる方策を追求する視点が示されたことで、今後その視点を深化させていく教員の使命を再認識させられた。秋には総選挙が予定されている。ゲームの世界を飛び出して、実社会が大きく動く様子を生徒は目の当たりにするだろう。日々接する報道を自分ごととして捉え、さまざまな論点に対し自分の意見を持つて主権者としての立ち位置を見出すことができるだろうか。この取り組みを出発点に、生徒の学びに向かう力を後押しし、得た力を源によりよい社会をつくりだす、いわば「良心を手腕に運用する」生き方を探究する授業をこれからデザインしていきたい。

※授業で使ったワークシートやアンケートのまとめを公開しています。QRコードを読み取りご覧ください。



同志社 クローズ・ アップ

スプリングイングリッシュキャンプ

女子中学校・高等学校 教諭

米澤利聡 よねざわとしふさ

2021年3月15日から17日まで校内にて春休み英語集中研修（スプリングイングリッシュキャンプ）を行いました。本校では、スプリングイングリッシュキャンプを株式会社アイエスエイに依頼し、外国人講師を派遣してもらい英語研修を行っています。対象は中学1年生で今年で3年目を迎える行事です。例年は終業式後に学校を離れて自然豊かな京北にて宿泊を伴った研修を行うのですが、今年度は新型コロナウイルス感染症のために宿泊を避け、校内で実施する運びとなりました。緊急事態宣言が再度発令され、直前まで実施可能かどうかわからない状況の中、参加者は例年より少なく30名での実施となりました。外国人講師の先生にも本校の新型コロナウイルスガイドラインに沿い、研修前の検温やマスク着用での研修の実施などを依頼しました。実施前は宿泊がなく校内での実施のために生徒の参加希望者が減ったのではないかと色々心配しました。しかし、実際に行ってみると生徒にとっては宿泊による準備や負担がなく、普段通りに登校し、英語の研修が受けられるので、中学1

年生にとっては宿泊を伴わない方が望ましいのではないかとの印象を受けました。

研修が始まると、本校では中学1年生に対してネイティブの授業がなかったこともあり（新カリキュラムでは実施）、生徒はとても緊張した様子でした。研修は生徒10名に対し、ネイティブの先生一人が担当しました。クラスもばらばらで生徒同士も初対面の中、最初にグループ内で英語で自己紹介をしました。講師の先生方は出身国も様々で（ドイツ・アメリカ・フィリピン）、出身国の映像や生徒たちになじみのあるお菓子等を用いながら自己紹介をされていました。ゲームや活動を通じ、午後には少し新しい環境になじんできた様子が見られました。2日目は、朝から生徒たちも英語モードで私が出欠点検のため教室に入っても自然に英語で返答してくれるなど、生徒の適応力の高さに驚きました。2日目はさらにペア活動やグループ活動を経験的に行い、最終日の発表に向けての準備などネイティブの

先生との対話も自然に行えるようになってきていました。ネイティブの先生が、交代で各教室を回ってアクティビティを行うので、生徒は3人の講師の先生に教えてもらうことができました。2日目終了時には頭の中が英語だらけとの感想が生徒から聞かれました。また、英語で何を言われているかはだいぶわかるようになったが、自分から表現するのに困難を感じている様子でした。それでも時間と共に新しい友人と協力して講師の先生方と会話をする事ができていたように感じています。

最終日は各グループで場面を決めた上でのスキット(寸劇)を行いました。朝から何度もグループでリハーサルを行い、講師の先生のアドバイスを聞きながら完成を目指しました。各グループでイラストや道具を用いて、聞く人にとってわかりやすいスキットを目指しました。研修初日はとても緊張していた生徒たちも、堂々と英語を用いて



グループワーク

発表をすることができました。本来ならこのような話す活動も英語の授業中に行うのが望ましいのですが、なかなか普段では活動に時間を割くことがあまりできないので、こういった研修を通じて英語を使う体験を持てたのは有益だったと感じました。最後には担当の先生から生徒一人ずつ修了証をもらい、記念撮影を行いました。研修実施後の生徒の感想でも、多くの生徒が英語研修を有意義だと感じているようでした。

春休みに入っていたこともあり、校舎内はクラブ活動のみが行われていました。静かな校舎の中で英語で行われるアクティビティは参加していない生徒に対しても刺激があつたようです。意外な反応として、クラブ活動に來た高校生から英語研修の様子を見て高校生向けの英語講座も開設して欲しいとの声が聞かれました。この夏休みも残念ながら、海外研修は実施できませんが、中学生と高校生に分かれて校内にて英語を使った短期研修を行う予定です。国内や校内でも十分に英語を使った研修を行えることがわかったのはプラス材料になりました。



スキットの様子

オープンキャンパス2021 開催

同志社
ナウ

大学入学課



7月25日京田辺校地、8月1日今出川校地においてオープンキャンパスを開催した。昨年はコロナ禍で中止となったため、2年ぶりの開催となった。今年度は来場型に加えて、8月7日から3日間、本学の学びを伝える学部・学科・コース紹介をライブ配信（入学センター公式YouTubeチャンネル）で実施した。

来場型は教室のコロナ定員を参加者の上限とするため、事前予約制とした。申込開始後、1時間た

らずで全てのプログラムが満員となるほど、受験生及び保護者の期待がうかがえた。

開催当日は両日とも晴天に恵まれた。大学紹介、入試説明及びキャンパスツアーを実施、事前予約制のため従来のような混雑もなく、無事に終えることができた。来場者数は京田辺校地892組1、

529名、今出川校地925組1、665名で、全国各地から来場があった。

来場者アンケートによると9割以上が「大変満足」「満足」と回答し、「受験したいという気持ちが強くなった」「コロナ対策も万全で、説明もわかりやすかった」「キャンパスツアーガイド学生の生の声が聞けた」などの感想があ



り、本学の魅力を大いにPRすることができた。

一方、学部・学科・コース紹介ライブ配信も、来場型同様事前予約制とし、7、296名の申込みがあった。申込者は8月末までオンラインで動画視聴できるようになっており、延べ2万回を超える視聴があった。

さらに、来場型のプログラムが瞬時に満員になったことから、8月10日・11日今出川校地、8月12日京田辺校地においてキャンパス自由見学を開催。入学課によるキャンパス紹介のあと、各自でキャンパスを見学いただくプログラムで、今出川校地356組613名、京田辺校地138組249名が参加した。

看護学研究科の 助産学生チーム、 「日本助産学会賞」を受賞

女子大大学院看護学研究科長 眞鍋えみ子

○学会での学生ポスター発表

2021年3月20日に第35回日本助産学会学術集会で実施された学生ポスター発表会において、本看護学研究科看護学専攻助産学実践分野の大学院生のチームが「日本助産学会賞」を受賞しました。発表会は、テーマを「助産の力で健康な社会を——助産の力を未来につなぐ——」とし、各校の教育活動の発表、情報共有の場となることを目的に開催されました。1校につき10分の持ち時間で、パワーポイントをを用いてオンライン配信されました。

発表内容は、昨年11月に取り組んだ「子宮頸がん啓発活動〜ティール&ホワイトにライトアップ〜」についての活動紹介でした。今出川キャンパスの栄光館をシンボルカラーのティール&ホワイトにライトアップした際のセレモニーの様子や、京都駅前で開催された、子宮頸がん制圧に向けたWHOの世界戦略開始記念イベントに参加

した際の活動報告を行いました。参加した全9つの教育機関から2校が表彰校に選ばれ、本学はその一つである「日本助産学会賞」として表彰されました。

表彰式では、日本助産学会長より「学生の皆様の行動力、そして発想豊かなユニークなアイデアがたくさん詰め込まれたイベントであつたことがわかり、審査員一同、関心しております。特に京都の街にピッタリ合つたおしゃれなイベントであつたところも非常に素晴らしいかったです。」検診を広める“ということだけでなく、”助産師の活動を社会に広げる、社会に伝える“ことにも貢献されまし



た。」との講評をいただきました。○子宮頸がん啓発活動〜ティール&ホワイトにライトアップ〜への想い

子宮頸がんは20〜30代女性に多い「がん」です。一方、わが国の検診受診率は、先進国の中で最も低く、ワクチンの接種は、2013年に厚生労働省が積極的勧奨を中止して以来、事実上止まった状態になっています。この活動をきっかけに、助産師をめざす大学院生達が予防の最新知識を学び、女子大学生のピアサポーターになってくれることを願っています。



生と性と死の学び ～デジタル全盛時代に敢えて～

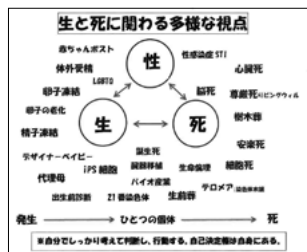
中学校・高等学校教諭 田邊利幸 た なべとしゆき

昨年の中学3年生には個性派が揃っていた。への飼育を地道に続けた生徒は先輩から「蛇つかいのお兄ちゃん」と呼ばれ、岩倉川の淡水魚を5年にわたって調査した生徒は極限までカワムツの感覚に接近していた。現在在学中の生徒には「カ

本校では伝統的に「性の学び」について科学（人生生物学）的に、また性健康教育という視点から中学理科カリキュラムに組み込んできた。そこには同志社大教員でもあった山本宣治（1889～1929）の思想が根底に流れていることは言うまでもない。

「コロナ禍」で人と人の実距離が離れ、ICT機器を利用した「オンライン教育」がポストコロナの時代も継続するという流れの中でも、ヒトは身近な生物と接することで本来生きる上で必要な感性を育んでいる気がしてならない。

生きもののリアルを求める生徒



この分野の多様な視点



中学3年生「理科II」サブテキスト



「課題：ザ・骨格」（2019年度生徒作品）

メ博士」「鳥博士」もいて、理科室では博物的な会話が飛び交って実に楽しい雰囲気が漂っている。

自身の存在を客観視する力を育てる

本校理科の授業にはその後の人生に影響を与えそうな課題が多い。解剖実習には、「カエル・アサリ・ニホシ・ニワトリ頭部」があり、「マメ三種栽培」「生物精密スケッチ」「岩石標本作成」と経験する。そして3年生は「生と性と死の学び」と出会い、自身の人生を深めて卒業する。

生物の発生、細胞分裂、遺伝などの基礎学習に加え、性交、受精、妊娠、着床、出産等のヒトの性を学

び、さらに性行為感染症（STI）、ジェンダー、LGBTQについても考える。そして最後に「死の学び」に挑戦する。

「延命を拒否する少女」の動画は多くの生徒が涙する。「人生カレンダー」は命にピリオドがある時点から逆算する形で記入し今後の人生をデザインする。「ハッピーバースデー3.11」では東日本大震災当日に生まれた生命の輝きと出会う。そんな学びの経験から今後どのような道に進んでも、物事の本質を見極められる人に育ってくれたらと願っている。

コロナ禍におけるクラブの 試合観戦対応について —香里中高サッカー部の取り組み—

香里中学校・高等学校教諭 あら い つばさ 新井 翼

○突然奪われた観戦の機会

昨年から始まったコロナ禍において、クラブ活動ができること、試合ができることがどれほど幸いなことかということを感じていて、毎日です。一方で、試合の観戦の機会を突然奪われた保護者の方々は煮え切らないものを抱えているのではないのでしょうか。

地域や学校によつては観戦の許可が出ているところもありましたが、万が一の時のことを考えて、サッカー部として保護者には本校での試合も他校での試合も観戦をお断りしました。

中学3年（現高一）は結局試合を観てもらう機会がないまま最後の大会が終わってしまいました。何とかその機会をとということで12

月に国際中学校との引退試合を、スタジアムを借りて組みましたが、これも大阪モデルのステージが上がつたことにより中止となつてしまい、保護者の方々は中学サッカー部の最後の1年の試合を観ることなく卒業となつてしまいました。このことは今でも申し訳ないと思つているし何とかできなかったかと悔やんでいることもあります。

○新しい観戦様式

現在は、顧問間で検討を重ねた結果本校で行われる試合については、教員のiPadを使い、学校のWiFiが届くぎりぎりのところから「Zoom」を使いオンライン配信を行っています。毎試合ミーティングのURLを

保護者の方々に送信し、ミーティングに参加する形で観戦してもらっています。このミーティングの参加率は非常に高く、生徒らの活躍を楽しんでいただけていると感じております。

画像が少し荒く、また撮影可能な場所の関係でどうしても見切れてしまうところがあるためボールの場所によつては何が起きているかよくわからない場面も多々あります。これは今後の改善すべき点ですが、これも「新しい観戦様式」となつていくのかもしれない。とはいえ、1日でも早く生徒たちの活躍を保護者の皆様に直接観ていただくことができる日が来られることを望むばかりです。

コロナ禍の入試広報活動

同志社
ナウ

女子中学校・高等学校 入試センター主任 吉田^{よしだ}和^{かずたか}高

本校の入試広報活動はこれまで、4月のWAKUWAKU同女たんけん、6月のオープンキャンパスなど、来校・対面型のイベントを中心に、受験者・保護者の皆様にキャンパスの立地や設備、生徒の様子や学校の雰囲気を実感していただくことを重視してきました。

2020年度は新型コロナウイルスの感染拡大を受け、例年800〜1000名ほどの参加のあったWAKUWAKU同女たんけん、オープンキャンパスは中止を余儀なくされました。しかし受験生・保護者の皆様へ志望決定のための情報を提供すべく、感染対策を十分に施した上で、受験学年のみを対象に人数を制限しての学校見学会を6月から7月にかけて急遽実施し、あわせてオンラインでの説明会、校内案内動画の配信を行いました。また例年7月に実施している塾対象の入試説明会もオンラインにて実施しました。

また私立中高連合会や各塾などが主催する個別相談会も軒並み中

止となったことを受け、7月からZoomや電話を利用してのリモート相談会を開始しました。さらに、春のイベントが実施できなかった影響で、校内の見学希望の連絡が相次いだため、夏休みを利用して個別に校内見学を受け付けたところ、80組の小中学生にお越しいただきました。秋以降も全てのイベントは来校者数を制限しての完全予約制とし、2021年度もこの形式を継続しています。

対面での入試広報イベントの実施が困難になる中で、やむを得ずオンラインイベントに切り替えま

したが、遠方の方にも参加していただけたりと、オンラインで配信により都合の良い時間に参加していただけたりと、これまでのイベントにはないメリットもありました。一方でオンラインイベントに参加していただくと、実際に学校を訪れたいとの希望が募る傾向があり、決してオンラインだけで

入試広報イベントは完結しないということも感じました。

今回のコロナ禍を機に、本校に限らずどの学校においても入試広報活動のオンライン化が進みました。今後の感染状況や、それに伴う入試広報活動への影響を予測することは難しいですが、今回のコロナ禍において培われたオンラインイベント実施のノウハウをうまく活用して、コロナ後においても対面型イベントとの併用で効果的な入試広報活動を展開していきたいです。



北信越インターハイに 単複出場、 一年生の挑戦

こじょうまさひろ
国際中学校・高等学校教諭 古城正裕

緊急事態宣言下、学校では練習

が思うようにできない中、選手たちは民間テニスクラブを中心に練習してきた。昨年から公式大会はことごとく中止され、皆が試合経験を十分に積むことができないまま、今春、ようやく公式戦に参加できた。

【選手紹介】

今春、1年の藤田佳乃（ふじた・よしの）は京都ジュニアテニス選手権U16歳の女子シングルスで準優勝。その1か月後、1年生から3年生生までが参加するインターハイ予選（U18歳レベル）でも高い集中力と優れたテクニクで勝ち進み準優勝を成し遂げインターハイ出場を決めた。

同じく1年の畠凜花（はり・りんか）はU16歳までを大阪府で活躍。全国中学校、全日本ジュニア

テニス選手権大会共にダブルスで優勝経験のある選手。シングルスも迫力のある大胆なプレイで周囲の目を引きインターハイ予選では堂々ベスト4入りをしたが、本大会出場への涙を飲んだ。

ダブルスの藤田・畠組は、準決勝をタイブレークで競り負け第3位となり、相手ペアが優勝してインターハイを決めた。一方、2年の藤井玲奈（ふじい・れいな）、1年の新井愛梨（あらい・あいり）組は息の合うプレイで決勝まで勝ち進み準優勝を勝ち取った。女子ダブルスの本大会には京都府から2組が出場できる。2番目の代表

を決める順位戦では同校対決の藤田・畠対藤井・新井となり、藤田・畠組がインターハイ出場を決めた。

【北信越インターハイに向けて】

明朗快活で努力を惜しまず、文武のバランスを保っている2人に抱負を聞いてみた。

「本大会では経験豊富な3年生が多く出場しますが、学年に捉われず挑戦する心を忘れません。大会までの期間を有意義に使い、本番ではどんどん勝ち抜いていきます。」という。箴言の聖句を思い出した。「勤勉な人の計画は、ついにその人を豊かにする、すべて怠るものは貧しくなる。」頑張れ、1年生たち！

同志社国際学院初等部 家族でスクールツアー

同志社
ナウ

国際学院初等部教頭 にしむらこうじ 西村孝次

7月5日から7月9日までの一週間、放課後4時から6時までの間に、来年度入学志願者のご家族に本校の校舎や児童の学習成果を見学していただくスクールツアーを催しました。コロナウィルス感染防止のために、例年のような大規模な学校公開はできませんが、少しでも本校の事を知っていただくために、児童たちが下校した後の時間に教員がガイドをして、校内を案内することになりました。赤と黄色と青を使った、デザイン性の高い特徴的な校舎や、和洋含めた2万冊以上の蔵書のある国内でも有数なライブラリー、陽光がたつぷり入るように建てられたチャペル、多目的に使用できる畳スペース、広々としたグラウンド、ウグイスのさえずりが聞こえる自然環境いっぱいの中庭を見学したご家族たちは、本校をとても気に入っていただけたようです。

参加した保護者の方からは、「窓が多くて、明るいですね。」、お子さんからは「遊具が面白そう。早く遊んでみたい。」と感想をいただきました。

また、国際バカロレアPYPカリキュラムに沿って行われている探究学習の成果を示した日英両言語で製作された掲示物は、どれも個性的で、これから入学を予定されているお子さんには、とても興味深いものだったようです。中には、本校の探究学習について熟知されている保護者も知られて、「このユニットのセントラルアイデアは、どのようなものですか。」「6年生のエキシビションは、どうやって進めていくのですか。」というご質問もいただきました。限られた時間の中では、十分な説明ができず満足していただくことはできませんが、保護者の方の本校へ

の関心の深さを知ることができ、とても喜ばしく思いました。

「来年の4月に絶対この学校に入学したいです。」と笑顔で本校を後にされるご家族の姿を見て、我々教職員もその期待に応えるべく、これからも邁進していこうと思いを新たにしました。



諦めなければ、何でもできる ～音楽 with コロナ～

同志社小学校音楽科 江藤一ブラウン多恵

♪失意を原動力に

2020年2月、翌月から休校措置が取られることが決まりました。取り組んでいたミュージカルの衣装やセットの準備も整い、子どもたちも本番に向けての最終調整に入った段階での知らせでした。子どもたちと何度も話し合いましたが、上演は中止せざるを得ませんでした。感染のことを考えれば、この

選択は間違いないではなかったと思います。でも、やりたかった子の気持ちや、最悪の決断。思い出すと今でも胸が苦しくなります。



♪一人でもやりたい子がいたら：「やる！」

リモート授業で始まった2020年度。ミュージカルでの失敗を糧に、「一人でもやりたい子がい

れば、何か形を残せるものを作ろう」という一心で走り出しました。

1学期、ミニオーケストラではZooomでレッスンを続けました。操作ミスでみんなを驚かせてしまうこともしばしばありましたが、笑いながら乗り越えました。

2学期には聖歌隊活動を対面とオンラインのハイブリッドで実施しました。毎年中高生と共に取り組んでいる「岩倉キャンパスクリスマス」もオンラインで配信することができました。

3学期には映像で表現する新しい形のミュージカルを一から創り上げました。ミニオーケストラでも一年間の集大成「Music Gathering」をオンラインで配信することができました。

♪そして「ナウ」2021年度

まん延防止等重点措置から緊急事態宣言に移行し、ミニオーケストラの活動は対面とオンライン併用でスタート。でも、子どもたちは慣れっこです。試行錯誤をしながら、お互いに手ほどきをし合う様子が脱帽させられるばかりです。今まで以上にたくさんのアイデア

が飛び交います。動画編集をかつて出る児童もいます。そんな姿に、自力でどうにかする力、仲間を頼る力をピンピン感じるのです。

そして、7月7日、校長の誕生日に「まん防」ならぬ、「マンボINO.5」を世に送り出すことができました。難しい局面ではありますが、小学生はユーモアを武器に走り続けています。昨年度の取り組みと合わせて、子どもたちのたくましい姿をQRコードからご覧ください。



新型コロナウイルス感染症に伴う 在学生支援募金についてのお願い

平素から学校法人同志社へのご理解、ご協力を賜り、深く感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、世界中で多くの人々の生活が一変しました。学校法人同志社が設置する学校には、約4万2000名の学生、生徒、児童、園児が在籍していますが、政府の緊急事態宣言を受け、一時はすべての学校が休校等になり、教室で学ぶことができない状況を余儀なくされました。

各学校では、緊急対策本部を立ち上げるなど、地域や卒業生のお力添えのもとで、社員が英知を出し合い、インターネット学習環境の整備など、力を合わせて、学生、生徒、児童、園児に寄り添いながら、教育水準、教育環境の維持・向上のために努力を続けています。

ワクチン接種が進められていますが繰り返される緊急事態宣言の発令など、感染予防と経済活動の両立で長期化するWithコロナ社会においては、学費支弁者への影響も大きく、就学をあきらめなければならない在学生が生じています。

そこで本法人としては、同志社教育を受けることを希望し入学した学生が失意のうちに終わることがないように、窮地に立たされている在学生に対して、支援金を給付しております。

しかし、これらの取組を学費収入等で賄うことは難しいことから、「新型コロナウイルス感染症に伴う在学生支援募金」を開設し、卒業生、教職員のほか、広く社会の各方面からのご支援により多くの在学生が学び続けています。

つきましては、本募金事業の趣旨をご理解いただき、今後も引き続き温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

学校法人同志社
総長・理事長 八田 英二



寄付金募集要項

【募金目的】長期化する新型コロナウイルスの感染拡大により、学費の支弁に著しい支障の生じた在学生に対し、支援金を給付すること。

【募集期間】2020年6月1日から2026年3月31日まで

【お申込金額】個人 … 一口 1万円（一口未満のご寄付についても有難くお受けいたします）
法人・団体 … 一口 10万円

【学校指定について】

支援を必要とする在学生数（学生、生徒、児童、園児）は、学校によって異なるため、支援対象者は同志社が決定し、同志社在学生修学特別支援金として給付させていただきます。

ただし、ご寄付いただく際に特段のご希望がおありの場合は、寄付金の一部もしくは全額について、特定の学校をご指定いただくことができます（例：全額を同志社女子中高を指定。半分を同志社国際学院、残り同志社に一任。etc.）。なお、この場合に大学を指定された場合は「ALL DOSHISHA募金 特定寄付奨学金」として、女子大学を指定された場合は「サポーターズ募金 “ぶどうの樹” 経済的困窮学生に対する奨学金」として在学生に給付させていただきます。

【税制上の優遇】

学校法人同志社は、文部科学省より「税額控除対象法人」および「特定公益増進法人」の認可を受けており、同志社へのご寄付は個人によるご寄付の場合、所得税の「税額控除」または「所得控除」のいずれかを選択いただけます。

さらに、お住まいの地域によっては、住民税の「税額控除」の対象になります。

詳細は、<https://bokin.doshisha.ed.jp/tax/index.html>を参照ください。

【お申込方法】

「学校法人同志社 募金のご案内」からご寄付いただけます。

<https://bokin.doshisha.ed.jp/fund/shien.html>

クレジットカード、口座振替、ネットバンキング、コンビニ支払い、金融機関窓口からの振込でのお申込みが可能です。

インターネットからのお申込みが困難な場合やご不明な点がある場合は、下記にお問合せください。



お問い合わせ：法人部法人事務室

京都市上京区今出川通烏丸東入

TEL：075-251-3006 FAX：075-251-4980 E-mail：ji-hojin@mail.doshisha.ac.jp

<https://www.doshisha.ed.jp/>

ハリス理化学館同志社ギャラリー展示ご案内

ハリス理化学館同志社ギャラリーは、創立者新島襄の志と同志社の歴史等を、資料で紹介する展示施設です。ハリス理化学館は、J.N.ハリスの寄附をもとに1890（明治23）年に竣工し、永らく同志社における理化学教育の拠点となった建物です。現在、国の重要文化財に指定されています。

【新型コロナウイルス感染症拡大予防について】

同志社ギャラリーでは新型コロナウイルス感染症の拡大予防対策を実施しております。来館前に同志社ギャラリーHPにある「新型コロナウイルス感染症予防のためのお願い」をご確認いただき、感染症拡大予防にご協力くださいますようお願いいたします。

なお、感染拡大の影響で開館状況を変更することがございます。来館前に同志社ギャラリーHPでご確認ください。

【常 設 展】ギャラリー内には6つの常設展示室が設けられています。1階には「新島襄の人と思想」、「同志社のあゆみ」、「世界の中の同志社」、「同志社の今」、2階には「J.N.ハリスと同志社」、「京都の中の同志社」と、部屋ごとにテーマがあり、創立以来の歴史と共に、京都や世界と共に歩んできた同志社の足跡をたどることができます。（2か月に1回程度の展示替え有）

【企 画 展】第23回企画展

タイトル：「平安遷都前の京都盆地—飛鳥・奈良時代のムラと寺」

期 間：2021年10月22日（金）～12月5日（日）（月曜日・祝日は休館）

場 所：ハリス理化学館同志社ギャラリー2階企画展示室（今出川キャンパス）

主 催：同志社大学歴史資料館

【入 場 料】無料

【開館時間】10:00～17:00（最終入館16:30まで）

【閉 館 日】日曜日（企画展開催中は開館）、月曜日、祝日、ゴールデンウィーク、夏期休暇中の一定期間、年末年始。

※開館日等を変更する場合があります。お越しになる前にホームページ等でご確認ください。

【場 所】同志社大学 今出川キャンパス

※駐車場、駐輪場はありません。公共交通機関を利用してお越しく下さい。



入場無料

お問い合わせ先

ハリス理化学館同志社ギャラリー事務局（日・月・祝日は閉室）

ホームページ：https://harris.doshisha.ac.jp/

TEL：075-251-2716 FAX：075-251-2736

E-mail：ji-harjm@mail.doshisha.ac.jp

新島旧邸公開のお知らせ

新島旧邸の敷地には、幕末まで京都大工頭中井家の屋敷があり、明治初年には中井屋敷を堂上華族の高松保実が所有していました。1875（明治8）年11月29日、新島襄は、この高松邸の半分を賃借して仮校舎とし、生徒8名で同志社英学校を開校しました。翌年、英学校は薩摩藩邸跡地の専用校舎に移りますが、その後、新島は高松邸を購入し、自宅を1878（明治11）年に建築しました。これが、現在の新島旧邸です。同志社発祥の地に建つ新島旧邸を、同志社の建学の理念を体感する場として公開しています。

【新型コロナウイルス感染症拡大予防について】

新島旧邸では新型コロナウイルス感染症の拡大予防対策を実施しております。来館前に同志社社史資料センター新島旧邸HPにある「新型コロナウイルス感染症予防のためのお願い」をご確認いただき、感染症拡大予防にご協力くださいますようお願いいたします。

なお、感染拡大の影響で公開状況を変更することがございます。来館前に同志社社史資料センターHPでご確認ください。

【公開期間】 ①通常公開 10月7日～11月30日、2022年3月1日～3月31日

毎週 火・木・土曜日（祝日は除く）

②特別公開 10月1日～5日（秋の特別公開）

11月29日（創立記念日）

2022年3月20日～22日（卒業式）

※公開日の詳細はHPをご覧ください。 <https://archives.doshisha.ac.jp/>

【公開時間】 10:00～16:00（入館受付は15:30まで）

【見学対象】 ①通常公開

旧邸周囲から建物内部を見学（建物内部には入場できません）。

②特別公開

旧邸周囲および建物内部（母屋1階と附属屋）に入場できます。

※旧邸建物内に一度に入れる人数は20名程度とします。

【入場料】 無料

【場 所】 京都市上京区寺町通丸太町上ル松蔭町

※駐車場、駐輪場はありません。公共交通機関を利用してお越しください。

【団体見学申込】 10名以上の団体は、予約が必要です。団体予約は、見学日の1週間前までに電話・FAX・E-mailにて下記にお申し込みください（電話受付は10:00～16:30）。



入場無料

お問い合わせ先

ハリス理化学館同志社ギャラリー事務室（日・月・祝日は閉室）

TEL：075-251-2716 FAX：075-251-2736

E-mail：n-kyutei@mail.doshisha.ac.jp

スタークウェザーと山本覚馬 －創設期における新島襄の同志たち－

1876年、同志社女子大学の前身である女子塾が創設されました。これは新島襄とその協力者たちの努力の賜物でした。今回の企画展では、特に、宣教師アリス・J・スタークウェザーと新島夫人八重の兄であった山本覚馬に焦点を当て、近代都市として復活を遂げた明治期の京都の様子とともに紹介します。今年はスタークウェザーが没してちょうど百年という節目の年にあたります。この展示が同志社女子教育の原点を振り返る機会となれば幸いです。

期 間：2021年11月19日(金)～2022年7月29日(金)
時 間：10:00～16:00
閉 室 日：土・日・祝日 および2021年11月29日、12月28日～2022年1月5日、5月2日
(ただし、2021年11月20日～21日、2022年7月18日は開室しております)
場 所：同志社女子大学史料センター
(今出川キャンパスジェームズ館1階展示室)
主 催：同志社女子大学



同志社女学校最初の校舎（版画）と左から山本覚馬、新島襄、アリス・J・スタークウェザー
同志社女子大学史料センター提供

お問い合わせ：同志社女子大学史料センター

〒602-0893 京都市上京区今出川通寺町西入

TEL：075-251-4200 FAX：075-251-4201

E-mail：shiryo-i@dwc.doshisha.ac.jp

今号の特集「選ばれる学校とは？」は、2030年代の近い将来の教育を描き、そのための方向性を示していたべく内容になりました。座談会は、中学受験や大学入試改革に詳しい富田亮氏、教育改革にむけた情報発信を続けてこられた松原和之氏、そして、学校教育現場からは立命館一貫教育部の岸田康子氏、同志社中学校・高等学校の竹山幸男副校長の登壇によるものでした。

教育改革が長く謳われ続けるものの変化はあまりにも緩やかに感じています。さらに、「ともに育てる」という

考えの具現化として、例えば、小学生も大学教員が育て、大学生も小学校教員が育てることがあつていいという問題提起がありました。これからのリベラルアーツがどこで育まれていくのか、生徒や学生たちと共に話し合い創造していきたい問いではないかと感じます。

自由組織を超えて学びを深める学習スタイルは、パラダイムシフトが突然起きるのではなく、各組織の制度設計、そして、私学間の連携など多くの教育現場の実験が実装され、その延長線上にあるのだらうと思います。この過程を我々が共有できることも重要ではないかと感じました。本号の特集は、これから社会をどう創造していくのか、という話でもあったことにお気づきのことと思います。本号は、多くの貴重な玉稿に支えられて読み応えのある冊子となりましたことに心よりお礼申し上げます。誠にありがとうございます。より多くの方の手に届きますことを願っております。

(服部)

●同志社広報委員会小委員会委員

ABC順・〇印委員長

- | | |
|-----------------------|------------------|
| 大学神学部助教 | 木谷佳楠 |
| 大学文学部准教授 | 山田徹 |
| 大学社会学部准教授 | 山田徹 |
| 大学法学部教授 | 勝山教子 |
| 大学経済学部教授 | 久保徳次郎 |
| 大学商学部准教授 | 内野雅之 |
| 〇大学政策学部教授 | 服部篤子 |
| 大学文化情報学部助教 | 深川大路 |
| 大学理工学部教授 | 稲葉稔 |
| 大学生命医科学部准教授 | 貞包浩一郎 |
| 大学スポーツ健康科学部准教授 | 海老根直之 |
| 大学心理学部教授 | 及川昌典 |
| 大学グローバル・コミュニケーション学部助教 | REGINE DIETH |
| 大学グローバル地域文化学部准教授 | SUSANNA PAVLOSKA |
| 女子大学文学部教授 | 山本裕樹 |
| 女子大学現代社会学部教授 | 大津正和 |
| 女子大学薬学部准教授 | 根本滋 |
| 女子大学看護学部准教授 | 片山由加里 |
| 女子大学表象文化学部教授 | 中井精一 |
| 女子大学生活科学部准教授 | 麻生美希 |
| 中学校・高等学校事務長 | 鎌田伸一 |
| 香里中学校・高等学校事務長 | 内山栄一 |
| 女子中学校・高等学校事務長 | 磯田信行 |
| 国際中学校・高等学校事務長 | 貴志浩行 |
| 小学校事務長 | 齋藤道子 |
| 国際学院事務長 | 堀岡英利 |
| 幼稚園教諭 | 竹中琴恵 |
| 法人事務部長 | 柳井望 |
| 大学広報部長 | 朝田邦裕 |
| 法人事務部校友同窓課長 | 矢田直人 |
| 大学広報部広報課長 | 矢田直人 |
| 女子大学広報部広報室広報課長 | 西西一郎 |
| | 渡邊 |

※職名は同志社広報委員会小委員会発足時のものです。

●編集協力 アルカダッシュ

●同志社時報の申し込み

・送料(ゆうメール着払い:1冊236円)のみのご負担でご購読いただけます。

・お申し込みは、綴じ込みハガキをご利用ください。

・宛先 〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入同志社大学広報課

同志社時報 第152号

編集人 服部篤子

発行人 八田英二

発行 学校法人同志社

同志社大学広報課同志社時報係

電話 (075) 251-3120

印刷所 株式会社 I T P

2021年10月1日発行



切り取り線

お手数ですが
63円切手をお
貼りくださ
い。

6	0	2	8	5	8	0
---	---	---	---	---	---	---

京都市上京区今出川通烏丸東入
同志社大学広報課 同志社時報係 行

『同志社時報』新規購読申込書 ご記入日： 年 月 日

（ふりがな） お名前	
ご住所	〒 - 電話（ ） -
いずれかに○をつけてください。 校友 ・ 同窓 ・ 父母 ・ 一般 ・ 教職員 （同志社 学校 年卒業）	
ご購読 希望	ご記入日以降の発行号から_____号まで 『同志社時報』は、年に2回（4月、10月）発行しています。 ※未記入の場合は、購読停止のご連絡があるまでお送りします。
送料 について	ゆうメール着払い(1冊 236円)で送付します。 ※現金や切手等での前払いは承っておりませんのでご了承ください。

切り取り線

ご提供いただきます個人情報は『同志社時報』の発送以外の目的には使用いたしません。
また、厳重なデータの管理を条件に発送業務を学外者に委託しています。

事務局使用欄	受 付	入 力

同志社教育の目的は、その神学、政治、文学、科学等に従事するにかわわらず、みな精神、活力あり、真誠の自由を愛し、もって邦家に尽すべき人物を養成するを務べきこと。

新島襄の遺言より

『同志社時報』に関するご意見・ご感想をお寄せください。

切り取り線

切り取り線

切り取り線



Doshisha college song

Words by W. M. Vories Music by Carl Wilhelm

One purpose, Doshisha, thy name
 Doth signify; one lofty aim:
 To train thy sons in heart and hand
 To live for God and Native Land.
 Dear Alma Mater, sons of thine
 Shall be as branches to the vine;
 Tho' through the world
 we wander far and wide,
 Still in our hearts thy precepts shall abide!

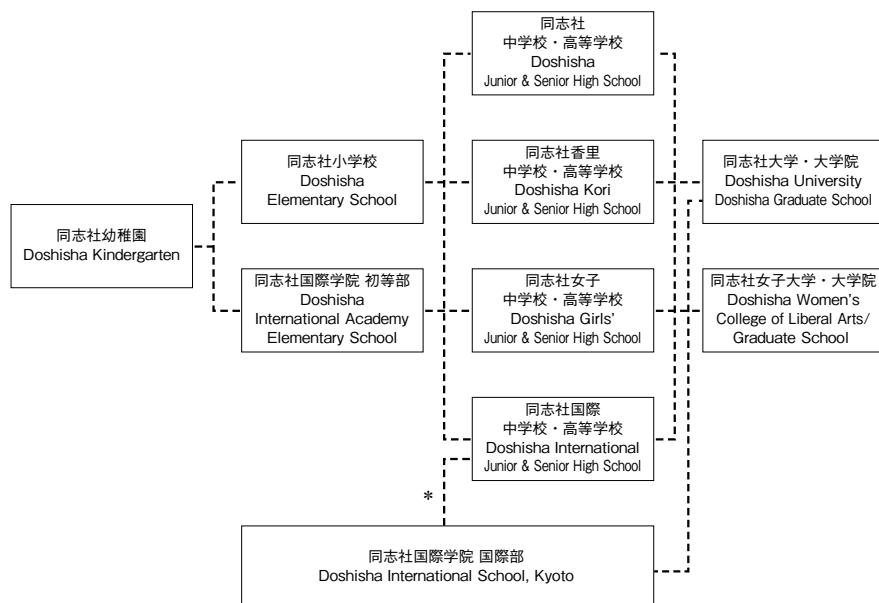
同志社よ、その名は一つの目的を意味する。
 その学徒の精神的、肉体的に、
 神のため、祖国のため、生きんという
 一つの崇高な目的を。
 親愛なる母校よ、同志社の学徒は、
 ぶどうの枝のごとくつながりゆくことであろう。
 たとえ、世界くまなく、広くはるかに、
 われらさまようと、汝の教訓は、
 われわれの心に永遠に生き続けるであろう。

(訳：児玉 実英)



同志社の一貫教育体制

The Integrated Educational System of the Doshisha



*一定の条件があります (帰国生の要件)

